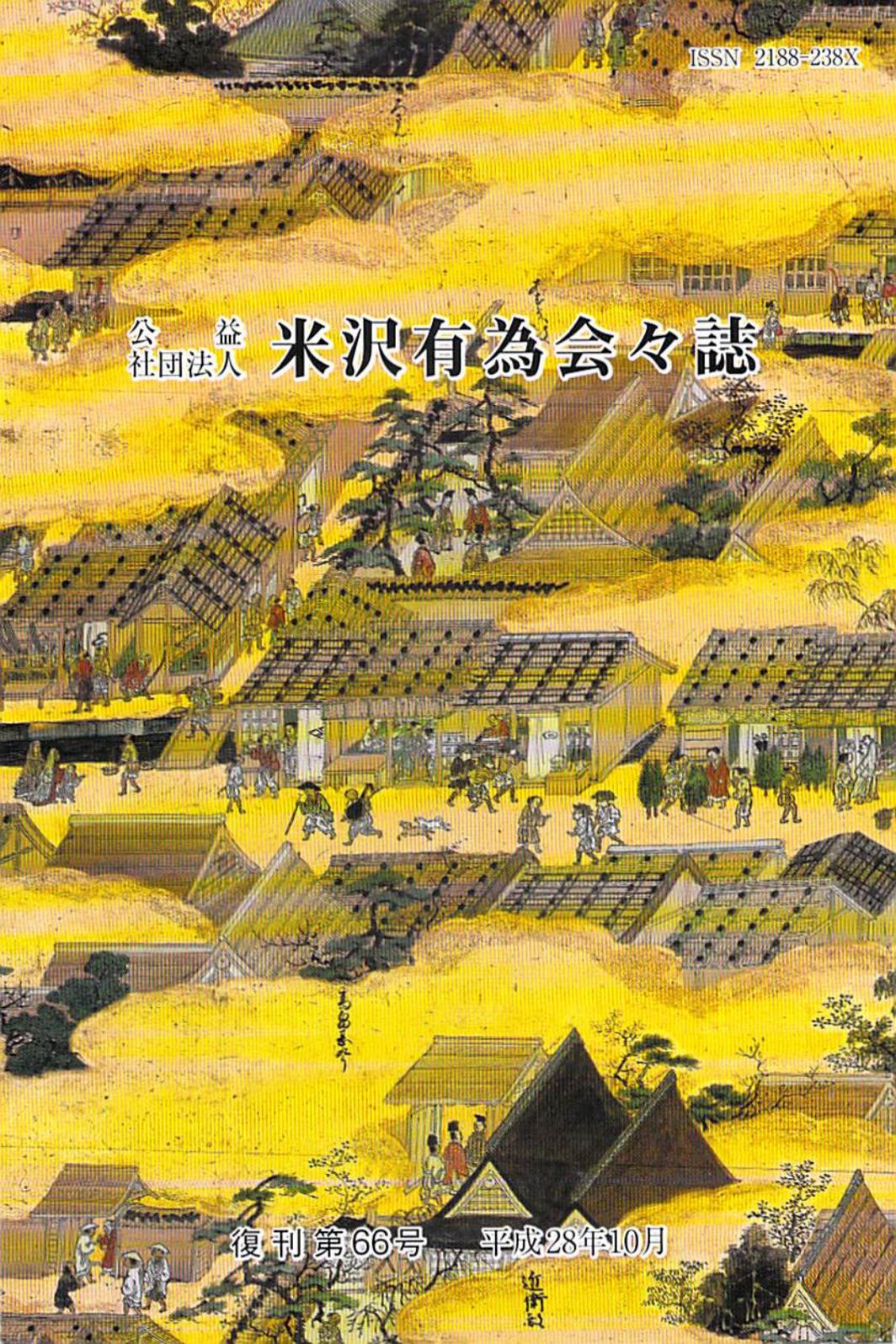


益人 益社 益法 益人
誌々會為有沢米

復刊第66号 平成28年10月

迎街

米沢





登録商標第1457084号



米沢牛販売店

日 本 橋 日 山

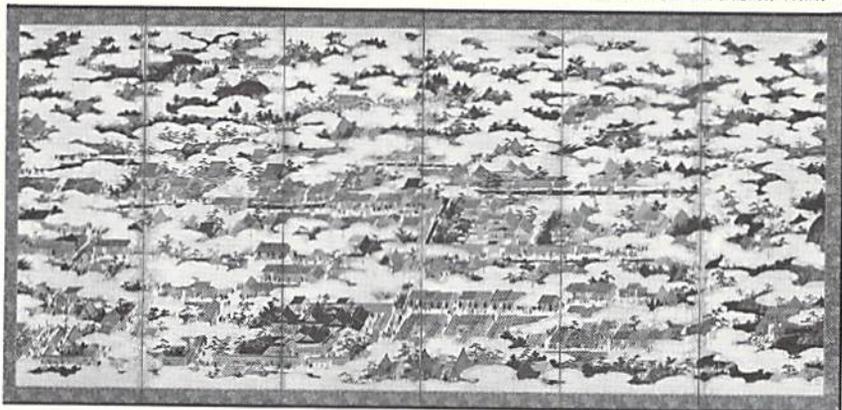
日本橋 日 山 本 店	中央区日本橋人形町2-5-1	
		TEL 03 (3666) 5257
ピフテキコーナー日山	中央区日本橋人形町2-5-1	
		TEL 03 (6661) 2904
すき焼き割烹 日 山	中央区日本橋人形町2-5-1	
(予約が必要です)		TEL 03 (3666) 2901
日 山 亀 戸 店	江東区亀戸5-1-1	亀戸駅ビルアトレ内B1
		TEL 03 (3638) 1129
日 山 池 袋 店	豊島区南池袋1-29-1	池袋ショッピングパーク内 B1F
		TEL 03 (3986) 0290

米沢牛銘柄推進協議会
山形おきたま農業協同組合

米沢牛出荷組合

〔表紙について〕

米沢市（上杉博物館）所蔵



〈タテ 160.4cm、ヨコ 365.2cm〉

表紙は、左隻4扇の正月を迎える下町の様子です。

国宝 上杉本洛中洛外図屏風

この屏風は、天正12年（1574）に織田信長が上杉謙信に送ったと伝えられるもので、狩野永徳の作とされる。京の市街地（洛中）と郊外（洛外）を高い視点から描いている。描かれている人物は2,400人を超えており、当時京の人口10万人と言われていたので約40人に1人の割合で描かれている。京都の町の一人一人が活気にあふれている様子が見える。一人として同じ格好の人はいない。

この屏風は平成7年国宝となり、上杉家文書が平成13年国宝となり、米沢に国宝が2点ある。

この切り取った絵は、京都の正月を迎える下町の様子が描かれている。門松を売る男に見定める女。餅をつく女。門付けをする芸人や犬に追われる琵琶法師など。ここの町屋は川の上に店を構えている。また公家屋敷では蹴鞠に興ずる数人が描かれている。

目次

ご挨拶	名誉会長 上杉 邦憲	4	置賜市町だより	68
新たな期を迎えて	会長 須貝 英雄	6	米沢市	68
本部活動報告		8	長井市	73
第一二九回定時総会報告		8	南陽市	78
文化講演会	我妻悦雄氏	13	高畠町	81
本部各部門の主要活動報告		17	川西町	84
私の志——二十八年度奨学生の作文——		25	小国町	88
支部だより		28	白鷹町	91
東京支部		28	飯豊町	94
米沢支部		31	トビックス	99
仙台支部		36	① 秦逸三の胸像序幕	99
北海道支部		40	② 「最大の木造コンサートホール」としてギネス世界記録認定	101
興譲館寮だより		42	③ 山形大学 x E V 飯豊研究センター竣工式	103
東京興譲館		42	置賜歴史短信	105
仙台興譲館		46	① 寒河江善秋「青年運動史に輝く巨星」	105
米沢有為会だより号外——学生寮紹介・学生募集——		49	② 旧高畠鉄道高畠駅舎群「国登録有形文化財」	109
我妻榮記念館だより		51	会員の広場	111
米沢有為会文化大学		56	「漆の実」発足十周年記念	111
第十六回 無私の人「池田成彬」ソンビンに学ぶ	種村信次氏	56	短歌同好会「古今小杉短歌会」の近況	118
第十七回 基礎科学と社会	西村 純氏	60	平成28年度(第71回)県民芸術祭・米沢巡回展より	119
第十八回 井上ひさしとこまつ座 そして私	井上麻矢氏	63	平成28年度(第67回)置賜地区高校美術展	122
第十九回 明治の建築家 伊東忠太 オスマン帝国をゆく	ジラルデッリ青木美由紀氏	65	郷土の本紹介	124
			賛助会員名簿	127
			公益社団法人米沢有為会役員名簿	129
			公益社団法人米沢有為会定款・細則	136
			本部・各支部事務所等所在地	159
			編集後記	160



ご挨拶

名誉会長 上杉 邦憲

米沢有為会誌六十六号の発刊に寄せて、一言ご挨拶申し上げます。

最近の有為会の活動は、一段と活発になっていると感じられ、これもひとえに理事・役員のご苦勞・ご努力と、会員の皆様のご協力によるものとお慶びするとともに篤く御礼申し上げます。

例えば、本年三月、米沢有為会の奨学金制度が、米沢市の返済事業対象になり、大学卒業後米沢市に居住且つ就職する新規応募者及び既貸与者に対象が限られるとはいえ、昨今様々な事情から奨学金返済に苦勞される方たちにとって、朗報と言えるのではないでしようか。

また我妻榮記念館の劣化改修工事が完了し、昨年十月に新たなる開館を迎える運びとなったのも、有為会会員皆様の多大な支援があったればこそと申せましょう。

さらに、調布の東京興譲館で開かれている文化大学も回を重ね、本年七月には第十九回

を迎えました。この一年間の演題・講師をHPでご覧ください。錚々たる講師の方たちによる素晴らしい講演が続き、有為会会員のみなならずもっと大勢の方にお聞きいただきたい講演ばかりでした。

特に今年七月十七日の第十九回文化大学では、「明治の建築家 伊東忠太 オスマン帝国を行く」の著者であるイスタンブール工科大学のジラルデッリ青木美由紀先生を迎えて、有為会創設者の伊東忠太博士の業績をお聞きする稀有の機会を持つことが出来ました。「建築」という言葉を創ったのが伊東忠太で、またオスマン帝国旅行中、頻繁に米沢有為会誌に報告を送っていた等、初めて伺うことの多い貴重なお話でした。

一方、本年の総会において、産業・教育功労者表彰とスポーツ・文化活動に優れた成績を収めた中高生への特別顕彰が行われましたが、その後の文化講演会で、産業功労賞受賞者の御一人である株式会社我妻組の我妻悦雄社長が「弘前城が動いた〜四〇〇トンの城を動かす曳家の伝統技術」と題する講演をなさいました。TVにも紹介された弘前城天守閣を七九mも移動させた技術は、東北に我妻組しかないと言われる「曳家」という特殊技術で、米沢人の誇りを大いに高めてくださいました。

紙面が尽きました。米沢有為会の今後ますますの発展を祈念してご挨拶といたします。



ふるさとへの支援を新たに

米沢有為会会長 須 貝 英 雄

つい最近久方ぶりにふるさとへ帰郷しました。暑いさなかでしたが、車窓から見る風景は、稲穂が風に揺れまさに懐かしいふるさとの田園風景そのものでした。改めてふるさとへの想いを強くする機会となり、連想するかたちで米沢有為会としてのふるさと置賜地域への貢献、継続の重要性を感じとった次第です。

社会経済状況を顧みると、世界的には不安定さが続き、国内的にも未だ一抹の閉塞感があるようにも思われます。そのような環境の中、私たち有為会は、さまざまなるふるさとへの支援事業として、①育英資金貸与事業および東京興譲館寮・仙台興譲館寮の運営事業から成る「育英事業」、②我妻榮記念館管理運営事業等の「学術施設管理運営事業」、さらに③表彰・広報事業や文化講演事業等から成る「教育・文化・産業振興事業」等の主たる事業を遂行してまいりました。「継続こそ力なり」とはよく言われる言葉ですが、まさし

くその意を守つてゆく決意を新たにする次第です。

上記主たる三事業に關連することですが、現在の奨学生の状況はよくマスコミでも話題になっていきますように、極めて厳しい状況となっています。貧しさゆえに大学にも行けない人たちの増加です。当有為会の奨学生応募における申請書の内容を見ても経済的に苦しい状況におかれている家庭が散見されます。私たちの事業を通じて、少しでもそれらの状況打破に寄与することを願つてやみません。また、奨学金貸与事業と並んで私たちの重要な事業である東京興讓館寮・仙台興讓館寮の運営事業については、近年、企業の採用活動において寮生活がさまざまな点で優位に評価されていることや寮生の経済的負担軽減に大きく寄与すること等の利点をさらに活かして、育英事業の促進を図つてまいります。

最後に、当有為会活動の基盤となる各支部活動の強化とそれを支える会員皆様の拡充について、いつもお願いしていることですが、より多くの会員獲得のために、家族・親戚・友人等に対して入会のお誘いを進めていただくことを特にお願いたします。当会の活動は多くの会員に支えられての活動です。今後の当会活動の強化のためによりしくご協力のほどお願いする次第です。

本部活動報告

定時総会及び付帯催事に関する報告

一、第三回(通算二二九回)定時総会の報告

公益社団法人米沢有為会の第三回(二二九回)定時総会は、平成二十八年六月二十五日(土) 十四時~十五時三十分、伝国の杜大会議室にて開催されました。今回も、置賜三市五町の首長、各高等学校長等をご招待し、数名の方にご出席いただきました。

議案審議に先立ち、名誉会長上杉邦憲様よりご挨拶をいただき、また、米沢市長中川勝様より市政報告を兼ねたご挨拶をいただきました。その後、新定款第一七条の規定により須貝英雄会長が議長となって開会を宣言し、直ちに議事に入りました。多くの議案が審議されました。新定款第三七条により事業計画書と収支予算書は、毎事業年度の開始の日の前日である三月三十一日までに理事会の承認を得て公益認定等委員会に提出しなければならぬこととされており、また、新定款第三八条により、事業報告は報告事項とされています。貸借対照表及

び損益計算書(正味財産増減計算書)の附属明細書並びに財産目録は、総会の議決により承認を受けなければならない議決事項となっています。

議事の概要及び審議経過は次の通りです。



第一号議案 平成二十七年事業・業務報告(報告案件)

配布の米沢有為会会報(以下「議案書」という。)記載の「平成二十七年事業・業務報告」に沿って平山英三総務部長より報告及び説明がありました。

第二号議案 平成二十七年決算及び監査報告(議決案件)

議案書記載の「平成二十七年決算報告」に沿って、鈴木信之財務担当理事より貸借対照表、損益計算書報告及び財産目録の詳細な説明があり、その後、伊藤秀太郎

監事より監査報告があり、採決の結果全会一致で承認されました。

第三号議案 平成二十八年度事業・業務計画(報告案件)

議案書記載の「平成二十八年度事業・業務計画」について平山英三総務部長より説明がありました。

第四号議案 平成二十八年度収支予算(報告案件)

議案書記載の「平成二十八年度収支予算」に沿って鈴木信之財務担当理事より説明がありました。

第五号議案 監事増員による選任の件(議決案件)

平山英三総務部長より定款第二一条第二項の規定により三名以内と定められている監事は、現在二名しか選任されていないが、適任者が得られたので増員したい旨の説明と、菅野憲幸氏(東京支部)を追加選任し、任期は他の監事と同じ平成二十九年定時総会終結時までとするとの提案を受け、採決の結果全会一致で承認されました。

第六号議案 平成二十六年度決算修正追認の件(議決案件)

鈴木信之財務担当理事より、昨年の総会で承認を受け

た平成二十六年度決算中、東京興譲館の改修のために積み立てていた資金を、工事に使用した額のみを取り崩し、残額を特定資産として残したが、全額を取り崩して残額を流動資産に変更するとの説明を受け、採決の結果全会一致で修正を承認されました。

○京都支部の解散(報告事項)

京都支部は高齢化等により会員の減少が進んでいましたが、菅野榮三前支部長の逝去、高橋雅雄支部長の体調不良等により後継者を求めていましたが、後継者が得られず、解散やむなしとの判断となり、非常に残念ではありますが平成二十八年五月に解散しました。

今後は、本部が会員の皆様に直接連絡して、会員継続意向を確認の上、会報・会誌の送付その他の事務を処理していくこととなります。

○感謝状贈呈

昨年定時総会時に米沢有為会の監事を退任された西澤榮一様に対し、長年にわたる功労に感謝し、上杉邦憲名誉会長および須員会長より感謝状と記念品を贈呈しました。なお、当日欠席のために郵送させていただきました。

二、功労賞、特別顕彰表彰式

本年度の本部表彰は、教育功労者一団体、産業功労者一個人・一団体、特別顕彰者二個人・一団体に決定し、それぞれ表彰状と記念品が贈られました。表彰式では上杉名誉会長から授与されました。

○教育功労者

川西町立玉庭小学校支援地域本部様

(実行委員長 大滝喜作氏)

玉庭小学校では、平成二十年度に文部科学省の委託を受けて「学校支援地域本部事業」の取り組みを開始した。それは専門的知識・技術を持つ地域住民の「伝えたい」、「教えたい」というニーズと、学校側の「専門的な学習の場を設けたい」というニーズをマッチングさせた「学習支援活動」である。

具体的には、地域内外の退職教員五名の方が、通年で国語・算数の指導をしたり音楽の授業を行ったり、また、様々な体験の場として米作りや、里芋・ネギなどの畑作の食農活動を行ったり、花(ダリア)の栽培、和太鼓の授業に力を入れて取り組まれた。

さらに、図書ボランティアの方々や図書の修復や、読み聞かせ、民話の語りを行っている。また、ブル清掃やワックスがけなどの環境整備や「玉庭あんしん隊」をつくり年間を通じて交通事故や不審者から子どもたちを守る活動を行っている。これら長期的で多彩な活動は、子どもへの教育をしつかりと支える地域と学校との素晴らしい連携活動となっている。

○産業功労者

乗原 晃様

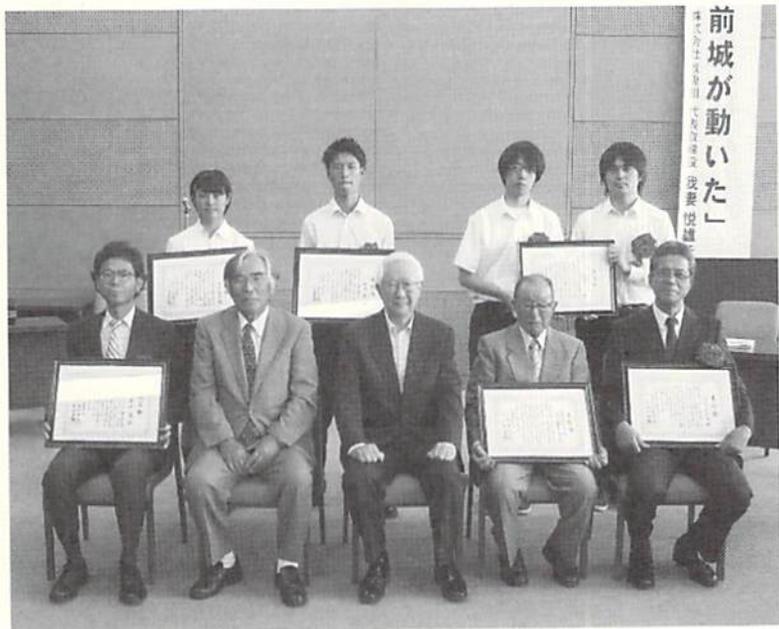
(株式会社ニューテックシンセイ代表取締役社長)

世界中で親しまれている玩具にブロックがあるが、そのブロックを氏が経営する会社の高い加工技術で木材を使用して開発し商品化されたものが「MOKULOCK」(もくろック)という玩具である。会社は電子機器組み立てメーカーであるが、その副業としてもくろックは生まれた。

誕生の経緯は、地元の自然を生かす道に目を向け、カエデやケヤキなど間伐材や家具等に使用するには不向きな使われぬ県産材が手に入ることがわかり、二〇〇九年に開発部隊を立ち上げて二年間の試行錯誤を経た結

前城が動いた

株式会社 我妻悦雄



果、二〇一一年に商品化にこぎつけた。その商品は京都高鳥屋が二〇一四年クリスマスから販売し、本物志向の人の支持を集めている。また、二〇一五年一月にパリ郊外で開かれた欧州最大級のインテリアや雑貨の見本市「メゾン・エ・オブジェ」に出展され、環境に配慮し、持続可能な商品をつくる企業に贈られる「グリーン・アイテナリー賞」を日本企業で唯一受賞され、まさに、国の内外から高い評価を受け続けている。

株式会社 我妻組 様（代表取締役 我妻悦雄氏）

日本には昔から建物を解体せずに移転させる「曳家」という技がある。我妻組はその伝統技法を受け継ぎながら独自に開発した技術を加えて発展させ、平成二十七年九月に、弘前城の修復にあたり、四〇〇トンもある天守閣を仮設土台まで七九mも移動させることに成功した。この驚くべき事業はマスコミでも大々的に取り上げられて一躍脚光浴び、多くの皆さんが知るところとなった。この特殊技術は、日本が誇るべき技であり、東北に我妻組しかないと言われている。先人が培ってきた技を次の世代へと継承していく職人気質にあふれた技術を持つ我妻組はまさに米沢の産業界の誇りである。

○特別顕彰

青木 彩乃様（川西町立川西中学校三年）

平成二十七年U-16ジュニアユースホッケー日本代表に選出され、オーストラリアでの国際交流世界大会にゴールキーパー、副キャプテンとして出場し準優勝に貢献した。

飯澤 丈様（川西町立川西中学校三年）

平成二十七年U-16ジュニアユースホッケー日本代表に選出され、オーストラリアでの国際交流世界大会にフォワードとして出場し第七位入賞に貢献した。

山形県立米沢興譲館高等学校二年男子チーム様

八名から成るチームで第五回科学の甲子園全国大会に出場し、実技競技（生物）の部で第一位に輝きトヨタ賞を受賞された。

興譲館高校はSSH（スーパーサイエンスハイスクール）の指定を受けており、今回の受賞は日頃の研究活動の成果が発揮されたものである。二年連続での全国大会出場、しかも、今回の受賞は山形県で初の快挙である。

※所属、学年は平成二十七年現在のものです。

三、文化講演会

今年の文化講演会は、産業功労賞を受賞した我妻組社長の内妻悦雄氏である。

四、総会懇親会

講演会終了後、上杉伯爵邸において講師を囲み和やかに懇親会を開催しました。



米沢有為会総会文化講演会

開催日：平成二十八年六月二十五日(土)

会場：伝国の杜 二階 大会議室

講師：我妻悦雄氏

(株式会社我妻組代表取締役社長)

「弘前城が動いた」四〇〇トンの 城を動かす曳家の伝統技術



一、曳家とは？

建物を壊すことなくそのままの状態で移動する工法を云います。この頃は、建物だけでなく、大きな樹木や石・橋等を移動のみならず、持ち上げ傾きを修正する工事等も含めて曳家と呼ぶことがあります。

曳家の歴史は、ピラミッド等で知られる古代エジプト文明から始まりました。紀元前三千年頃からそのルーツ

があり今に伝わっています。

その技術の原点は、テコとコロによるものです。このテコとコロが、まさに五千年の歴史を経て弘前城の曳家に結びついています。

二、どうやって城を動かしたのか？

弘前城は、現存する一二天守の内、いちばん北にある城で、津軽氏の居城として藩祖為信公により計画され、二代藩主信枚公により慶長一六年（一六一一年）に完成しました。築城以来、五層の天守の落雷消失や本丸御殿の解体など、幾多の変遷があったものの今なお三重の濠や天守を含む四つの櫓、五つの城門等が現存する貴重な文化遺産です。

着工前、弘前城本丸の石垣が外側に膨らむ「はらみ」が見られ、大地震が発生した場合、崩壊する危険性があると指摘されていました。その石垣修理のため総重量四百トン・高さ一四、四メートルの天守を四ヶ月かけて八十メートル移動することになりました。

百年に一度の大工事、当然世間からも注目の大きいものでした。しかしながら、現場は難問山積みで、築二百年、設計図は残っておらず、構造が把握できない。さらに壁はひび割れ、老朽化も著しい。そんな状態の天守を

傷つけることなく無事に移動できるか、多少の不安もありました。実は、弘前城天守は約百年前に、同じような石垣改修のため曳家されていきました。百年前の職人が守り抜いた天守を、果たして自分たちは守り抜くことが出来るのか。二百年前に築城されてから今日に至るまでの、多くの人々の思いを後世に伝えていくためにも、失敗は許されません。

曳家では、建物を横方向に移動させる、いわゆる曳きの工程よりも建物を持ち上げる工程の方が難しいのです。建物は、年月を経るうちにその重みで柱や土台が沈み込み、全体が歪んでいることが多いため、歪みを直して水平に戻しながら持ち上げなければなりません。設置した数多くのジャッキを利用して持ち上げていくとき、少しでも圧力のバランスを掛け違えると、建物が壊れてしまいます。このような歪みを直すにあたっては、建物の構造や柱の太さ・強度、地盤の硬さ等を調べ、何処にどれだけの圧力を掛けるべきかを考えることが重要となります。

この世に二つとない重要文化財の建物、弘前城の天守、壊してしまえば一巻の終わり、長い年月を経た建物には、人々の思いや愛着が積み重なっています。壊して

しまえば、そうした想いも無くなってしまう、だからこそ建物と一緒に人の想いも動かしていると思って仕事をさせていただきました。

【弘前城が動いた様子を伝えるNHKの映像(DVD)を上映】

三、なぜ我妻組が選ばれたのか？

代表取締役である私の考え方も影響しているのかなと思っています。私は、「小さいとき若いときの苦労は買つてでもやれ」と教えられました。その後、「苦難福門」つまり苦難は幸福の門であると云う諺を教えてもらい、簡単に楽を選ぶより少し苦労してでも後での大きい楽しみを選ぼうとする性格でした。

生まれる時の運命は、当然自分では決められません。私は、昭和二十二年、東置賜郡中郡村堀金で父四十八歳、母四十七歳の九番目の子として生まれました。父は二歳の時に他界、母は五歳の時に半身麻痺の身体となり、親に頼れない条件が確定しました。でも考え方次第では、頼るものが少ないと云うことは、後々の私にとってはラッキーでした。

高校はアルバイトをしながら米沢工業高校土木科に通い、卒業後は運輸省（現在の国土交通省）に入り、昼働きながら夜は日本大学理工学部に通いました。



若い時は何を
やっても勉強に
なりますが、特
に寮生活は、私
の人生に大きな
ものを与えてく
れました。政治
の話、経済の話、
彼女の話、田舎
の話等、夜が更
けるのを忘れて
話したことを思
い出します。そ
の時の仲間は、
五十年たった今
でも親しい友人
です。

卒業後は、わざと苦難に立ち向かうがごとく役所を辞
め、大手建設会社に移り三十歳まで働きました。

その後、良縁に恵まれ結婚しました。「米糠三升あれば
婿には行くな」と云う諺があった時代、私は、苦難福門

の考えや人としてあるべき姿などを考え、女房の気立て
に惚れ込み、我妻家へ婿入りしました。当然のことです
が、家柄とか財産など無関係でした。義父母は、損か得
かで動く人ではなく、人の道として嘘か誠かで動く人
だったことも幸いして、曳家我妻組が続くことになりま
した。貧しいながらも順風満帆の生活でしたが、私の苦
難に突入する行動は変わりませんでした。人のできない
こと、人のやらないことを求め今まで置賜一円で生業と
していた曳家を、仙台、東京方面に足を伸ばすこととし
ました。曳家工事に加えて建物が下がった場合のレベル
修正と地盤補強工事も行いました。

弘前城の工事も他社では、真似できない工事の一例で
す。主要な資機材は、自分たちで考案し自分たちで造り
ました。そのため会社の倉庫には、他社には無い道具類
でいっぱいです。道具が一流なだけではダメです。私共
の会社には、先ほどのDVDに出演した工事部長の石川
憲太郎君をはじめ、若くてヤル気のある前向きな人が多
いことも自慢です。自分さえ良ければと考える人が多い
中、会社のため、お客さんのためと思っている宝物の社
員が大勢いることを誇りに思っています。彼らを、我妻
組という媒体と郷土愛を背景に、人材育成することを私

の集大成と位置づけし、行動しているところです。

以上のことが微妙に共鳴し、私共が弘前城の移動のお手伝いに選ばれたのかなと考えています。

四、経済効果

弘前城改修工事の代表者である葛西憲之弘前市長は、前向きな考え方の持ち主で、今回のような工事中のマイナス要因をプラス要因に変えようと一生懸命でした。普通なら工事範囲をバリケードで隠すところをわざと見物台を設置して、皆に公開しました。又、工事の区切り日に地切式、曳家ウィーク、着座式等のイベントを行いました。

特に曳家ウィークでは地元や全国から約三万人を集めて、代表者約四千人の方に交替で城を引いてもらいました。勿論、子供たちも多勢参加しました。五十年後にこの子供たちが、「昔、この城を引いたのだよ。」と孫たちに自慢する姿が目につきました。

期間中の来訪者は、九月から十一月時点で平年の二・六倍とのことでした。因みに平年は、三ヶ月間で約四万五千人だそうです。今回は、十二万人だったそうです。皆さんがよく耳にする経済効果の正式発表はありませんでしたが、広告効果で約二十五億円とのことでした。地元の人々の間では、約四十二億円の経済効果があった

との話を耳にしました。

何にも増して、弘前市民の郷土愛の高まりはお金に換算できない偉大なものだったに違いありません。

五、おわりに

質素儉約を旨とし、人を育てることに力を注いだ名君上杉鷹山公の里米沢、そこで生まれた我妻組が、国の重要文化財である弘前城の移動の仕事を任せていただけたことは、とても晴れがましく名誉なことと思っています。

しかし、これは自分たちだけの力で出来た訳ではありません。多くの先人達の導きがあったからです。それに加え、社員の努力、弘前の人々の協力があったからこそ成し得たものです。

私は、この世界に誇れる匠の技にますます磨きをかけ、末永く後世に伝えることをお約束いたします。それが私に課せられた使命であります。

本日は、私のつたない話に最後までお付き合いいただき誠にありがとうございます。

米沢有為会並びに会員の皆様の益々のご発展をお祈りいたします。

◎本部各部門の主要活動報告

○総務部

一、平成二十八年定時総会時の役員改選により、理事が若返りました。まだお仕事をしている方が多くなりましてので、ウイークデーに行ってきた理事会を土曜日、日曜日に開催しています。女性理事も従来の一から二人に増え、今後の女性会員の増加や活躍が期待できると思います。

二、京都支部が解散しました。公益法人移行により理事が半減したため、理事のいなくなった京都支部と北海道支部との連絡調整が不足がちなことから、こちらから北海道支部と京都支部に赴いて支援することとなり、北海道支部には会長が訪問し有益な話し合いがなされました。京都支部は副会長が今年六月の支部総会時に訪問して相談することにしていたところ、支部解散のご連絡が届きました。高齢化が進んで会員が減少しており、菅野榮三前支部長の逝去、高橋雅雄支部長の体調不良のなか、なかなか後継者が得られないこともあって、やむを得ないことではありますが、残念な結果となりました。

三、公益移行後は毎年度終了後三か月以内に総会の承認を得た決算書類を提出するとともに、運営組織及び事業活動の状況や貸借対照表、損益計算書等を基に収支相償、公益目的事業比率、遊休財産保有の制限等の公益認定の基準に適合していることを記した報告書を提出しなければなりません。この報告書は移行認定申請の書類とほぼ同程度のものであり、その作成を担当している総務担当と財務担当は、相当量の複雑で困難な作業を抱えることになっています。また、後日、内閣府から内容についての審査や指導があり、そのため、遡って決算書類の修正をお願いする事態が続いています。今後このようなことのないように努力するとともに、引き続き事務局体制を複数配置などで強化し、また、財政基盤強化のためにも会員の増強を進めていく必要がありますので、よろしくご協力をお願いいたします。なお、平成二十九年二月一日には内閣府の実地検査が行われることになっています。

四、平成三十年は、創立百三十周年の記念の年でありますので記念行事や記念事業を検討しています。ご意見やご要望、またアイデアなどをお寄せください。なお、その財源として寄付のお願いをいたしますが、現在、

公益法人に対する寄付金の所得控除に加えて、寄付金額のほぼ四割が還付される税額控除適用をお認めいただいておりますので、この仕組みを活用していきたいと願っています。

五、永年、財務を担当してこられた鈴木信之理事が、総会後、ご事情により辞任されました。財務の業務はこれからも参事として担当していただけることになっていきますが、今後の対応を検討しています。

なお、現在総務部長は、副会長の平山が引き続き兼務していますが、総務部長の適任者を求めておりますのでご推薦いただければ幸いです。よろしくお願ひします。

○育英事業部

本会の公益事業の中核をなす育英事業（主に学生寮運営事業、奨学金貸与事業）について報告します。

育英事業の募集についての地元高校の保護者・生徒への説明会（学生寮説明を中心に）を、伊藤和夫理事のもと継続しております。昨年の実施高校は、実施順に、米沢中央高校、米沢興譲館高校、南陽高校、長井高校、米沢東高校の五高校でした。

二十八年度の育英資金貸与生・学生寮入寮生選考結果

は別表1とおりです。

奨学金貸与生選考の報告と課題

大学生五名（一年生三名、三年生一名、大学院一名）の応募があり、三月二十六日米沢市置賜総合文化センターでの教育委員による面接、二十九日本部理事会審議を経て、面接者全員が合格となりました。合格者の応募時の作文「私の志」を後掲しています。

奨学金制度の質的向上を目指す必要があると考えています。給付型奨学金の一部導入などを検討する計画です。

学生寮入寮生選考の報告と課題

東京興譲館寮は募集七名に対して三名、仙台興譲館寮は募集六名に対して六名を選考しました。東京興譲館寮は、募集人員を満たせず、継続募集としました。結果、二名が以後入寮しました。

仙台興譲館は大規模改修を行い、それが応募者増につながったと考えています。東京興譲館についても、今年度は長期計画にそって改修を予定しています。

来年度の募集要項の概要

今年度の募集要項の概要は、別表2のとおりです。有為会会員の皆さまには、心当たりの学生さんがおられましたら、ぜひ勧誘・推薦して頂ければと存じます。

(別表1) 平成二十八年年度奨学金貸与生・学生寮入寮生選考結果

1. 育英資金貸与生

	氏名	大学・学部・学科	学年	出身高校・大学	出身地
1	今野 莉妃	東北福祉大学総合福祉学部	1年	南陽高	白鷹町
2	斎藤 恭兵	千葉大学工学部3年次編入	3年	鶴岡工業高専	米沢市
3	二瓶 太陽	東北福祉大学総合マネジメント学部	1年	米沢東高	米沢市
4	紺野 雄太	山形大学医学部	1年	米沢興譲館高	川西町
5	岩瀬 宏紀	東北大学大学院 修士課程経済・経営研究科	1年	米沢中央高 国士館大	米沢市

2. 学生寄宿舎入舎生

① 東京興譲館

	氏名	大学・学部・学科	学年	出身高校・大学	出身地
1	大亀 雅秀	明治大学商学部	1年	米沢東高校	米沢市
2	中村 大真	東京外国語大学言語文化学部	1年	大学検定	鶴岡市
3	五十嵐 篤志	東京外国語大学国際社会学部	2年	山形東高校	山形市
4	中川 陸	国学院大学文学部	2年	米沢興譲館	米沢市
5	柏倉 全一	早稲田大学大学院 修士課程政治学研究科	1年	立山形南大 教南大高 学校	寒河江市

② 仙台興讓館

	氏名	大学・学部・学科	学年	出身高校	出身地
1	伊藤 真 蒼	東北大学工学部	1年	米沢興讓館高校	米沢市
2	二瓶 太陽	東北福祉大学総合マネジメント学部	1年	米沢東高校	米沢市
3	宮田 直輝	東京IT会計専門学校仙台校	1年	置賜農業高校	川西町
4	山路 啓太	東北大学法学部	1年	米沢興讓館高校	川西町
5	山本 慎一郎	東北大学工学部	1年	米沢興讓館高校	米沢市
6	中嶋 隆之介	東北福祉大学健康科学部	1年	米沢興讓館高校	米沢市

(別表2) 二十九年度の育英事業募集要項の概要

- 詳しくは米沢有為会ホームページ (<http://www.yonezawa-yuukai.org/>) をご覧下さい。
 1. 米沢有為会奨学生募集要項

募集人員	5名程度
応募資格	<p>置賜地域3市5町の在住者または出身者の子弟で、以下の条件をすべて満たす者</p> <p>(1) 平成29年4月大学入学予定者または在学生</p> <p>(2) 健康かつ学業優秀で将来性ある者</p> <p>(3) 経済的理由により就学が困難である者</p> <p>合格発表前の応募可</p>

貸 費 金 額	月額4万円(年額48万円)(無利息) 返済:貸付終了翌年度より年額18万円
面接選考日・場所	平成29年3月25日(土) 置賜総合文化センター

2. 興譲館寮生の募集要項

寮 名	所 在 地	應 募 資 格	募 集 人 員	寮 費 (月 額)	面 接 日 ・ 場 所
東京興譲館寮	東京都調布市(新宿駅より約40分)	東京及び東京近郊の大学、短大、専門学校及び大学院に進学または入学予定者(男子のみ)	7名程度(定員24名)	全室個室、2食付き光熱費・水道代等を含む 4~6月、10~11月 48,000円 7~9月、12~3月 49,500円	1月15日 東京、3月11日 米沢、 3月24日 東京
仙台興譲館寮	仙台市青葉区(中心市街地まで約3km)	以下の条件のいずれかを満たす者 (1) 置賜地域3市5町の在住者または出身者の子弟 (2) 有為会会員1名以上の推薦を受けた者 合格発表前の応募可	4名程度(定員15名)	夏季 42,000円前後 冬季 44,000円前後	12月18日 仙台、2月18日 米沢 3月11日 米沢、3月26日 仙台

○地域・教育振興部

当部は、教育及び産業の振興に関する事業を担当し、事業を遂行するために各種表彰に関する諸事務を行いました。表彰は大きく二つあり、(一)教育文化功労者表彰と産業功労者表彰、そして、小・中・高校生対象の各種大会・競技会において優秀な成績をおさめた者に対する特別顕彰者表彰、(二)高等学校卒業生表彰です。

(一)については、前年度末に、米沢支部事務局より、置賜地区3市5町の教育委員会、小・中・高校長会、産業振興関係部・課、商工会議所、米沢有為会支部理事などの関係機関・団体等に候補者の推薦を依頼しました。推薦いただいた内申書に基づき、教育振興担当と米沢支部教育部、地域振興担当と米沢支部産業部において候補者を選考し、本部表彰者は本部理事会において、また、米沢支部表彰者については米沢支部理事会で決定しました。本部表彰は本部総会において、米沢支部表彰は米沢支部総会において行いました。

今年度は、教育功労者として川西町立玉庭小学校学校支援地域本部、産業功労者として株式会社ニューテックシンセイ代表取締役社長の乗原 晃氏と株式会社我妻組様、特別顕彰者として川西町立川西中学校三年の青木彩

乃さんと飯澤 丈さん、山形県立米沢興譲館高等学校二年男子チームを本部表彰いたしました。当誌の本部活動報告の中で詳しく紹介しております。

また、(二)については、置賜地区内の十四の高等学校のうち基督教独立学園高等学校を除く十三校から各校一名の推薦を受けて本部理事会で表彰者を決定しました。そして、米沢支部教育部員が各高等学校を訪問し校長に表彰の伝達をお願いして実施しました。

二十七年高度高等学校卒業生表彰(二十八年二月三月表彰)

郷土の人材育英支援事業の一環として、学業、部活動、生徒会活動等で特に優れた卒業生を表彰しました。

今年度の表彰者は次の通りです。

古山 京佑	米沢興譲館高等学校	(米沢市)
梅津 真子	米沢商業高等学校	(飯豊町)
猪股 知華	米沢工業高等学校	(南陽市)
間山 美空	米沢東高等学校	(米沢市)
後藤 剛	米沢中央高等学校	(高島町)
茂木 意	九里学園高等学校	(東根市)
長岡 里奈	南陽高等学校	(長井市)
安部菜美子	長井高等学校	(長井市)

生井さつき 長井工業高等学校 (川西町)

高橋 亜紀 置賜農業高等学校 (川西町)

大石 桃菜 高島高等学校 (米沢市)

竹田 香澄 荒砥高等学校 (白鷹町)

高橋 咲 小国高等学校 (小国町)

○文化広報部

文化広報部は有為会誌の発行を主担当としておりますが、有為会ホームページの更新もしております。また有為会は育英事業を主体とした団体でありますから、奨学生の募集や東京仙台にあります興譲館寮の入寮者募集の広報に取り組んでいます。学生募集については進学校の進路説明会の折時間をいただき募集説明をしています。その時の募集号外を、○○○部ほど作成しています。

会誌は六十六号を作成しており、部員が分担して原稿を集めています。また市町だよりや広告主への広告依頼については米沢支部文化広報部のご協力をいただいております。歴史短信やトビックスについては市町だよりの原稿と重ならないように部長が記事を依頼したり取材して書いてあります。皆さんからの情報をお願いしているところです。

管内高等学校校章



県立米沢興譲館
高等学校



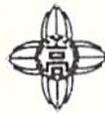
県立米沢東
高等学校



県立米沢工業
高等学校



県立米沢商業
高等学校



県立置賜農業
高等学校



県立南陽
高等学校



県立高島
高等学校



県立長井
高等学校



県立長井工業
高等学校



県立荒砥
高等学校



県立小国
高等学校



基督教独立学園
高等学校



学校法人九里
学園高等学校



学校法人米沢
中央高等学校

置賜地区等高等学校卒業生の寄宿舎
奨学制度利用者 4年間推移表

平成28年9月現在 (総務部調べ)

	H25年			H26年			H27年			H28年			合計(名)		
	東京興譲館	仙台興譲館	奨学金貸費												
米沢興譲館	2	4	2	3		4	3	4	2	1	4	1	9	12	9
米 沢 東	1	1							1	1	1	1	2	2	2
米 沢 工 業		1											0	1	0
米 沢 商 業		1											0	1	0
九里学園													0	0	0
米 沢 中 央												1	0	0	1
長 井		1	1										0	1	1
長井工業		1											0	1	0
荒 砥													0	0	0
南 陽				1		1						1	1	0	2
高 畠													0	0	0
小 国													0	0	0
置賜農業				1							1		1	1	0
山形東							1		1	1			2	0	1
山形南							1			1			2	0	0
山形中央				1									1	0	0
日大山形							1						1	0	0
山形工業													0	0	0
基督教独立学園	1			2			1						4	0	0
そ の 他	2	1		1						1		1	4	1	1
計 (名)	6	10	3	9	0	5	7	4	4	5	6	5	27	20	17

私の志

二十八年度奨学生作文

少子高齢化問題の解決をめざす

岩瀬 宏 紀

私の志は二つあります。一つ目は「学問」で、修士二年間で達成することです。二つ目は「少子高齢化問題に関すること」で人生をかけて取り組むことです。学問へは、人生で成し遂げる少子高齢化問題の解決のために、修士課程の二年間での研究を通して専門的な知識と論理力、さらに人の声を聞くために必要な対話力などを育むために徹底的に打ち込みます。次に、少子高齢化問題を解決したい理由を個人的な観点から二点を述べます。それは小学校の社会科で教わった少子高齢化問題が大学四年生の今でも特別進展もなく存在する危険な違和感と、職業的安定と金銭的安定を獲得するためという動機により、優秀な学生が公務員になってしまおうという現実への苛立ちという二点です。以上が少子高齢化問題を解決し

たいと考える動機で、修士二年間で学問と研究をする上での原動力でもあり、私の志の活力源です。

患者の希望や笑顔を取り戻せる 医師をめざす

紺野 雄 大

私は将来医師として山形県内で働き、自分が生まれ育った故郷に恩返しをしたいと考えています。しかし、そのために必要な様々な力が自分にはまだまだ不足していることを実感し、理想の自分と現実の自分に差異を感じています。六年間の大学生活を通してそのギャップを埋めるべく、次の二つについて特に日々精進していくつもりです。

一つ目は、学生の本懐である、勉学です。他人と比較、競争するのではなく常に今の自分よりも前進する、その心を持って深い教養と知識を身につけていきます。二つ目は、積極的に海外に行くことにより、自分の視野を広げようと思います。異なる文化や価値観に触れ、多角的

な物の見方が出来る、厚みのある人間を目指します。

私の理想の医師とは、患者の生きる希望や笑顔を取り戻すことができる医師です。そうなるために、これからも自分出来る精一杯の努力と挑戦を続けていこうと思います。

子供達に信頼される 養護教諭をめざす

今野 莉 妃

私は将来、養護教諭を目指しています。きっかけは、部活動の顧問の先生との出会いでした。部員の誰一人も見捨てないで向き合ってくれたこと、悩んだ時の暖かい言葉、立ち向うことへのサポートをして頂き、私も先生のような人間になり、人の心を支える仕事をしたいと思ったからです。

養護教諭になるために、大学に進学し、心理学や養護学など、幅広い知識を身につけるために勉学に励みます。さらに、ボランティア活動に積極的に参加すること

で、奉仕の心を豊かにします。また、ボランティア活動の中で、通学路の横断歩道の誘導などに取り組み、少しでも子供とふれあう機会を増やしていきたいと考えています。

大学では、養護教諭志望者の選抜試験が行われるため、しっかりと勉学とボランティア活動の両立に励み、将来多くの子供達の心のサポートをしていける人間になれるよう、日々の努力に努めていきます。

誰にも使いやすい情報社会の 実現をめざす

齋藤 恭 兵

現代では、情報が非常に多く存在し、技術の進歩も急速に進んでいる。また、パソコン・スマートフォン・インターネットなどが普及し、これらを使いこなせれば私達の生活はより便利に豊かになる。しかしこのような道具を使うことが出来るのは限られた人しかいないように思う。特に高齢者や障害者などがそうである。操作方法

が複雑になり、直観的に操作が出来ないからだ。

私は鶴岡高専の卒業研究で無人航空機を用いた農場管理システムの研究を行った。これは無人飛行機を自動運転させ、農場や作物の情報を集めるというものである。

この研究の背景にも高齢者が効率的に農場管理を行えるようにするねらいがある。

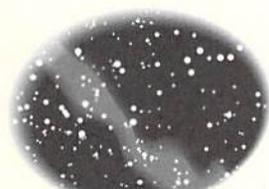
大学編入後は基礎知識を更に増やし、情報処理の分野について深く学び、誰もが使うことが出来、生活が豊かになるような研究をしたいと考えている。

地域の活性化をめざす

二瓶 太陽

私は、この米沢で約十八年間過ごしてきましたが、四月からは大学生となり宮城に住むことになりました。東北福祉大学で四年間学び卒業した後は、ここ米沢に戻り地元企業や公務員に就きたいと考えています。地元企業に就職した時は、米沢を活性化させ、さらに米沢だけでなく山形県の活性化につなげていきたいと考えます。

公務員に就職した場合は、市役所等に就き地域の活性化につなげていきたいと今は考えています。これからの大学生生活は生まれ育った米沢を離れ、多くの人や物が集まる仙台での生活がはじまります。今までとは全く別の考え方と出会い、これまでの自分の考え方や物の見方などを、より広く、深くしていきたいです。そうすることで自分の新たな可能性を発見し、社会や地域で活躍できる機会を増やしていきたいです。またさまざまな集団の中で、後ろをついていくだけでなく、積極的に前を行くような人になりたいと考えています。



山形県立福祉大学

支部だより

東京支部

平成二十七年年度の主な行事の活動報告

▼支部総会・懇親会

平成二十七年年度東京支部総会と懇親会・歓迎会は、六月十四日に「スクワール麹町」三階の華の間で開催されました。

第一部の「定期総会」は沼澤研一副支部長が議長となり平成二十六年度の事業及び決算報告、平成二十七年年度の事業計画(案)及び予算(案)が承認されました。また理事・監事任期満了に伴う改選案も承認されました。

第二部の「懇親会・歓迎会」は、ご来賓の上杉邦憲名誉会長と須貝英雄会長よりご祝辞を頂きました。その後、新入舎生七名の自己紹介と抱負を述べてもらいました。さらに長年(株)富士通の第一線で活躍して来られた五雲寺卓様からも励ましの言葉を頂きました。学生に対して、コミュニケーション能力の向上と学生・院生時代に自分が打ち込めるテーマを見つけることの大事さと寮で過こ

せることに感謝の気持ちを持ちなさいと話して下さいました。続いて、名誉会員の下條泰生様のご発声で乾杯し懇親会に入りました。鈴木信之副支部長の一本締めで盛況のうちに終了しました。

▼芋煮と地酒を満喫

この年の園遊会は、小石川後楽園の涵徳亭で十一月一日に開催されました。天気にも恵まれ絶好の園遊会日和となりました。受付開始を三十分遅くして会場準備に余裕を持たせました。後楽園の紅葉も美しく、それを楽しむ人も多かったです。定刻に林常子理事の司会で始まりました。加藤国雄支部長よりご来賓の上杉邦憲名誉会長ご夫妻



と下條泰生名誉会員および和田豊山形育英会業務執行理事の紹介がありました。支部長挨拶の中で、小惑星探査機「はやぶさ2」の地球スイングバイを取り上げました。地球の引力を利用して進路を曲げて加速する方法です。この方法により探査機はほとんど燃料を使わないで狙った軌道にのせることが出来ました。次に国民歌「最上川」を斉唱しました。上杉邦憲名誉会長より祝辞をいただきました。その中でJAXAの事業はチームワークが大切であると話されました。「こうのとりの翼」がNASAの厳しい基準を満たし見事に国際宇宙ステーションにドッキングすることに成功しました。また探査機「あかつき」の数万通りもの軌道を計算し最適な金星周回軌道への投入法を導き出した。これらの成功の秘訣を述べられたものだと思います。続いて、下條泰生名誉会員の音頭で乾杯をして懇談に入りました。五雲寺卓理事より、今年の新入賛助法人会員の林直司様を紹介され、自己紹介してもらいました。久しぶりに法人会員を迎える事が出来ました。支部活動の活性化のためにも嬉しい事です。山形の地酒やワインを味わいました。米沢から材料を取り寄せた芋煮や玉コンニャクの味はいかがだったでしょうか。郷里の物産の販売は、昨年入会された実行委員の板垣史



朗理事や澤田美根子様を中心にやってくださいました。昨年の反省から菓子類を減らし、売れ筋の「鯉の甘煮」や「ワイン」などの品物を増やしました。御蔭で、完売でした。お楽しみの抽選会では、最後の一等賞は会員の山本優美子様のお伴者が獲得されました。その後、全員で唱歌「ふるさと」を斉唱しました。川合勝雄副支部長の閉会の挨拶と一本締めで散会しました。出席者の人数は学生を含めて八十六名でした。今年の特色は、お伴者の人数が多かったことです。ほぼ全員の寮生諸君が出席して、運営のお手伝いをしてくださいました。実行委員の皆様ご協力有難うございました。

▼支部新年会・予餞会

平成二十八年二月十三日に「スクワール麹町」で、出

席者五十四名の会合となりました。佐藤憲一理事の司会で加藤国雄支部長の挨拶の後、上杉邦憲名誉会長さらに須貝有為会会長よりご祝辞を頂きました。館長より今年の寮卒業生は、一名だけですが、進路が決定の報告がありました。その学生の小形悠介君に、自己紹介と抱負と謝辞を述べてもらいました。国立国会図書館長の大滝則忠様から卒業生や在寮生に対する励ましの言葉を頂きました。その後名誉会員下條泰生様ご発声で乾杯し祝宴に入りました。五雲寺卓



理事より新入会員の加藤正憲様の紹介があり、本人から自己紹介していただきました。鈴木信之副支部長の中締め挨拶で終了した。

▼東京支部会員数（平成二十八年九月現在）

正会員数 一一九名

賛助会員数 一七九名

法人賛助会員数 四社

▼訃報会員

ご生前のご協力に感謝申し上げます、ご冥福をお祈りいたします。

（一）内は命月

高橋 廣様	（平成二十七年十月）
滝澤 昭 義様	（平成二十七年十月）
中山 清 治様	（平成二十七年十一月）
金子 孝治郎様	（平成二十七年十二月）
小島 泰 夫様	（平成二十八年一月）
吉田 仁 志様	（平成二十八年一月）
房間 敏 夫様	（平成二十八年三月）
新野 正 憲様	（平成二十八年四月）

米沢支部

平成二十八年年度米沢支部における上半期の活動状況を報告します。

○四月十五日 米沢支部監査

○四月十九日 教育・産業功労者等検討会議 併せて賞状原文作成の分担依頼をしました。

【第一回理事会】

○五月十三日 午後二時から置賜総合文化センター三〇一研修室において開催しました。

内容は、平成二十七年年度米沢支部事業報告及び決算報告並びに我妻榮記念館事業報告を承認し、平成二十八年度事業計画（案）及び予算（案）を決定、さらに理事の辞任に伴う補充（案）について決定しました。又、この理事会において教育産業功労賞表彰の検討結果を報告し了承を得ました。本部表彰該当者については、会長に報告、決定を受けることとなります。

また、会員増強については前年度に引き続き活動す

ることになりました。

○五月二十日 総務部・組織部合同会議を開催し、支部総会、本部総会の運営について打合せをいたしました。

【総会】

○五月二十八日（土）午後三時 ホテルサンルート米沢 会員四十一名出席の中、種村信次支部長代行挨拶の後、議事に入りました。平成二十七年年度支部庶務報告及び決算並びに我妻榮記念館事業報告が承認されたのに続き、平成二十八年度事業計画（案）、予算（案）及び理事の辞任に伴う補充（案）が審議され、原案通り議決されました。ここで、理事会を開催し、中川勝米沢市長が支部長に決定した旨の報告がありました。また、庶務報告の中で支部会員数の状況が説明されました。

【第二回理事会】

総会途中に、理事会を開催し支部長の互選を行い、中川勝米沢市長が支部長に決定しました。

続いて支部の表彰式に移り、次の皆さんが受賞しまし

〈教育功労賞〉

今年度支部表彰なし

〈産業功労賞〉

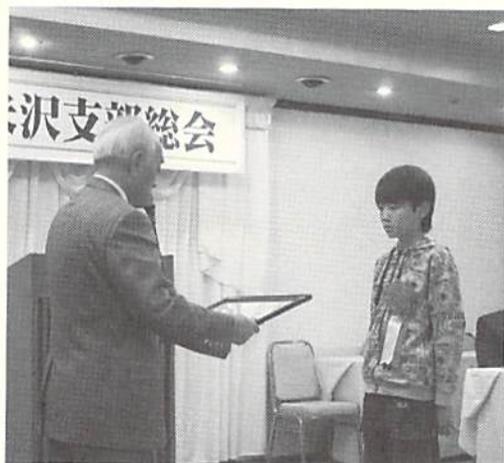
今年度支部表彰なし

〈特別顕彰〉

顕彰の対象となった競技等が複数あつても代表のみ掲載します

○岡崎 拓海（米沢市立松川小学校五年）

平成二十七年全国読書感想画コンクール山形県審査最優秀賞



○渡部 優輝（高畠町立高畠小学校五年）

第六回山形県小学生シングルスソフトテニス大会 五年以下男子シングルス 第一位

○佐藤 碧翔（米沢市立北部小学校六年）

第三十一回山形県小学生陸上競技大会兼第三十一回全国小学生陸上競技交流大会山形予選会 八十mハードル 第一位

○磯井 七海（米沢市立西部小学校六年）

第四十回山形県選抜学童水泳記録会 小学五・六年女子百m自由形 第一位

○駒村 悠太（米沢市立西部小学校六年）

第三十一回山形県小学生陸上競技大会兼第三十一回全国小学生陸上競技交流大会山形県予選会 男子走幅跳 第一位

○伊藤 静紅（米沢市立三沢西部小学校六年）

第三十一回山形県小学生陸上競技大会兼第三十一回全国小学生陸上競技交流大会山形県予選会 女子走高跳 第一位

○梅津 拓武（高畠町立高畠小学校六年）

第十五回山形県少年健全育成柔道大会（兼）第十二回全国小学生学年別柔道大会山形県予選会 六年男子五十kg級 第一位

○荒木 日成 (川西町立大川小学校六年)

第三十一回山形県小学生陸上競技大会 男子千m 第一位

○K・Bディッパースミニバスケットボールスポーツ少年団女子チーム

第四十回山形県ミニバスケットボール交歓大会 優勝

○伊藤 悠音 (南陽市立赤湯中学校一年)

第三十六回東北中学校陸上競技大会 一年男子百m 第一位

○吉田 百那 (高畠町立第四中学校一年)

第三十六回東北中学校陸上競技大会 一年女子千五百m 第二位

○小倉 七海 (長井市立長井南中学校二年)

第四十五回東北中学校卓球大会 女子シングルス 第三位

○川西町立川西中学校男子ホッケー部

第二十四回東北中学生ホッケー選手権大会 準優勝

○川西町立川西中学校女子ホッケー部

第二十四回東北中学生ホッケー選手権大会 優勝

○白鷹町立白鷹中学校男子バスケットボール部

第四回チャンピオンズカップ横手東北中学校新人バス

ケットボール大会 男子第三位

○佐藤 和 (米沢興讓館高等学校一年)

第七十回国民体育大会陸上競技会 少年女子B百m ハードル 第三位

○高田 真帆 (米沢興讓館高等学校二年)

全国高等学校総合体育大会 フェンシング競技女子個人フルレ 第六位

○齋藤 諒平 (九里学園高等学校一年)

第七十回国民体育大会陸上競技会 小年男子B百m 第二位

○菊地 葵 (九里学園高等学校二年)

二〇一五日本ジュニア・ユース陸上競技選手権大会 ユース女子二百m 第七位

○高橋おかり (九里学園高等学校三年)

第六十八回全国高等学校陸上競技対校選手権大会 走幅跳 第二位

○村山 詩織 (九里学園高等学校三年)

第七十回国民体育大会陸上競技会 小年女子A百m 第七位

○根木真理子 (九里学園高等学校三年)

第六十八回全国高等学校陸上競技対校選手権大会 百



mハードル 第七位

○九里学園高等学校女子リレーチーム (和地 彩花・菊

地 葵・開沼 美帆・小貫 夢海)

第二十回東北高等学校新人陸上競技選手権大会 四百

mリレー 第一位

○九里学園高等学校女子リレーチーム (高橋かおり・村

山 詩織・根木真理子・菊地 葵)

平成二十七年第七十回東北高等学校陸上競技大会

四百mリレー 第一位

○九里学園高等学校陸上競技部

平成二十七年第七十回東北高等学校陸上競技大会

女子総合優勝

※学校・学年は平成二十七年のもの。

以上、七団体・十八個人をそれぞれ表彰した後、中川
勝支部長の挨拶、受賞者の挨拶に続きその後全員で記念
撮影をして表彰式を終了しました。

【懇親会】

表彰式終了後、懇親会に移り本会の理事、諮問委員、
監事、教育委員、一般会員約三十名で和やかな懇親会と
なりました。

○六月六日 本部総会案

内状発送作業

○六月二十五日 有為会

本部総会 伝国の杜・

上杉記念館（上杉伯爵

邸）

総会、表彰式、講演

会は伝国の杜で開催。

講演は産業功労者表彰

受賞者、(株)我妻組代表

取締役の我妻悦雄氏に

お願いをして講演会を

開催しました。懇親会は場所を移して上杉記念館（上

杉伯爵邸）にて開催されました。

○七月十二日 支部運営会議 秋の会員交流研修会や支

部だよりの編集などについて協議しました。

○七月二十八日 文化広報部会 支部日より第三十三号

の発刊について協議しました。

○八月八日 総務部・教育部合同会議 支部表彰のあり

方や支部総会と本部総会のあり方について協議しまし

た。



○八月三十一日 支部日より・支部研修会の案内等の発送作業をしました。

今後の主な行事予定

○九月二十一日 総務部・組織部合同会議開催。第三回理事会、理事・諮問委員合同会議、講演会・交流研修会の運営について協議予定です。

○十月一日 午後三時 ホテルサンルート米沢

・米沢支部第三回理事会

先の理事会や総会、総務部・教育部合同会議での意見に対する協議

・米沢支部理事・諮問委員合同会議

第3回理事会を受けて今後の方針について説明

・支部交流研修会（講演会） 午後四時

今年度の講師は山形大学 時任静士教授

演題 「フレキシブル・プリンテッド有機エレクト

ロニクス」の基礎研究と事業化展開（仮）」

・会員交流会（大いも煮会） 午後五時三十分開会

○平成二十九年一月中旬 会場未定 支部役員・事務局員合同初顔合わせ会予定

（文責 支部常務理事 遠藤善則）

仙台支部

平成二十七年秋から二十八年夏までの仙台支部の活動状況を報告します。

仙台興譲館の改修

二十一年以来の改修工事は、二十七年十月十九日に始まり、およそ一月後の十一月十七日に終了しました。今回は畳敷の寮生室六室の床のフローリングへの改修と寮生室全室の窓枠塗装。食堂とホールを仕切るアコーデイオンカーテンの設置、階段とホールの巾木交換、トイレの臭気トラップと小便器フラッシュバルブ交換、トイレ前通路の長尺シート貼り替え、洋便器にウォッシュレット設置、玄関内と正面外壁の塗装、照明のLED化（管球のみ）などを行いました。今回の改修により、トイレの臭気漏れが解消し、通路も明るくなり、アコーデイオンの設置により、食堂が暖かくなり、防寒着を着て食事をしなくて済むようになったこと、正面外壁が明るい色に塗装されたことで建物の印象が一変したことなどが改善点として挙げられます。



▶明るい色に塗装された
仙台興譲館正面外壁



◀フローリングに
改修された寮生室

今回の改修は小規模な工事をまとめたものですが、寮生の日常生活の快適さに密接に関係することが多く、寮生に歓迎されています。

寮の生活環境の改善は、寮生募集へも好影響を与えると考えられます。広報活動の強化と並行して居住環境の改善が必須と思われれます。

仙台興譲館が満室に

仙台支部が、全室個室として寮生募集したのは、昨年春の募集が初めてでした。この募集で四名の新入寮生を迎えることができましたが、同様の結果を二十八年春も持続できるかどうかに関係者は注目していました。結果は六名の入寮者があり、在寮生九名と合わせて十五名となって定員を達成できました。これにより、二十四年度以来ほぼ常態化していた、寮生一人当たりの共通経費の増加を抑えるための本部補助が不要になりました。四月十六日に、寮生十五名全員と支部会員十名が参加し、新入生歓迎会が賑やかに行われました。寮に活気が戻ってきました。

今日、メディアは、奨学金の返済ができず自己破産してしまふ若者が増えていることを伝えています。経済状況の悪化でアルバイトを増やさざるを得ず、そのために

授業に出席できず中退に追い込まれ、安定した収入が得られる職に就くことができなと言ったケースが増えていくそうです。幸い置賜人には興譲館寮があり、これを利用しては出費を減らすことができます。会員各位、特に置賜地区在住の会員におかれましては、機会をとらえて、周囲の受験生を持つ家庭に、興譲館寮の存在を周知下さるようお願いいたします。

支部行事 二十七年十月～二十八年八月

・秋の交流会（芋煮会）二十七年十月十日（土）

会場 寮近くの広瀬川原

参加者 会員九名、家族・同伴者六名、寮生六名

計 二十一名

ひと月前の関東・東北豪雨の影響で、広瀬川の川原は、大きな石が転がって荒れていましたが、昨年同様、水際から離れた高い草地に陣取り、米沢直送の材料で寮生が作ってくれた芋煮を楽しみました。今回は家族・同伴者がいつもよりも多く、家族的な雰囲気濃い集いでした。

・支部総会 二十八年六月四日（土）

会場 仙台ビジネスホテル参加者 十六名

・支部講演会 支部総会後引き続き開催

参加者 会員 十六名 寮生三名

講師 甲 國信（昭和三十七年米

沢興譲館高校卒、東北大学

名誉教授、仙台支部長）

題目 「大正初期の米沢人宮城県

知事 森正隆が残したエピソード」

ソード」

大正初期の宮城県知事に米沢出身者がいた。第十五代知事森正隆（大正二年二月～大正三年四月）である。森は明治維新の三年前に米沢館山口に米沢藩士遠藤庄左衛門の二男として生まれ、秋田県書記官森長義の養子となる。東京帝国大学法学科を経て内務省に入省。茨城、秋田、新潟の知事を歴任した後、宮城県知事となった。一年二ヶ月の短い在任期間であったが、精力的に県政に取り組んだ。また、有為会仙台部会の部長として、多忙な公務の合間を縫って、仙台興譲館の土地・建物の取得に大きな貢献をした。講演



秋の交流会（芋煮会） 27年10月10日



支部総会 28年6月4日

では、森の人物と県政に関する以下のエピソードが、当時の仙台の様子を示す写真と地図を混じえて紹介された。

〔米沢有為会誌に、米沢人批判の論説を発表〕

帝大生の時、森は創刊されたばかりの有為会誌に「米沢に人物の輩出せざる源由を論ず」との刺激的題で二回にわたり論説を発表した。森は、米沢人の犠牲的精神の欠如と独立心の希薄、裏を返せば依頼心の強さを鋭く批判し、このことが薩摩や長州に遅れをとった理由であり、米沢の名を上げるためには、犠牲的精神と独立心に富む人材の育成が必要と論じている。森の人物をよく示す論説である。

〔森の暴政〕

森は寺田前知事の県政を強く批判、前知事に従っていた県職員を徹底的にパージし、「森の暴政」と呼ばれた。また、伊達政宗を崇拜する森は、県下の小中学校長に一体ずつ政宗の人形を与え、奉らせたと言う。権勢ぶりが目立つが、その一方で、秋田県知事時代の人権味あふれる逸話も残されている。

〔政友会一色の県政〕

時の内相原敬直系の政友会会員である森は、県会議長と手を携えて、議会の勢力地図を政友会一色にした。知事官舎は、まるで政友会事務所の

観を呈したそうである。

〔二大土木事業への取り組み〕

足元を固めた森は、着任の半年後に起きた大規模な台風・洪水被害からの復旧に精力的に取り組んだ。また、宮城県の懸案であった塩釜築港問題に、中央政府との太いパイプを使って精力的に取り組む、補助金を政府予算案に組み入れさせるところまで漕ぎ着けた。万事順調に行くか見えだが、山本内閣はシーメンス事件により瓦解して大隈内閣が成立、予算案は反故となった。大隈内閣には仇敵がいる。罷免は必至と覚悟した森は辞職願を提出する一方、臨時県会を招集、退職辞令を懐に、わずか一日の審議で通常の県予算の数年分に及ぶ築港と治水の予算案を認めさせた。その日、森は停職となった。

このように、森はプラス面でもマイナス面でも規格外の知事であったことが宮城県議会史に記録されている。歴史家が詳しく調査すれば、興味ある事実がまだまだ出てきそうな人物である。

・花火鑑賞会

平成二十八年八月五日 仙台興讓館屋上

参加者 会員七名と家族五名、寮生八名

幸い天気は晴れ。七夕前夜祭の花火を満喫しました。

甲 國信記

北海道支部

平成二十七年年度の北海道支部総会は、例年通り勤労感謝の日、十一月二十三日、札幌ススキノの「ジャスマックプラザ」にて開催されました。

今回は特別に須貝英雄有為会会長の御参加を頂きまして、お陰さまで十三名の出席者のもと充実した総会となりました。

須貝会長からは、公益社団法人の認定に関する件、有為会活動の継続性運営体制の強化等々、大変重要なお話を頂き、また、郷土の今昔の情報交換等で盛り上がりまして無事に閉会となりました。その後、懇親会に移り、須貝会長と同世代の支部会員が数名出席されたこともあり、久しぶりに楽しい親交の時間を過ごす事が出来ました。

須貝会長様、本当にありがとうございました。

また、例年の大きな行事、芋煮会は九月二十七日、札幌市が誇る農業テーマパーク「サッポロさとらんど」の炊事広場にて開催されました。

鶴城工親会北海道支部との共催ですが、工親会様には、



支部総会 懇親会

毎年準備等々大変お世話になっております。

当日は、早朝から会場の設営、米沢地区から取り寄せた里芋、米沢牛等を皆で楽しく下拵え、総勢約五十名の参加のもと、故郷の味をたっぷり堪能する事が出来ました。

一週間後の日曜日は山形県人会の芋煮会も大々的に開催されて二週続けて参加された人も沢山おられました。

田村 邦夫記



サッポロさとらんどセンター

「人と農業・自然とのふれあい」、「都市と農業の共存」をテーマとして、農業や自然を身近に感じながら憩い・楽しむことができる魅力的な緑地空間を提供し、札幌の都市型農業を総合的に支援する施設。



秋の芋煮会参加の皆さん

東京興讓館

武田和樹

朝夕はめっきり涼しく、過ごしやすい季節となりました。日頃、寮の運営に尽力いただきありがとうございます。会の皆様に、今年度の東京興讓館寮の近況報告をさせていただきます。

昨年十二月末に、寮母として十二年五ヶ月もの長い間勤務していただいた三浦絢子さんが退職されて寂しい思いと共に寮母さんの存在の大きさに気づきました。この間、多くの寮生の面倒をみていただき指導していただいたことに感謝申し上げます。今年の一月から三月までは後任者が決まらず、食事なしの寮生活で、特に試験期間中は大変でした。また寮の仕事の大半を一人で担ってくださったことがすごいことだと痛感しました。今までの生活が当たり前ではなく、陰で支えてくださる人が居てこそ成り立っているということを再認識しまし

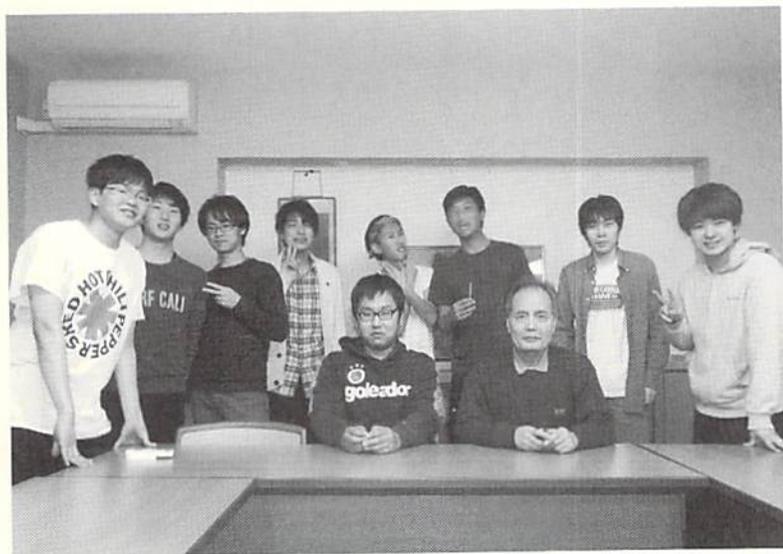
た。今年の四月には、三人の新入寮生を迎え、さらに新しい寮母の福田富子さんに来ていただきました。寮生十五人でスタートしました。嬉しいことに、九月から二人の新入寮生を迎えることが出来ました。憧れの一人暮らしを一年半近くやってみたが、部屋代が八万円はさすがに厳しいとのことでした。また大学の学生寮を部屋代五万円（食事なしで電気代・水道代は別料金）で利用しているが、部屋が狭いとのことでした。また利用できる期間が二年間と限定されているので、早めに適当な寮を探していたそうです。まだ空き部屋が七つありますが、互いにコミュニケーションを密に出来るチャンスだと考えています。新寮生の人たちもだいたい寮に慣れてきています。各々が趣味や目標をもち励む姿に同じ寮生活を送る私たちに、強い刺激をお与え、日々の寮生活に活力と満足感を与えてくれるものであります。

昨今、一人暮らしを望む学生増えて、入寮を希望する学生が減少しているため、より一層寮生募集の活動に力を入れる必要があると考えています。その一方で、食事付きで寮費（光熱費・電気代を含む）が五万円弱というのは、多少不便になっても有難いといって入寮して来る学生がいるのも事実です。私がこの寮で生活して感じた

メリットは、違う大学の人との交友関係をつくることができ、困ったことや悩みを聞いてくれる先輩や同期がいるということ。もちろん大学に入れば友達もできず、山形出身の人や高校が一緒の人が近くで生活しているとかと安心するものです。また、寮母さんがご飯を作ってくださるので一緒にテーブルを囲んでご飯を食べることが出来ます。一人暮らしでは毎日誰かとご飯を食べることはなかなか難しいと思います。さらに、寮を自分たちで運営していくため役職を設けています。こうした自治組織の一員としての意識を高めることで責任感をもって生活ができています。

寮では年に数回イベントがあり寮生全員でお酒を飲んだり、大掃除をしたりします。各自で企画して色々遊んだりもします。寮ならではの楽しさだと思います。東京興譲館寮は様々な大学の学生が集まっているので、自分とは全く異なる分野を学ぶ学生との交流を通して知見を広める経験ができます。こうした経験を共有した仲間が本当に一生大切なものだと思います。

加えて、寮母の福田さんには、今年度から住み込みで炊事や掃除及び自家用の軽自動車での食材等の買物をしてもらっています。慣れない環境だと思いますが寮生と



卒業生を囲んで川合館長と共に

のコミュニケーションを大切にしていたいただき活気のある
雰囲気づくりをしていただいております。

最後になりましたが、我々がこのような素晴らしい環
境で生活し勉学に励むことができるのも、多くの方々の
支援があつてのことです。特に、館長の川合さん、寮母
の福田さん、米沢有為会の皆様には、寮生一同深く感謝
の気持ちをお願いします。また、その感謝の気持ちを行
動に移し、結果として残していくため、誠心誠意努力し
てまいります。改めてこれからも東京興譲館をよろしく
お願い致します。最後に寮生の紹介をさせていただきます。

○大学院生

三浦 啓希〔早稲田大学大学院文学研究科〕

(山形東高校)

柏倉 全一〔早稲田大学大学院政治学研究科〕

(山形南高校・立教大学)

○四年生

元木 康長〔法政大学法学部法律学科〕

(長井高校)

星 悠一郎〔早稲田大学法学部〕

(米沢興譲館高校)

○三年生

相澤祐一郎〔高千穂大学商学部〕

(南陽高校)

稲葉 光〔青山学院大学教育人間科学部〕

(基督教独立学園高校)

梅沢 晃徳〔中央大学法学部政治学科〕

(米沢興譲館高校)

梅沢 剛英〔法政大学社会学部社会政策科学科〕

(米沢興譲館高校)

木村 威人〔専修大学人間科学部社会学科〕

(山形中央高校)

武田 和樹〔駒澤大学仏教学部仏教学科〕

(米沢興譲館高校)

○二年生

遠藤勇太郎〔国士舘大学文学部史学地理学科〕

(日大山形高校)

五十嵐篤志〔東京外国語大学国際社会学部〕

(山形東高校)



○寮母

福田 富子

(長野市出身で今年の
四月に就任)

○一年生

加藤 翔 (慶応大学商学部)

(米沢興譲館高校)

中川 陸 (国学院大学文学部外国語文化学科)

(米沢興譲館高校)

我妻 裕哉 (城西国際大学経営情報学部)

(米沢興譲館高校)

大亀 雅秀 (明治大学商学部)

(米沢東高校)

中村 大真 (東京外国語大学言語文化学部)

(高卒認定試験合格)



予餞会 本部・支部役員と共に

仙台興讓館

山口憲武

残暑ようやく衰え過ごしやすい爽やかな季節となつてまいりました。日頃より寮の運営にご協力をいただいている米沢有為会のみなさまに深くお礼申し上げます。

さて、今年度に入りまして仙台興讓館寮に六名の新たな寮生を迎え入れることができました。常日頃から熱心に寮生募集の活動を行ってくださっている先生方には心より感謝しております。これにより寮内の部屋はすべて満室となりました。寮費や掃除の分担などの負担も軽減したばかりではなく、個性豊かな寮生が増えたおかげで今まで以上に円滑に楽しく充実した寮生活を送ることができております。

現在、一年生六名、二年生四名、四年生四名、院生一名の計十五名で生活しております。来年は上級生に卒業される方が多いため今の状況に満足せずより一層寮生募集活動に力を入れていく必要があると感じております。今日、一人暮らしを望む学生が増え、入寮を希望する学生が減っているという状況があります。そのため、寮生

でポスターを作成し高校に置いていただいて寮の広報活動を行っています。また、ブログやツイッターを利用して寮の日常生活や各種イベントの写真をアップするなどしてよりリアルな寮の生活を紹介していきたいと思えます。寮生の生の声で寮の魅力を発信していきます。

寮には、一人暮らしにはないたくさんの魅力があります。学部やサークル、アルバイト以外の場所で交友関係を広げることができます。一人での食事は寂しいものですが、仲間とともに寮母さんが作ってくくださる温かいご飯を食べることができるというのは幸せなことです。お互いの部屋を行き来して楽しい時間を共有したり様々なことを語り合えたりできる環境はとても心強いものです。また、新年会や新寮生歓迎会などで有為会の先生方とお話ができるのも貴重なことです。この頃は、芋煮会や花火鑑賞会などよりイベントが充実し楽しいものとなっております。ここにはとても書ききれないほど寮には魅力があり、私はこの寮に入って本当に良かったと思っております。このように感じる魅力を多くの故郷の学生に伝え、寮に入ってもらい一緒に寮の生活を送っていきたいと思います。

最後になりましたが、私達の寮生活は、有為会の先生

方や寮母の小野寺さんをはじめとしたたくさんの方々の支えによって成り立っています。そういった方々への感謝の気持ちを忘れることなく、寮生一同有意義な寮生活を送ってまいりますので、ご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

◆仙台興讓館寮生名簿 H28・4

伊藤 真蒼 (東北大学工学部化学・バイオ学科1)

(米沢興讓館H28卒) 米沢市出身

二瓶 太陽 (東北福祉大学総合マネジメント学部産業

福祉マネジメント学科1)

(米沢東H28卒) 米沢市出身

宮田 直輝 (東京IT会計専門学校仙台校会計学科1)

(置賜農業H28卒) 川西町出身

山路 啓太 (東北大学法学部1)

(米沢興讓館H28卒) 川西町出身

山本慎一郎 (東北大学工学部電気情報物理工学科1)

(米沢興讓館H28卒) 米沢市出身

中嶋隆之介 (東北福祉大学健康科学部理学療法学科1)

(米沢興讓館H28卒) 米沢市出身



松井 結大 (東北福祉大学教育学部教育学科2)

(米沢興譲館H27卒) 米沢市出身

山口 憲武 (東北大学文学部人文社会学科2)

(米沢興譲館H27卒) 米沢市出身

◎ H28年度寮長

大河原和馬 (東北大学経済学部2)

(米沢興譲館H27卒) 米沢市出身

坂元 雄哉 (東北大学歯学部2)

(米沢興譲館H27卒) 南陽市出身

荒井 洸毅 (東北学院大学工学部機械知能工学科4)

(米沢工H25卒) 米沢市出身

西京 毅 (東北大学工学部機械知能工学科4)

(米沢興譲館H25卒) 米沢市出身

平 駿人 (東北大学理学部数学科4)

(長井H25卒) 長井市出身

菅野 将紀 (東北大学経済学部4)

(米沢興譲館H25卒) 米沢市出身

鳥森 拓土 (東北大学大学院理学研究科D3)

(米沢興譲館H18卒) 米沢市出身

◎ 寮 母 小野寺眞知子さん



28年8月5日(金)
屋上での花火鑑賞会

学生寮紹介

公益社団法人
米沢有為会だより号外
米沢支部 第7号
米沢市金池5丁目2番25号(米沢市役所内稼働広域課内)

本会は青少年の育英事業を柱とし、郷土出身者の交流を通して郷土愛を育み、郷土発展を願って有為な人材育成を明治22年から120余年間継続しています。先人の努力はいま、私たちに受け継がれています。育英事業の柱である奨学金制度と、学生寮興譲館のご案内をいたします。

こんにちは、東京興譲館寮です。現在寮生十五人で共同生活をしています。東京興譲館寮では山形にゆかりのある学生が集まっています。東京で一人暮らしが心細いと考えている人や不安な人にお勧めです。愉快な先輩たちがみなさんを守っています。分からないことや困っていることの相談に乗ってくれます。時にはサポーターしてくれまして、大船に乗ったつもりでお越しください。

また、寮母さんが作ってくださる温かいご飯は栄養などもちゃんと考えてくれていて一人暮らしでは偏りがちな食生活の



東京興譲館

有為会学生寮のご紹介

心配もありません。

当寮を会場にして、文化講演会を年四回実施しています。いろんな分野のお話しを聴くことが出来ます。浴室や廊下の掃除は当番制でやっています。寮生の会計係は、毎月一回の寮生会議で寮費の収支報告をします。そのとき、寮生同士の意見交換も出来ます。それ以外は自由なのです。自分の時間を有意義に使えると思います。

寮費も二食付きで、五万円弱です。またネットも使い放題です。都内の大学の大部分が通学圏にあり、寮の近くは最高です。スーパードも有り立地は最高です。東京に進学する際には東京興譲館寮を物件探しの候補として頭に入れてください。寮生一同お待ちしております。

(寮長・武田和樹)

仙台興譲館

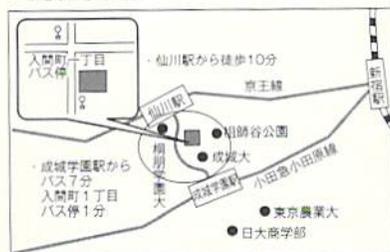
今年度、仙台興譲館寮には六名の寮生が入寮し、一年生六名、二年生四名、四年生四名、院生一名の計十五人で生活しています。寮生は様々な大学・学校に在籍しておりそれぞれの学生生

活を送っていますが、寮の中で活を送っていますが、寮の中で活を送っていますが、寮の中で活を送っています。季節ごとのイベントも魅力でありとても活気あふれる寮間気です。寮母さんが作ってくださるご飯も大変美味しく快適な生活です。郷土が同じ仲間との交流や快適な寮の生活は、仙台で生活するにあたり最高の環境です。

(寮長・山口健志)



東京興譲館寮：東京都調布市入間町 1-36
TEL：03-3309-3302
新宿駅から徒歩約40分。



仙台興譲館寮：仙台市青葉区角五部 2-6-21
TEL：022-222-4790
中心市街地まで約3km。



米沢有為会 学生募集

置賜地域3市5町の在住者・出身者のお子さんを対象に募集しています（在学者も可）。

☆ 寮生募集（平成28年度）

これだけ便利・これだけ安い・これだけ快適

- 寮は2食付（朝・夕）で約4.8万円（東京）、約4.2万円（仙台）
- アパートで生活する場合
東京（郊外）で5.5万～6.5万円。他に食費、光熱費など含め仕送り額約10万円程。
仙台で4万～5万円。他に食費、光熱費など含め仕送り約8.9万円程。
- 東京興譲館寮は新宿駅から約40分。仙台興譲館寮は市街地まで約3km。
- 居室（東京）個室。（仙台）個室。
- 企業の採用担当者は寮生活経験者を評価しており、好印象を抱いている。
（協調性、コミュニケーション能力が身に付いている。）

	「東京興譲館」寮	「仙台興譲館」寮
資 格	東京及び東京近郊の大学、短大、専門学校及び大学院進学または入学予定者（男子のみ）	仙台市及び仙台近郊の大学、短大、専門学校及び大学院に進学または入学予定者（男子のみ）
寮費（月額）	（2食付）4～6月、10月～11月 48,000円 （光熱費含）7～9月、12～3月 49,500円	（2食付） 夏季：42,000円程度 （光熱費含） 冬季：44,000円程度
募 集 人 員	7名程度（定員24名）	4名程度（定員15名）
面接選考日	1月中旬、3月上旬、3月下旬	12月下旬、3月上旬、3月下旬
面接場所	米沢市内、東京興譲館	米沢市内、仙台興譲館

☆ 「米沢有為会奨学金」貸費生募集

▶対象 / 4月に大学・大学院へ入学予定者、または
大学生・大学院生

▶貸費額 / 月額40,000円 ▶募集人員 / 5名程度

▶面接選考日 / 3月下旬 ▶場所 / 伝国の杜

※詳細はホームページをご覧になるが、所属
高校進学指導担当の先生にご相談ください。

【(公社)米沢有為会ホームページ】

<http://www.yonezawa-yuukai.org/>



仙台興譲館寮



東京興譲館寮

我妻榮記念館だより

我妻榮記念館は、民法学者我妻榮先生の生家を記念館としたものです。先生は明治三十年米沢市鉄砲屋町（現在の中央三丁目）に生れ、十七歳で旧制第一高等学校に入学されるまで過されました。明治期に建てられた木造一部二階建の貴重な建物です。

大正六年の米沢大火には、父上の又次郎先生（自雷様）の教え子達（米沢中学校生徒）の消火活動で類焼を免れました。我妻家が市内他所に引越しされ、大友家が買い受けて昭和六十三年まで七十年間住み、県外に転居されました。その後、市内の建築業者に渡りました。

老朽建設物で解体の予定でしたが、我妻榮先生の生家であることが分かり、維持保存の機運が高まり、平成元年米沢有為会創立百周年の節目に、我妻榮旧宅取得が了承されました。

建物等の整備と遺族からの寄贈品を整理展示し、平成四年六月十九日に開館しました。

初代館長 松野良寅（平成四年六月～十四年五月）

二代館長 今田久夫（平成十四年六月～二十年五月）

三代館長 伊藤和夫（平成二十年六月～二十一年五月）
四代館長 上村勘二（平成二十一年六月～）

○平成二十七年年度の運営報告

- 年間開館日 毎週月木金日曜日の午後一時～四時開館
 - 入館者数 二四三名（二十六年度は四八〇名）
 - 五月二十五日から九月三十日まで、記念館の劣化改修工事で閉館としたために来館者は例年の半数であった。
 - 記念館の利用 三三七名（二十六年度は五一五名）
- 米沢有為会米沢支部及び上杉鷹山公と先人を顕彰する会、火種塾、置賜民俗学会、鉄砲屋町町内会等が利用。

●「我妻榮記念館」の劣化改修工事

昨年（二十六）度に作成した実施設計図書に基づき、米沢市補助事業として記念館の劣化改修工事と蔵入口の補修工事を行った。土台が腐食し柱や床が傾いていたのを不陸調整工事により改善し屋根裏等の電気配線張替工事を共に寄附金で実施した。施工は（株）本多建設、監理は（株）鈴木建築設計事務所である。

- 看板設置 記念館北側道路に面して高さ四・五mの看板を設置した。施工は（有）スペースクである。

● 記念館の資料整備

著作を(株)ジーエスデザイン)がPDF化、米沢工業高校専攻科がホームページに掲載した。

● ポスター製作及び配布

記念館ポスターをデザインコンペで選定した(株)羽陽印刷が制作し、国内法学部設置大学・弁護士事務所・市内観光施設等に配布した。

● 補修整備

土蔵北面外壁保護壁造作工事、雪囲い、ウコギ垣根修繕・刈り込み・植栽、樹木の剪定・消毒

● 備品購入・整備

除雪機の定期点検

● 印刷出版

記念館だより第二〇号発行(十一月九日)

● その他

県立米沢興譲館高校の自願財団奨学生と保護者の清掃奉仕(十一月七日)と館長講話(六月二十一日)高校にて)

運営会議(十月十九日、三月二十四日)

○平成二十八年度の運営計画

● 開館日は、月・木・金・日の四日間午後一時～四時

● 記念館の補修整備(屋根塗装を予定)

● 記念館の資料整備(著作)

● 記念館だよりの発行(十月頃)

● 運営委員会(年二回)

○記念館の運営体制

(平成四年の開館以来、館長・管理人・運営委員を置き、管理運営しています)

名誉館長

我妻 堯

顧問 小関 薫

館長

上村 勘二

管理人 手塚 正

運営委員

安部 敏、五十嵐京子、高橋 節子、

本多 和彦、佐藤 繁、神保 厚



日本民法学の最高峰

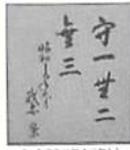
我妻榮記念館

WAGATSUMA SAKAE MUSEUM
SINCE 1992



我妻館は「日本の民法学の最高峰」とも稱される、我妻栄先生の記念館です。
昭和の無類から昭和48年にこころまで、代表著作の「民法講義」をはじめ、数多くの著書・論文を発表し、民法学の発展を働き上げました。その学識は、今も民法の解釈や研究、裁判官の法律家職に大きな影響を与えています。
戦後、新憲法制定に伴う家法改革の際、新憲法制定を期し、憲法の理念に基づき新しい家法制度の構築にも努められました。

〔略歴〕
1887年 4月 山形県米沢市生まれ
1909年 東京帝国大学法学部法律学科卒業
1927年 東京帝国大学教授
1945年 東京帝国大学法学部学部長
1949年 我妻栄論議
1949年 日本学上論及び、日本学所論議議長
1956年 法政大学副学長
1957年 東京大学初年退任、東京大学名誉教授
1965年 文化勲章受章、東京大学名誉市民
1973年 20日 逝去、享年86歳



(一筆字 二筆(三筆))

〒992-0045 山形県米沢市中央3-4-38
TEL/FAX 0236-24-2211
E-mail http://www.wagatsuma-kan.com/
EX-mail wagatsuma@crest.ocn.ne.jp

我妻栄記念館

検索



開館日 毎週月・木・金・日曜日
(午後1時～午後4時)

■本館 1階、2階
■生室 保存・展示
■展示 1階、2階
■資料 2階展示

開館時間内に見学を希望される方は、事前に電話予約をお願いします。

河津先生のオフィス
山形県米沢市中央3-4-38
米沢市中央3-4-38 1階 13号展示室
資料閲覧室
●山形県米沢市中央3-4-38
山形県米沢市中央3-4-38
山形県米沢市中央3-4-38
山形県米沢市中央3-4-38
山形県米沢市中央3-4-38
山形県米沢市中央3-4-38



我妻榮記念館の劣化改修工事

昨年度、米沢市補助事業として(株)鈴木建築設計事務所
に委託し、精密診断、劣化改修実施設計図面の作成と工
事費の積算業務を実施しました。

今年度、作成した図面に基づいて劣化改修工事を米沢
市補助事業として実施し完了しましたので、その報告を
致します。

施工は(株)本多建設が落札、監理は(株)鈴木建築設計事務
所で、工事期間は五月一五日から九月一七日までの約四
か月間でした。

一、基礎工事

記念館は約一二〇年前に建てら
れており、当時は大きな土台石の
上に柱を建て、それらの柱を土台
で結んでいました。独立の基礎に
なっており、地震に弱く、外部か
らの雨水侵入による腐食も懸念さ
れました。

今回の工事では、各土台石を鉄



筋コンクリートで結び基礎全体を一体化して強度を持た
せました。南側に側溝、西側に雨水侵入防止 立上げを
設け内部に雨水が侵入しないようにしました。

二、腐食部材の交換

床板や壁を剥がすと栗材
の土台や杉材の柱が多数腐
食していました。土台は全
て新しい栗材に交換し、腐
食している柱は途中で中継
ぎしました。

三、耐震工事

耐震性を増すための大規模な外部補強はしないで、外
観を以前のままに残す劣化改修工事としました。記念館
の南面と北面は、採光を取
るためにガラス面が多く取
り付けられています。南北
方向と東西方向に均衡が取
れるように、床の間、玄関
ホールと取次部屋に、耐力



壁三か所と耐力格子三か所を取り付けました。

四、不陸調整

鴨井の高さを測定した結果は、茶の間南西端で一七二mm、仏壇南西一三六mm、北広縁西端一六mmと、不同沈下していました。天井板と鴨井の上壁を解体し、梁や桁をジャッキアップし不陸調整をしました。改修前は床や柱の傾斜が気になりましたが、大分改善されました。



五、電気配線工事

屋根裏には、萱屋根の下に碍子引き布被覆配線が引かれ、危険なことから、VVFケーブルに交換しました。室内の上隅には記念館開館時に設置した電話配線やセンサー配線が敷設され建具が締まらないことから、天井裏配線やモール引き配線に変更しました。

この度の記念館の改修は、柱の腐食とその中継ぎ、不同沈下と不陸調整、さらに図面に記載の無い古井戸・暗

渠・配管が出るなど、開けて初めて分かる難しい工事でした。問題に真剣に対応頂きました本多建設と鈴木建築設計事務所に厚く御礼申し上げます。

六、看板設置

来館される方々が記念館を探せなくて苦労しておられることを聞きました。以前は高さ二mの案内板でしたが、この度は高さ四五mの大きさで分かり易く、国際化に対応して日本語に加え英語・中国語・韓国語で標記した看板を、(術)スベックに依頼し、制作設置しました。

昨年度の積算では不陸調整、電気配線工事並びに看板設置は含まれていませんでした。「記念館の公益事業に使用して下さい」と、米沢有為会に頂きました篤志寄附でこれらの工事を行うことができました。心から感謝申し上げます。

(文責 館長 上村勘二)



無私の人「池田成彬」ソンプンに学ぶ

米沢信用金庫 会長 種 村 信 次



はじめに — 父池田成章、
ハーバード大学 —

池田成彬を語る時、父の存在は大変に大きく、かつ、父池田成章自身の地域での時代を背負った活躍は極めて貴重

であった。

そこで、池田成章、池田成彬の生きた時代を俯瞰し、池田親子の治績を見る時、正に「山形のリーダー」池田成章、「日本のリーダー」池田成彬と言つてよい。

さて、父成章は優秀な成彬を見抜いて如何に育てるか、かなり手をまわして、慶応からハーバート大に

留学。しかし奨学金支給の条件が当初と異なり、結局父成章に大変苦勞をかけている。

三井時代 — コール市場、電力のバトロン、

ドル買い、三井改革 —

卒業後日本に帰り、福沢諭吉の時事通信社に入社するが、福沢との折り合い悪く、退社して三井銀行に入社する。三十歳で足利支店長、三十七歳本店営業部長とエリートコースを歩む。そこでの重要な仕事の一つは日銀からの資金調達であるが、担保を差し出しても貸さない。そこで諸井時三郎にビルブローカー業務を開かせ、手形担保でコールマネーを引っ張り、日銀に頼らなくとも資金調達が可能となった。現在のコール市場はここから始まった。

東京電燈に対する融資は、池田はこれを応諾し、桂川水力発電所が完成した。しかし関東大震災で電力事業は壊滅的な大打撃を蒙り、銀行も容易ならざる事態となった。そこで池田は、外交官で財務通の森賢吾に東電の財務顧問を委嘱し、昭和三年、その森が東京電燈の大外債をまとめた。池田は社長若尾璋八の乱脈経営を正して再建し、さらに電力会社が水利権や配電競争で政治勢力と

結びついて経営を毒していたが、昭和七年「電力連盟」を結成するなど、「電力のバトロン」として池田の役割は極めて大きなものがあつた。

日本経済を混乱に陥れたドル買い事件は、銀行を守るための当然の行為で、他の銀行と比べて目立って多かつたわけでもないが、三井、しかも池田が批判の対象となつた。これ以前の昭和二年（一九二七年）、池田は鈴木商店に引導を渡し、債権者だつた台湾銀行は破綻、連鎖する形で銀行破綻が相次ぎ、三週間のモラトリアムが実施された。三井財閥への批判はやむを得ないことでもあつた。

ドル買いは政府が金輸出再禁止など当然打つべき手を打たず、その非難を避けるため、ドル買いに責任を転嫁した。こうしたことが政府と財閥に対する不信を深めることとなり、血盟団事件によって三井の総帥団琢磨、前蔵相の井上準之助が殺害され、さらに五・一五事件を引き起こした。それはやがて二・二六事件にもつながり、経済も政治も軍部の支配下に置かれる素地を作つたと考えられる。

血盟団の事件で団琢磨理事長を失つた三井財閥は池田成彬を三井合名常務に選んだ。池田は早速三井合名運営

機構の大改革に着手。三井一族による社員総会を七名に絞り、内二名は使用人に、一族は直系会社重役から辞任、さらに財閥持株の公開、財団法人三井報恩会の設立など、思い切つた改革を進めた。しかし、世間は三井の欺瞞政策としか受け止めなかつた。池田は捨て身の一手法、自らをも含む「停年制」を実施したが、この三井大改革は評価されないだけでなく、他の財閥への影響も与えることも出来ず、日本資本主義の内部改革の機会を失つたと考えられる。

政界時代 — 日銀総裁、大蔵大臣、

枢密院顧問官、終戦 —

池田は三井を退いて持病の胆石のため大磯の自宅に引き籠つていた。この時、政局は混乱し、林内閣は財政の立直しと軍備拡充に対応して財界の協力を求めるため、この重責を池田に求めた。しかし、池田は大蔵大臣の激務は耐えられないとして結城豊太郎を推挙し、結城は池田を日銀総裁になるよう求めた。昭和十二年二月（一九三七年）、結城豊太郎は大蔵大臣に就任し、池田は日銀総裁に就任した。

池田は三井銀行時代から日銀改革が必要だと考えてお

り、早速着手した。しかし日銀条例改正委員会の壁にぶつかり在任中は結論に至らず、十二年六月近衛内閣発足の翌月、辞任と共に葬られた。

政府は十三年度予算八十億円（十一年度三十億円）を編成し、その大部分を公債発行で賄おうとした。近衛は病身を理由に固辞する池田に対し、入閣しないなら内閣を投げだすと口

説かれ、池田は十三年五月、池田の条件（商工大臣兼務、内閣人事）が承認されて入閣した。しかし事態は厳しく、軍拡が進む中、政府の戦争に対する方針も定まらず混乱を重ね、翌年一月四日、辞表を提出した。

西園寺公望は池田と親しく、また



池田を高く買っていた。池田は英米との戦争は経済に甚だしい影響を与えると、極力回避する努力をしていた。平沼退陣後、西園寺はじめ政界上層部は池田内閣を構想したものの、軍部の強硬な反対で実現しなかった。池田は、第三次近衛内閣の時枢密院顧問官となっていたが、太平洋戦争への突入は池田の意に反し、寝耳に水の状態で行われた。

池田は「財界回顧」の中で、「八日の朝四時に電話で各顧問官に朝の七時から委員会があるから来いというのです。病気で大磯で寝ていたが直ぐに上京しました。委員会は半ば済んでおり、島田海軍大臣は『もう今時分はハワイをやっておりますよ』と書いていました」と書いている。池田の心境は、戦争を始めた以上負けてはならないし、できるだけ犠牲の少ない内に終結させなければ成らないとの思いであった。天皇はじめ重臣たちも戦争の長期化には反対であり、天皇は「終戦については機会を失しないよう十分考慮せよ」と東条首相に命じておられたものの、東条首相が戦争終結にはあまり意を用いていないことにすこぶる気がかりであった。

ポツダム宣言受諾を議題とする枢密院会議は、八月十五日の朝宮中の防空壕内で開かれた。昭和十二年夏の支

邦事変から足かけ九年の長い戦争は日本の敗北に終わり、すべての努力が水泡に帰したことをみんなが肌で感じていた。本土決戦により、最後まで戦い、講和条件を有利にしようと主張した陸軍を押しさえ、前日の御前会議で、「自分はいかにならうとも、万民の生命をたすけた」と聖断をくだされた天皇のお氣持を伝え聞いた池田は心の中で泣いていた。

おわりに — 父の泪 —

「自由と規律」を著した慶大教授池田潔は、父池田成彬の回想録に「父の泪」という一文を書いている。三男豊（ケンブリッジ大卒）が一兵卒として召集された。東条首相は池田に対し政治休戦の代償として東京勤務にするとしたが、池田はこれを拒否。結局豊は中国で戦病死したが、その経緯と父の清冽な処世が描かれている。この胸にズンと来るような一文は、戦後日本人が失ったものを思い出させてくれる。

明治・大正・昭和（戦前）のかつて経験しない時代にあつて、「人間としてどう生きるか」を尺度として、時代に流されることなく生き切った人、それが池田成彬であつたと思う。

これからの日本は多くの極めて不都合な問題が確実に顕在化してくる。当然大きな、しかも厳しい選択と変革を迫られる時代に入ってきた。この時代のリーダーとなることは権力や地位のためではなく、自らの選択によって国民に苦渋の選択をせまる覚悟を持つ人材でなければならぬ。

池田成彬は一人のリーダーとして、「そのような変化の時代をどう生きるのか」を教えてくれている。

〔種村信次 略歴〕

昭和十四年生まれ。同三十三年米沢興譲館高校卒、同三十七年日大経卒。同年米沢製作所（のちNEC米沢）入社、平成元年同社取締役、同十年監査役。同十三年米沢信用金庫監事、同十六年理事長、同二十六年会長現職。（主な兼職）米沢有為会理事、山形県立大学法人理事他

〔参考文献〕

【池田成彬傳】西谷彌兵衛 著

（日本財界人物傳全集第三卷）

【池田成彬傳】今村武雄 著 （慶応通信社刊）

第十七回文化大学

平成二十七年十一月十三日

基礎科学と社会

東京大学名誉教授 西村 純



私が米沢の興譲館中学に転校したのは昭和十七年のことで、太平洋戦争の二年目であった。その前、私は同じ県内の酒田中学にいたが、父が仕事の関係で米沢に転動になった。興譲館の千喜良校長が父に「私が鍛えてやるから」と云うことで、興譲館に転校することになった。

講堂には米沢出身の南雲忠一中将の写真が飾ってあった。当時は知らなかったが、南雲中将はハワイ攻撃の司令官であり、私が転校したのはミッドウェー海戦の頃で南雲中将はその司令官であった。ミッドウェー海戦は失敗に終わり、南雲中将はその後サイパン島守備の海軍の司令官となっている。サイパン島は日本の絶対国防圏の要衝であり、ここからB29が発進すれば東京は爆撃に

晒されることになる。しかし、この島は昭和十九年にアメリカ軍の手に落ちて、南雲中将は自刃した。興譲館中学では中山豊（中山内科病院）、濱田耕一（濱田酒造）、松野良寅（山形大学名誉教授）君等生涯にわたる友人を得ることになった。

昭和十九年になると、旧制二高を出て東北大に進んだが、その際、仙台の興譲館のお世話になった。広瀬川のほとりの良い場所であった。興譲館の食堂の隣は集會場でも置いてあった。全集は全部を重ねるとは1m以上の量であったろうか……。大学から帰ってきては毎日、寺田寅彦の随筆を読んでいくうちに、物理学の面白さが分かってくるようになった。

サイパン島がアメリカの手中に落ち、日本各地が爆撃にさらされるようになり、全巻を読み終わったころ、仙台は七月十日に空襲に見舞われた。約一〇〇機のB29が襲来し、市の中心からうず巻状に焼夷弾を投下した。興譲館は中心から離れているので、始めの内は、遙か彼方に火の手を見ている感じであったが、その内に近づいてきて、我々の付近にも焼夷弾が落ちてきた。運悪く、その内の一かたまりが命中して、建物は一瞬にして物凄

い勢いで燃え上がった。住処を失った我々はしばらく流浪の民となるのだが、それから数年を経て仙台の興譲館は再建されることになった。

この間、米沢や東京で昔の友人と集まりあったりしていた。上杉さんは著名な宇宙工学者であるが、私も同じ宇宙科学研究所に居たこともあって、米沢との付き合いはますますは深くなった。

仙台の興譲館で読んだ寺田寅彦は物理学者であるが、夏目漱石との付き合いが深く、時々夏目漱石の小説のモデルとなつて登場している。東大に入学して熊本から上京した三四郎は、郷里の知り合いの東大の物理教室の野々宮さん(寺田寅彦)を訪ねている。野々宮さんは物理教室の地下室で光の圧力の研究をしている。漱石は小説「三四郎」の中で、次のように書いている。

「……それで穴倉の下を根拠地として欣然としてたゆまずに研究を専念にやっているからえらい。しかし望遠鏡のなかの度盛がいくら動いたって現実世界と交渉もない事は明らかである。……」

これは一九〇〇年代の初めに書かれた文章で『光の圧力の研究などは、世間と関わりがない』と漱石は断言している。しかし、約一〇〇年を経た現在、太陽の光の

圧力を利用して木星に向けて「イカロス」と言う人工探査機が飛翔している。漱石の予言が外れて、一〇〇年を経て光の圧力が実用に供されたことになる。

一 体、基礎科学と社会との関わりは

どのようなものなのか？

● 十八世紀の産業革命でイギリスは強大な力を得て世界に君臨することとなった。その産業革命を齎したのは、それ以前に、星の動きを探求したガリレオやニュートン力学、熱がどのように力となるかを調べた熱力学などを基礎に置く蒸気機関と機械工業の発展であった。

同じように

● 十九世紀の電気工学の発展は前世紀の、電磁気の基礎研究の Maxwell の電磁力学に基づいている。

● 物質の理解を深め、根源を求めて研究した原子や原子核、量子論が二十世紀の新しい社会を生み出した。た。

● 現代は人工知能やロボットなどの出現が社会の変革をもたらしているが、これまでに研究されてきた、物性論や、情報理論、宇宙論……。などを基礎に発展している。

三四郎の光の圧力、今年のノーベル賞の「ニュートリノ」の研究に見られるように、基礎科学の目的は本来自然現象の本質を深く理解することであって人間の生活に役立たせることが目的ではない。その目的は人間の知の地平を広げて知性を豊かにする点にある。このような観点からいえば基礎科学は哲学、芸術、文学などの学問分野に似ているといえる。

しかし、基礎科学の発展は数十年ないし一〇〇年後の社会の大きな変革を齎して来た点が重要である。

具体的な例を見るために、今回の講演では過



去約一〇〇年間のノーベル賞の成果がその後どのように社会に反映したかを述べた。その詳細を述べるには紙数を要するので、有為会のホームページに講演の時のファイルを載せて頂いた。詳しくはそれをご覧頂けたらと思う。

現代の社会に大きな影響力を齎している原子力発電やそれに関係する事柄は物質の根源を求めて一九一一年代に発見された原子核によるものである。

発見したのはラザフォードで、

「原子核は将来何の役にたつか？」

との質問に、彼は「原子核は純粹に学術的に物質の根源が何であるかを示すものである。将来にわたって人間の生活に役立つ事はないと断言できる」と述べた。

これは基礎科学が手近な役に立つという観点から評価するものでなく、またそのような未来予測は非常に難しいことを示す良い例である。

基礎科学の発展は未来の大きな社会の変革をもたらす。その意義を理解している社会は将来の発展が期待されることになると思われる。

プロフィール

- 1927年生
- 1943年：米沢興譲館中学4年修
- 1943年：旧制第二高等学校
- 1945年：東北帝国大学理学部物理教室
- 1948年：理研仁科研究室 助手
- 1950年：神戸大学文理学部物理学科 助手
- 1956年：東京大学原子核研究所 助教授
- 1965年：東京大学宇宙航空研究所 教授
- 1980年：国立大学共同利用機関宇宙科学研究所 教授
- 1988年：同研究所 所長
- 1992年：所長退官
- 1987年：東京大学名誉教授
- 1992年：宇宙科学研究所名誉教授
- 仁科研究室以来宇宙放射線（宇宙線）の研究を推進、宇宙科学研究所では観測用大型気球の開発に携わる。

〔賞〕

- 1967年：仁科賞
- 1991年：紫綬褒章
- 1998年：勲二等瑞宝章 他数件

第十八回文化大学

平成28年4月24日

井上ひさしとこまつ座 そして私

こまつ座社長 井上麻矢



私がこまつ座に入ったのは、父から経理の方が今度いなくなるので、経理をしてほしいという電話で誘われたのがきっかけです。今思うと父がこの世からいなくなる二年

半くらい前のことだったと記憶しています。

その頃はやつと取得した別の国際免許をいかして仕事をするために転職先も考えていた矢先、この話を聞いた時は、ちよつとびっくりしました。

父が私に何か頼みごとをしてきたという記憶はなく、どちらかと言えば父と母の離婚という家庭環境の中では、私はいつも母側の娘という意識が父にあったからだと思います。

びっくりしましたが、何より初めての頼みごとであっ

たこと、その当時勤めていた会社の社長さんが大変もののわかった素晴らしい経営者で「麻矢さん、一生に一度は親のいう事というのはきくものよ。」と諭してくださいだった事も大きく、とりあえず父には「経理というのに向き、不向きがあるものだから、学校に行かせてくれないか？」とお願いしました。

父は経理学校のお金を喜んで出すと言ってくれまして、しばらく勉強と仕事を両立させて返事は保留にしてみました。

本当に経理に適した人間かが、自分ではわからなかったからです。

勉強してみても初めて、自分がいかに数字に苦手意識があったかを思い知りました。というのは経理の勉強は本当に楽しかったからです。とことんまでお金をきれいに仕訳して



いく。数字自体に人格があって、しかるべきところにそれを入れ込み、会社という仕組みの中で整理整頓していくというのはとても楽しい作業でした。

経理は常にバランスシートですから、作家の家というアンバランスな家庭で育った自分にはなんとなく安心できる勉強であったとも言えます。

自信をつけてこまつ座に入ったのは二〇〇九年四月、それから三か月はお金の事だけ、そして帳簿の事だけを見て過ごしました。そして正直少しだけ後悔しました。累計赤字が多く、単発の黒字は出るものの、老舗劇団の内情は大変なものだと思いました。こんな不安定な会社に勤めていて大丈夫だろうか：不安ばかりでした。

しかしその一方で、父に信頼される喜びはありました。一度父に借金について意見したことがあります。

「今ならばわずかな財産をすべて現金化すれば借金は返せるし、社長（私は父を会社ではそうよんでいました。）も好きなどころに好きな時にだけ戯曲を書けるのでは？」とこまつ座を閉じる話をしたことがあります。そうしたら父ははつきりと私に次のように言いました。「こまつ座があるから芝居を書いてくるのが出来た。いわばこまつ座には恩があるのです。自分が沢山の

方に迷惑をおかけして芝居を作ってきた経緯を考えると簡単につぶすことは出来ません。」なんとも父らしい返事でした。

私は今日現在までこの言葉をお守りにして生きてきたと言えます。その後、父は一本の新作を戯曲として書いた後、あつという間にあの世に逝ってしまいました。

父から教わった事は沢山あります。例えば、この魑魅魍魎とした演劇界の中で生き抜くために父が私を励ましてくれた言葉の数々は今でも私の生きる上での大きな物差しとなっています。演劇というものをどう捉え、そしてその中で決して一人で出来ないこと、一人で出来ないことだからこそ演劇は素晴らしいのだと、言葉を変えて伝えてくれたことを今とても感謝しています。

私は今日も父の遺してくれた言葉に後押しをされて生きています。

父はもうこの世にはいないのですが、よくファンの方から言われるのは「こまつ座があるから井上さんはまだ生きているみたいな錯覚がするのよ」と……。

「自分という作品を作っているつもりで生きていきなさい」と今も背中を押してくれている気がしてなりません。

第十九回文化大学

平成28年7月17日

明治の建築家 伊東忠太 オスマン帝国をゆく

ジラルデツリ青木美田紀



米沢生まれの伊東忠太（一八六七—一九五四）は、明治ももうすぐ終わろうという頃、世界を一周する旅に出た。

一九〇二年三月二十九日に東京・新橋を出発して中国・天津に渡り、中国国内旅行のあと、東南アジア諸国、インド、スリランカ、オスマン帝国（現在のトルコ、エジプト、シリア、パレスチナ、イスラエル、レバノン、ヨルダン）を巡り、欧州各国と米國經由で帰国した。じつに、三年三ヶ月の旅である。

物見遊山ではない。それどころか、費用を明治政府に賄わせた、官費旅行であった。

公的な名目は、「中国・印度・土耳其留学」。東京帝国大学で教授昇進のために不可欠とされた不文律、「洋行」

である。しかし、誰もが望む西洋でなく、忠太は「東洋」行きを懇請した。日本建築の源流を突き止めるには、東洋を見るしかない、そう思い極めていた。

それには理由がある。博士論文で書いた『法隆寺建築論』。

法隆寺中門の柱には、ギリシャ建築と同じエンタシス（胴張り）がある。それを根拠に、日本最古の建築・法隆寺の起源はギリシャ、と説いた。忠太の願いは、これを



実際に歩いて証明することだった。

大胆な学説の背景には、新興国明治日本の切実な事情があった。当時、西洋の学界ではギリシャ・ローマの古典主義が王道。極東の島国、日本など、建築史の組上にもほらない。憤慨した忠太は考えた。日本建築の源流が、西洋建築で最上位のギリシャと証明できれば、日本建築の価値も自動的に上がるはずだ。

そこまでして西洋に自分を認めさせる必要が、当時の日本にはあつたのだった。

忠太がイスタンブルに到着したのは、一九〇四年五月八日。

この地でオスマン帝国のモスクやビザンチン時代の教会を訪問、博物館でシルクロードの出土品を研究し、オスマン帝国の首都を行き交うさまざまな人々を観察した。当時のスルタン・アブデュルハミット二世から、メジテイ三等勲章も拝領した。これは現在米沢市立上杉博物館に保存されている。

そして七月末、イスタンブルを鉄道で出発し、内陸の旅へ。アンカラ、エスキシェヒル、キュタフヤ、アフィヨンカラヒサル、コンヤ。ほんとうは、バグダッドまで旅を続けるはずが、エーゲ海へ方向転換をしたのは約

熱と臭虫に悩まされたせいだった。エフェス、ミレトス、
ディアイムで初めてギリシャ建築を実見。イズミルから
地中海へ漕ぎ出し、クレタ島、アレキサンドリア、カイロ、
ルクソール。カイロでは、かつて見ない「壮大さ」を経
験した。同時に、建築様式の重層的な成り立ちに気づ
き、「イスラム建築」「東洋建築」の根本を問いはじめる。

パレスチナへは、敵国ロシアの船に乗った。乗客・乗
組員一同戦々恐々、忠太は注目の的となる。テルアビブ、
イエルサレム、死海、ダマスカス、ベイルート、アレppo、
タルススからトロス山脈を越え、イスタンブルへ戻った。

この旅は、忠太に視点の転換をもたらした。

日本文化の源流が西洋古典のギリシャだという自説は
いつのまにか重要でなくなり、新たな世界観を獲得する。

一九〇九年に発表された通称「建築進化論」は、主流
から枝分かれする傍流という、従来の文化の流れの常識
とは、まったくちがう考え方を提示していた。忠太は、
幾つもの大きさの異なる円が重なり合い、ネットワーク
を形成しながら広がる文化の姿を示したのである。

この世界は、一つの文化的強者を中心に動くのではな
い。お互いに影響関係を及ぼし合う、数知れない異なる
文化、その多様性からなりたっている。

世界旅行の果てに忠太がたどりついたこの世界観は、
グローバリゼーションの時代といわれる今、ローカル（地
方）の独自性が重要であることを、現代に生きるわれわ
れに語りかけてくれる。



伊東忠太博士の曾孫（講師の左隣）も出席されました

置賜市町だより

米沢市

ナセBA（市立米沢図書館）

よねざわ市民ギャラリーがオープン

市内中心部に建設を進めてきた市立米沢図書館とよねざわ市民ギャラリーからなる新文化複合施設（愛称：ナセBA）が平成二十八年七月一日にオープンしました。初日から大勢の市民が訪れ、開館二か月で入館者が十万人を突破しました。愛称の「ナセBA」は、米沢藩九代藩主上杉鷹山の名言の一つ「なせばなる」に由来するもので、BAは、BOOK（本）とART（芸術）の頭文字を組み合わせたものです。

施設は、一階に市民ギャラリーを配置し、天井高三・三mと四・五mの展示エリアを設け、スライドディングウォール（可動式間仕切り）でさまざまな展示室に分割することができ利用者のニーズに合った展示方法や発表が可能となり1年先まで展示の予約で満杯です。

二階には図書館を配置し、蔵書三十万冊のうち十五万

冊を開架する広いスペースを確保するとともに、館内中央の五階までの吹き抜け空間の壁まわりに壁面書庫を配置し、本に囲まれた空間を演出しています。図書館では、子どもたちが早くから本に親しみ読書習慣を身に付けられる



よう、子どもコーナーに絵本一万冊を揃え、読み聞かせのできる「おはなしのへや」を配置するとともに、通帳型の手帳に読書の記録を書き込む「読書通帳」を導入するなど、子どもたちが気軽に利用できる環境を整えています。

また、当図書館の大きな特色である直江兼続が収集した古典籍・古文書を含む貴重な郷土資料の専用調査室や閲覧室を設け、専門的なレファレンス（調査・相談）にも常時対応できるようにしていますので、皆さまのご来館を心からお待ちしております。

最先端の技術が集結

二十年後の快適な暮らしとは？

「山形大学 実証工房 スマート未来ハウス」

二十年後の暮らしをイメージした「山形大学 実証工房 スマート未来ハウス」が、平成二十七年十月、米沢オフィスアルカディア内にオープンしました。

この「スマート未来ハウス」は、山形大学が世界に誇る有機EL照明や有機太陽電池、有機トランジスタなどの研究成果を基に、様々な技術を組み合わせた新たな製



品のアイディアを試し、実用化を目指した試験を行う実証施設でもあります。

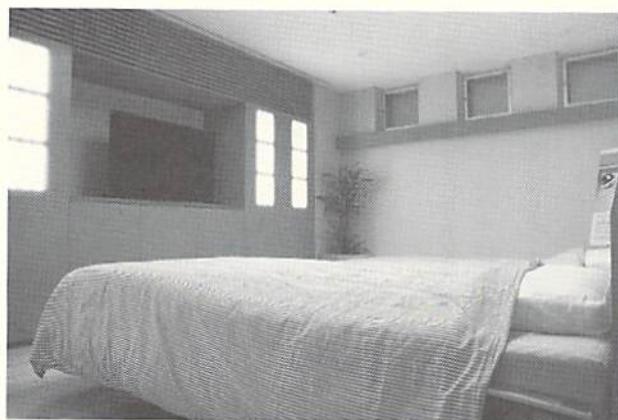
建物内には、随所に有機EL照明が配置され、部屋や用途によってデザインや機能を変えたスタイリッシュな「あかり」が演出されて

品のアイディアを試し、実用化を目指した試験を行う実証施設でもあります。

建物内には、随所に有機EL照明が配置され、部屋や用途によってデザインや機能を変えたスタイリッシュな「あかり」が演出されて

でき、睡眠の質を高め、より安らげる空間をつくるシステムの研究開発に用いられます。

また、ベッドの下には、シート状のセンサーが設けられ、睡眠時の呼吸、心拍、寝返りなどのデータをリアル



タイムで測定・解析すること

で、心地よい睡眠、体調管理、見守りなどができるシステムの実証実験を行っています。

リビングルームには、大画面の壁紙／天井ディスプレイが設けられ、自宅に居ながら遠隔地での仕事や病院での健康診断、世界最先端の授

業などを手軽に受けられる未来の暮らしをイメージしたものとなっています。

この他にも、透明性を持たせ、採光しながら発電できる有機太陽電池、「発電する窓」などの最先端の有機エレクトロニクス技術が随所に使われています。毎週金曜日の午後是一般見学も可能です。

見学の際は、ホームページ

<http://yucol-yz.yamagata-u.ac.jp> から「スマート未来ハウス見学予約申し込み」で予約ができます。



県内初 奥羽新幹線整備実現同盟会の設立

本年六月、フル規格である奥羽新幹線（福島市―秋田市）の整備実現を目指す「米沢市奥羽新幹線整備実現同盟会」を設立しました。同年五月に山形県で「山形県奥羽・羽越新幹線整備実現同盟」が発足しましたが、市町村レベルではいち早い結成となります。山形県の南の玄関口として、官民一体となつて、早期の整備実現に向けた機運を高めていきます。

奥羽新幹線は、昭和四十八年に国の基本計画に位置付けられているフル規格の新幹線構想ですが、平成四年にミニ新幹線である山形新幹線が運行を開始したこともあり、現在まで進捗がない状況が続いております。国が定める基本計画では、平成二十四年の北海道新幹線などの着工により、奥羽新幹線より以前に計画に位置付けられた路線は、ほぼ完成に目途がついてきました。



ルートイメージ



設立総会の様子



総会後のキックオフイベントでは、参加者全員で力強く勝ちどきを上げた

新たなフル規格新幹線は、人口減少が急速に進行する中で、東京圏への一極集中を是正し、産業や人材を地方に呼び込むことにより、地方創生を実現するとともに、東日本大震災を契機とした、東北地域と首都圏や西日本とを結ぶ高速交通ネットワークの代替機能の確保やリスク分散など、災害に強い地域づくりに大きな役割を果たすための、極めて重要な社会基盤となるものとして期待されております。

今後の取り組みとしては、県と連携を図りながら、国土交通省等への要望活動を行うほか、市民への情報発信など地域の一層の盛り上げを図りながら、奥羽新幹線の早期実現に向けた運動を推進していきます。

米沢市ふるさと応援寄附金 (ふるさと納税) 県内で2位に

「ふるさと納税」は、平成二十年度からスタートした制度で、自治体への寄附金のことです。個人が二千元を越える寄附を行ったときに税金が還付、控除されます。

平成二十七年四月一日から、控除額が二倍になる、確定申告が不要になるなどの税制改正が行われ、また、寄附のお礼にお贈りする特産品が話題となり、制度への注目度が高まっています。

本市では、これまで寄附をいただいた方へお米等をお贈りしていましたが、平成二十七年一月に運用を見直し、お礼品の拡充や寄附要件の引き下げなどを行い、より多くの方に本市を応援していただける取組みに変更しました。

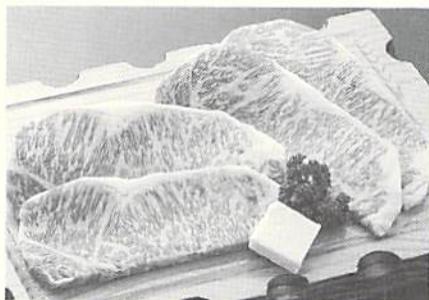
見直し当初は、お米や米沢牛、地酒など、米沢を代表する特産品二十六品目でしたが、その後も品目を追加し、現在は約一〇〇品目まで増えています。

これにより、寄附件数、寄附金額も増え、平成二十七年度は寄附件数二九、一六二件、寄附金額は約一九億円となり、全国で十一位、山形県内では天童市に次いで二位

という結果になりました。

一般的には、米沢は米沢牛というイメージが強いようですが、このふるさと納税を通じて、豊かな食材、そして、古くから培ってきた米沢の「ものづくり力」が生み出す確かな品を全国に情報発信し、地域経済の活性化や「米沢」の更なるイメージ向上に寄与していくとともに、寄附者からお寄せいただいた大切な「思い」を施策に反映させ、市勢発展へつなげていきたいと考えています。

最後に、米沢有為会の皆様から温かい応援をいただいておりますこと、この場をお借りしまして心より感謝申し上げます。



返礼品でもやはり人気な「米沢牛」



本市のものづくりによる返礼品「有機E1テラススタンド」

長井市

「産業のイノベーション」 (新しい結合)を推進」

長井市では平成二十六年にまちの将来像を「みんなで創る しあわせに暮らせるまち 長井」とする「第五次総合計画」をスタートさせました。また、平成二十七年には「長井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、「教育・子育て」を軸に、「移住・定住・交流」、「雇用・働く場」、「まちづくり・地域づくり」の好循環で子どもや子育て世代にとって魅力あるまちづくりを目指すための十のリーディングプロジェクトを推進しています。

長井市の発展は、江戸時代の最上川舟運に始まり、この時代に定着した養蚕や絹織物が大正時代に鉄道の敷設とそれ以後の郡是製紙や東芝長井工場などの誘致へとつながりました。一九四七年に行われた東芝長井工場の誘致は、その後の高度経済成長を担った製造業の集積を誘導し、多数の企業誘致や地場企業の創業がありました。現在においても製造業は、本市の有力な産業ではありま

すが、産業のグローバル化とともに地方の製造業の役割は変化し、製造品出荷額や従業員数は往時の半分程度に縮小をしています。また、商業についても、市外資本の小売店が多数進出し、進出と撤退が繰り返される等、店舗の流動とともに市街地の構造が急激に変化しています。

こうした、本市の経済や都市環境の変化は、これまでの産業モデルや暮らし方さえも変えていく必要があることを示しています。進出した大規模な工場等が大きな雇用を生み出し、そこで雇用された市民が地域の商業を潤すというような経済循環、また、農業における米を中心とした経営など、これまでの地方の経済モデルに今後とも頼り続けることは極めて困難です。そこで、地域経済においても市民の暮らし方においても「イノベーション」が必要なのです。

「第五次総合計画」においても「長井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」においてもその目指しているものは「新たに創られるしあわせ暮らし」や「子育て、住まい、働く場、地域の好循環」といった「イノベーション」により導かれる未来の姿です。

「イノベーション」を長井市において実現するための施策を平成二十八年度からさらに充実して展開しています。まず、「イノベーション」の本市における進め方ですが、市外の人々との交流を図りつつ長井市が「こと（事）起し」の場となることを目指します。この場となるために必要な施設整備や市民等の活動支援を農業、商業、工業、観光の各分野を横断して進めていきます。産業分野において以下のとおり具体的な事業を推進していきます。

観光

① やまがた長井観光局

これまでの本市の観光は、あやめまつり、ながい黒獅子まつりなどのイベントが中心で、八月の水まつりが終わると観光客が一気に減少していました。そこでこれからは、イベントに加え、四季を通して長井の魅力を体験してもらおう滞在交流型観光を推進し、年間を通して観光客が訪れ、消費を増加させることによる地域の活性化を目指します。

「やまがた長井観光局」は、市内にある各団体や個人が一体となって地域観光のマネジメントを行い、また観光客をおもてなしするための組織として、平成二

十八年三月に開設しました。このような組織は、「日本版DMO（観光地域づくり推進法人）」とも呼ばれ、県内では初の試みです。

「やまがた長井観光局」では、「観光のワンストップ窓口」として一元的な情報発信・旅行商品販売を行い、さらに、地域資源のブラッシュアップとブランド化・商品化の支援や、観光全体のプロモーションなどにも取り組みます。市内での滞在をより楽しんでもらうために、「オール長井」で観光振興、交流人口拡大を目指していきます。



多くの観光客でにぎわう「ながい黒獅子まつり」



四季を通して様々な表情が楽しめる最上川フットバス

② 長井市観光交流センター「川のみなと長井」

長井市観光交流センターは、市内を南北に流れる最上川と一日に一万七千台もの通行量がある国道二八七号に接しており、市街地や市内各所に観光客などを引き寄せる「観光交流のへそ(拠点)」として整備されています。市民自らが観光客に市内産業や地域などを発信することで、まちなかの賑わい創出を目的としたものです。また、「川のみなと長井」は、舟運文化で栄えた長井をイメージいただくために全国からの公募により命名しました。

観光交流センターには、やまがた長井観光局を中心とした道路情報、観光情報、地域情報の発信といった情報の発信機



長井市観光交流センター「川のみなと長井」イメージ図
(H29. 4月オープン予定)

能、地域特産品等の紹介や地場産品を活用した創作メニューの提供、まちなかで行われていたイベントや産業、地域等の紹介などの発信機能を備えます。さらに、二十四時間利用可能な駐車場やトイレなどの休憩機能を設置し、「道の駅」への登録を目指しています。平成二十九年四月のオープンを予定しています。

起業・創業

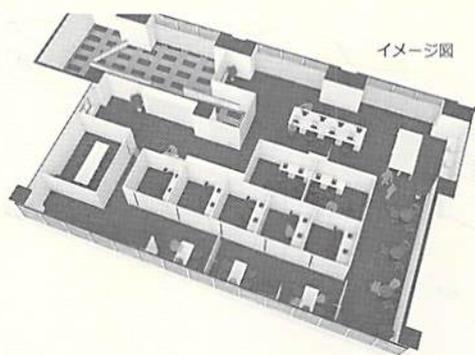
① インキュベーション機能整備事業

地域に若者が就きたい仕事を増やしていくためには、魅力のある多様な働く場を創っていくことが重要です。若者が自ら就きたい仕事を起こし、やりがいを感じながら暮らせる環境を整備することが必要だと考えます。

さらに、現在注目されているIOTやICT等の分野は、様々な産業と連携・融合することにより相乗効果が期待されます。地域最大の雇用の受け皿である製造業の高付加価値化にも不可欠な要素と考えており、これらの分野の人材創出、誘致、育成を地域で行っていかねばなりません。

現在、一般財団法人置賜地域地場産業振興センターが運営主体となり、長井市内タスビル2Fにて整備を進めているインキュベーション施設（通称：イノベーション1st、長井1st）では、SOHO・サテライトオフィス用施設として、個別ブースや共有デスクなどの設置、共有ネット環境やオフィス機器等の整備を行っています。

また、インキュベーションオフィスの配置や専門スタッフによる経営・技術的な課題解決のサポートや、起業・創業から地域産業との連携等まで幅広く支援していきます。



イメージ図

「人・こと・もの」の出会いの場
～インキュベーション施設～

本施設を核として、「人・こと・もの」が出会う場を創出し、新たな産業が地域に生まれ、根付くことにより、持続可能な幸せに暮らせるまちの実現を目指します。

② 六次産業化推進事業

農業分野では六次産業化を推進していくことで農と食を素材としたイノベーションの創出を目指していきます。農業者自身による新たな農業経営の展開、農業、飲食店、食品製造業、その他様々な異業種との連携で新たな付加価値を産み出していくための方向付け、環境整備が必要です。

本市では平成二十六年に関係機関、事業者、生産者で構成する六次産業化推進協議会を設立し課題整理を行ってきました。その中で、実践者となる人材の育成、ターゲットを明確にした商品開発、長井の売りは何かを明確にしたブランド、ストーリー作りといった販売戦略の重要性が議論されました。

そうした議論を踏まえて、今年度は、地域素材の商品化に精通した専門家を招いてアドバイザーを受けながら、推進の方向性をまとめる六次産業化戦略構想を策

定します。その中で、食や農業についての長井らしさ、長井のこだわりを示す長井版ガストロノミーというようなマニフェストを策定し、ブランドの構築を目指していききたいと思います。また、情報発信の場として各種交流会や定期的なマルシェの開催を企画していきます。

こうした六次産業化の推進やブランド化を契機として、既存の農業が活性化され、新たな産業が地域に生まれることで雇用が創出され、自己実現が可能な賑わいのあるまち長井の実現を目指します。

③ 新規就農・移住定住推進事業

本市の農業は、農業従事者の減少や高齢化並びに後継者不足が進み、農業粗生産額も減少の一途にあります。そのような中で国においては今後十年間内で、「農業・農村全体の所得倍増」、「コメの生産コストの四割削減」、「全農地の八割を担い手によって利用する」、「新規就農により農業者を倍増し四十代以下の農業従事者を約四十万人に拡大する」等の目標を掲げ、様々な施策が展開されています。

農業及び農村の活性化や再興は、地方創生において

も不可欠なものの一つとなっており、新規就農者の育成や農村への移住定住は欠かせない重要な課題となっています。農業・農村の体験から始め、農業研修生を受け入れ、そして独立や雇用就農へと誘導しつつ農業・農村の活性化を図って参りたいと考えております。そのため、新規就農に伴う移住者への支援や農業研修生への生活支援、さらには独立・自立を目指す方には農地や機械施設等へ支援施策を新たに創設し、新規就農、移住定住等を推進し、本市農業の振興を図ってまいります。

むすび

「産業分野におけるイノベーション(新しい結合)」は、新しい技術を開発するだけでなく、従来のモノ、しくみ、組織などを改革して社会的に意義のある新たな価値を創造し、社会に大きな変化をもたらす活動全般が重要であると捉えております。

「みんなで創る しあわせに暮らせるまち 長井」を将来像とし、賑わいと働く場を創出するため、産業分野における具体的な事業を推進してまいります。

南陽市

「ラーメン課」で南陽市のラーメンを 全国に発信！

南陽市では、平成二十八年度から新たに「ラーメン課」がつくられました。ただし南陽市の「ラーメン課」は、「市民課」や「税務課」のように、条例で定める正式な市役所の組織ではありません。南陽市民が愛して止まない地元の美味しいラーメンを、南陽市の強みとして発信し、ラーメンを主役にした様々な取組を通して地域活性化につなこうとするまちづくりのプロジェクト名です。正式には「南陽市役所ラーメン課R&Rプロジェクト」と称し、「R&R」はRamen & Revolution（ラーメン革命）の略で、「課」は行政組織の名称を仮想的に模した事業の名称です。これまでにないまちづくりプロジェクトとしての期待と、市を挙げて取り組む決意の表れでもあり、すでに現在まで、事務局を担うみらい戦略課以外に、ラーメン好きな二十人以上の職員が各課から横断的に「ラーメン課員」としてプロジェクトに参加しています。

このプロジェクトの背景には、人口当たりのラーメン

店舗数全国一位を誇る山形県内の中でも、他に引けをとらない店舗の多さと、どの店舗のラーメンも自信を持ってお勧めできるその美味しさにあります。また、市内中高生を対象にした意識調査で、「市外、県外の人に案内したい場所、見せたい・教えてあげたいイベント」の問いに、ラーメンという記述回答が多数寄せられたことや、平成二十七年、地方版総合戦略策定のための市民カンファレンスでも、ラーメンによるまちづくりが提案されるなど、ラーメンが幅広い年代に愛されている市民性が今回のプロジェクト誕生に繋がっています。

平成二十八年七月二日、世界最大の木造コンサートホールとしてギネス認定[※]を受けた南陽市文化会館を会場に、いよいよプロジェクトが始動しました。市職員以外の、一般の「ラーメン課員」募集に名乗りを上げてくれた全国のラーメンファンと、東北芸術工科大学グラフィックデザイン学科赤沼明男准教授のもと、参画する学生の若い力、さらには、地元ラーメン店の組織「赤湯麺業組合」会員が結集して、ラーメンを愛する者たちによるラーメンを主役にした「ラーメン革命」のキックオフとなりました。

初めに、南陽市長が、「山形のラーメン文化を支える

おもてなしの心で、南陽市のおいしいラーメンを全国に知っていただき、全国から食べに来ていただける取り組みを」と誓うと、キックオフを記念して市内企業から篤志で製作寄贈いただいたプロジェクト看板を、関係者代表が除幕を行いました。

続いて、南陽市長から「ラーメン課」の辞令が「課長」と「課員」代表者に交付されました。また、南陽市のラーメンを絶賛され、このプロジェクトにアドバイスをくださった前佐賀県武雄市長の樋渡啓祐氏を、「南陽市ラーメン大使」として委嘱しました。

その後、「ラーメン課長」と赤沼明男准教授（東北芸術工科大学）から、プロジェクトの説明が行われました。今後の具体的な取り組みにつながる大事なスタートの瞬間を、市内外からの多くの一般の方々や、市内ラーメン店の方々と共に確認できたと感じています。

「ラーメン課」の当面の目標ですが、まずは初年度に、市内ラーメン店のデータベース化とラーメンマップの作成を行います。一軒一軒を訪問しながら、市内に一体どれだけの数のラーメン店があるのか、そしてお店での直接の取材を通して、実際のラーメンの味と店主の仕事ぶりにふれながら、南陽市のラーメンの実態とお店ごとの個性をしっかりと把握していきます。一見地味なこの活動

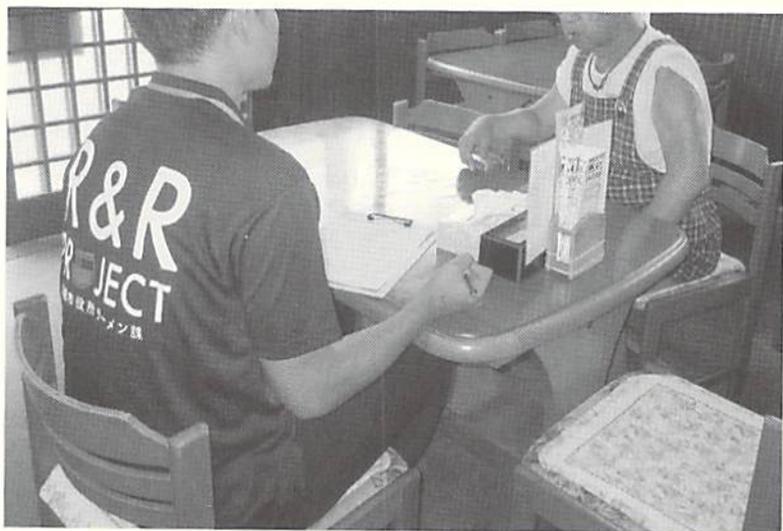


平28年7月2日キックオフにて プロジェクト看板を関係者代表が除幕

こそが、外への魅力PRと将来の具体的アクションづくりに欠かせない重要なものだからです。

平成二十八年九月現在、プロジェクトを支える「ラーメン課員」は約八十名を数え、フェイスブックやLINE等のSNSによる情報発信体制も徐々に整い始めました。外では、大学生たちが、連日の取材を通してお店の情熱とこだわりぬいた絶品の味を、如何にしてマップに表現しようかと日夜研究を重ねています。

ラーメンを観光資源として賑わいを創出し、一億二千万人への情報発信、南陽市のラーメンファンクラブ一〇〇万人を目指した「ラーメン課」プロジェクトは、未だ始まったばかりです。人口減少社会の中で、地域の足元に目を落とし、埋もれた資源・強みをいかに掘り起こし、研ぎ、育て、地方創生につなぐことができるかは、今や地方に住む私たちの創意工夫に懸かっていると一言しても過言ではありません。山形県民なら誰もが愛する、県内のどこでも提供するラーメンを主役にした取り組みを、まずは南陽市が山形県のトップランナーとなり、交流人口の増加と魅力あるまちづくりにつなげていくことで、広域的な展開も可能になるのではと考えます。これまでになく南陽の魅力や、これまでにない山形の魅力に広げていくため、「ラーメン革命(R&R)」はいよいよ加速します。



東北芸術工科大学生たちによるラーメン店への取材の様子

高 島 町

廃校を活用した大人の社会塾 「熱中小学校プロジェクト」



二〇一〇年
（平成二十二年）
三月をもって閉
校した高島町立
時沢小学校。そ
の小さな山あい
の小学校が、廃
校から五年が経
過した昨年十月
に、今度は大人
が学び集う「熱
中小学校」とし
て生まれ変わら
れました。

このプロジェ
クトの目的は、

①再興小学校を利用した地方と首都圏をつなぐ大人の社
会塾②地域との共生（農業・里山）を学ぶ場の創出③最
新技術と人が集まり、創業・起業精神を育む場の創出で
す。

「もう一度七歳の目で世界を・・・」をキャッチフレーズ
に、企業経営者や大学の研究者など第一線で活躍する経
験豊富な「先生」（現在五十人超が在籍）が、国語・算数・
理科・社会・図工・体育・道徳など、それぞれの得意分
野の教科を受け持ち、月二回の授業が行われています。
生徒は、半年間で一学年を修了し三年間で卒業すること
になります。現地で直接授業を受けられない場合でも、
インターネットを通して授業が受けられる環境も整備さ
れています。授業料は一期（半年）で五十歳未満が一万
円、五十歳以上が二万円です。

この「熱中小学校」という名称は、昭和五十年代中頃
にテレビ放映され人気を博したドラマ「熱中時代」のロ
ケーション撮影が、当時の時沢小学校で行われたことに
由来して命名されました。

「キックオフ」

このプロジェクトは、廃校舎を利用して起業支援等が
できないか思案していた南陽市のNDソフトウエア(株)の



は正式開校となりました。一期生八十四人を迎えた入学式には、内閣官房まち・ひと・しごと創生本部山崎史郎地方創生総括官（当時）も来賓として出席しました。

【多彩な教師陣】

熱中小学校の校長は、空きスペースを貸し出す事業を

佐藤廣志社長と、東京や福島で空きスペースを活用した起業支援を手掛けていたオフィス・ロボットの堀田一美氏に、町が旧時沢小学校を紹介した一昨年の十二月から始まりました。それから半年も経たない昨年五月にオープンスクールを実施、構想から一年も経たない十月に

手掛ける㈱スペースマーケットのCEO重松大輔氏、教頭は日本IBMなどでの職歴をもつ㈱ソラコム代表取締役社長の玉川憲氏（二人とも一九七六年生まれ）が務めています。教師陣も、日本語ワープロソフト「二太郎」を開発した浮川和宣さん（国語担当）や元山形大学長の仙道富士郎さん（保健室担当医）、元「オフコース」のドラマー大間ジローさん（音楽担当）など、様々な業界で豊富な経験と実績を持つ方々が名を連ねています。

◀重松大輔校長



▶授業風景

【農地再生にも取り組む】



時沢地区は町内有数のブドウの産地ですが、農家の後継者不足等に伴い耕作放棄地が増加しています。そこでブドウ畑の再生をめざそうと、地元ブドウ農家と生徒たちが学校近くの二〇町の耕作放棄地を借用し、ワイン用のブドウ品種カベルネ・ソービニヨンの苗木を植樹しました。ワインづくりに適した実がなるには五年以上かかりますが、生徒たちは収穫したブドウで造るワインを楽しみにしています。

【最新技術に触れる】

山形大学工学部の協力を得て、理科室には3Dプリンターやレーザー加工機が常設されており、大学生の指導の下で誰でも体験することができます。またマルチコプター（無人飛行機ドローン）の操縦研修など、地方にい



ても最新の技術に触れることができる取り組みにもチャレンジしています。

【これからの展開】

「熱中小学校プロジェクト」は今後、全国規模での事業展開を計画しています。すでに今年八月には福島県会津若松市で「會津熱中塾」が、九月には富山県高岡市で「高

岡熱中寺子屋」が開校しました。さらに、十月には東京都八丈町で「八丈島熱中小学校」が開校します。さらに来年度の開校をめざして北海道更別村、徳島県上板町、宮崎県小林市においても準備を進めています。学びを通して人と人が交流し、新たなビジネスが生まれ、さらには移住につながっていくことが期待されます。

熱中小学校に関するお問合せは、熱中小学校事務局〇二三八(三三三)九三九二まで。



川西町

「夢と愛を未来につなぐまち」を目指して

大きな成果を残した「協働のまちづくり」

川西町は、平成十六年六月「川西町まちづくり基本条例」を制定し、町民の皆さんと行政（役場）が、情報の共有を図り、互いに信頼し、連携しながらまちづくりを進める「協働のまちづくり」を推進してきました。

平成十八年度から始まる第四次川西町総合計画では、計画づくり、進行管理、改善見直しと事業の推進において、多くのみなさんにご協力をいただき、大きな成果を残すことができました。

「夢と愛を未来につなぐまち」への挑戦

平成二十八年年度スタートした「かわにし未来ビジョン（第五次川西町総合計画）」は、地方分権改革が進む中、町独自の施策として、町の現状や課題を分析し、その課題への対応と町の発展を目指す計画となっています。

現在日本は、人口が減少する一方、国民の「長寿化」による少子高齢化が進行しています。また、地方から東

京圏への人口の一極集中が進んでおり、特に若者の都市部への流出は、少子化に一層拍車をかけており、これらの対策が求められています。

国は平成二十六年十二月、五十年後の日本の人口を一億人維持する「長期ビジョン」とその対策を示す「総合戦略」を決定しました。「かわにし未来ビジョン」では、国が求める「まち・ひと・しごと創生法」と整合性を図り、人口減少、少子高齢社会の克服を目標としています。

基本目標「夢と愛を未来につなぐまち」田園回帰の時代の流れの中で「」には、郷土愛や人間愛を育んできた歴史や伝統文化、豊かな食を生み出す豊穡の大地など、この理想郷アルカディアの里を未来に引き継ごうとする、私たちの意思が込められています。本町の課題である人口減少、少子高齢化を克服し、町の魅力を高め、この町に「人



田園回帰の時代の流れの中で

を呼び込む」勢いのあるまちづくりを推進していきます。まちづくりの基本は「ひと・ちいき・しごと」づくりです。この町で暮らし、働き、ともに喜びあい、次の世代を育て、確かなバトンを渡すことが私たちの使命です。また、まちづくりは、

血管を流れる血液のように休むことなく循環し、

全町民にエネルギーを送り続けなければなりません。そして、みなさんの期待に応える活力ある町と確かな未来を、築いていかなければなりません。国際化、情報化をはじめとする社会環境の変化は大きく、課題は山積みしています。私たちは歴史を切り開くパイオニアとして、町民のみなさんと共に創る「共創」の新たなまちづくりを挑戦していきます。

「かわにし未来ビジョン」策定に当たり、貴重な時間と建設的なご意見をたくさんいただいたみなさんに感謝



夢と愛を未来につなぐ

申し上げるとともに、今後ともビジョン推進にご協力いただきますようお願い申し上げます。

川西町交流館「あいばる」が開館しました

中学校から交流施設へ

川西町交流館「あいばる」は、置賜地方のほぼ中心、かつてイギリスの女性旅行家イザベラ・バードが「アジアのアルカディア」と称えた、「鉛筆で描いたように美しい」田園風景の中に所在しています。建物の大きな窓からは吾妻・飯豊・朝日・蔵王の山々と、人の営みと自然が織りなす四季折々の景色を臨むことができます。

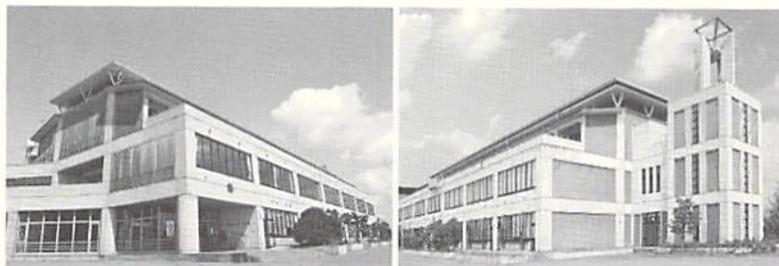
当館の建物はかつて川西町立第二中学校として平成八年に建てられたものですが、生徒数の減少により平成二十二年度をもって閉校となりました。その後、跡地利用の議論を経て、のべ四年をかけ校舎や体育館の屋根を改修、学校施設から交流施設への用途変更のための工事を施し、平成二十八年六月四日、無事開館を迎えることができました。

愛称の「あいばる」は、「出あい」「ふれあい」「語りあい」「学びあい」の「あい」、友達や仲間といった意味

をもつ「コミ」を組み合わせた作品で、町内外から寄せられた多数の応募作品の中から選ばれました。交流の輪を大きく広げ、町に賑わいを創出する場となって欲しいという願いが込められています。

施設紹介

当館では学校時代の施設を活かして貸館をおこなっています。一階の会議室(旧教室)、多目的ホール、二階の調理室、三階のスタジオ(旧音楽室)のほか、屋内・屋外運動場のご利用も可能となっています。会議・趣味・サークル活動やレクリエーション、その他交流の場として是非ご利用下さい。



今年リニューアルオープンした川西町交流館あいばる

また、当館は本町の歴史や文化を学ぶことができる文化施設としての役割も担っています。一階には町出身の人物を紹介・展示する「アルカディア人物館」、二階には国指定史跡・下小松古墳群をはじめとする町内の各遺跡から出土した考古資料を収蔵・保管・展示する「埋蔵文化財資料展示館」と、本町出身で作家・劇作家の井上ひさし氏の蔵書約二十二万点を所蔵する「運筆堂文庫」のバックヤード的役割を果たす「運筆堂文庫分室」があります。

さらに、三階の教室は、部活動の合宿や各種研修などでのご利用を想定した簡易宿泊施設に改修いたしました。一階には宿泊者専用のシャワールームも設置していますので、安心してご利用いただけます。なお、施設のご利用については、当館までお気軽にお問合わせ下さい。

アルカディア人物館 ～川西のバイオニア～

当館の中で、今回特にご紹介したい施設が「アルカディア人物館」です。近代(明治期)以降、それぞれの分野で顕著な業績を残した町出身の五名の人物を紹介する展示コーナーで、今後のまちづくりにおいて、その精神の継承を図ることを目的として設置しました。

展示コーナーには、本人の直筆書簡や学生時代に使用した教科書、青春の日々を書き綴った日記や、関わりがあった要人に関する資料など、ご家族や関係者からご貸与・ご寄贈いただいた大変貴重な資料を展示し、対象者の類稀なる業績や人となりについて紹介しています。

対象者は、玉庭出身で愛知大学創立者・最高裁判所初代事務総長の本間喜一氏、中郡出身で洋画家・東京川西会初代会長の黒澤梧郎氏、小松出身で英語学者・慶應義塾大学名誉教授の高梨健吉氏、吉島出身で青年運動の分野で著名であり青年海外協力隊の生みの



遅筆堂文庫分室



アルカディア人物館

親の一人でもある寒河江善秋氏、小松出身で作家・劇作家の井上ひさし氏です。

彼らの生涯をたどってみると、ふるさとから離れたことでより強く育まれた、ふるさとへの愛情が活動の原動力になっていたことがわかります。

今後、アルカディア人物館が、皆様のふるさとに対して改めて目を向け、より深く知るきっかけとなること、さらに、本町ひいては日本の未来を担う新たなパイオニアの誕生に繋がることを願ってやみません。

※顕彰対象者に関する資料やエピソードをお持ちの方がいらっしゃいましたら、当館までご連絡下さい。

地域の人々の交流の場として

ここまで、川西町交流館「あいばる」についてご紹介してきましたが、当館はまだ産声を上げたばかりです。今後、皆様からご意見やご要望などを伺いながら、皆様とともに育てていくことができると考えています。お近くにお越しの際は、是非足をお運びいただき、どこか懐かしい学校の雰囲気を感じていただければと思います。また、皆様のふるさとにおける交流の場としてご利用いただければ幸いです。

小 国 町

小中高一貫教育と子どもたちを育てる

多様な力

～学校と地域のさらなる連携を目指して～

小中高一貫教育の実践

本町教育の柱である小中高一貫教育では、平成二十六年三月に、「国際情報」と「白い森学習」に、「おぐにスタンダード」を加えた新たな小中高一貫教育構想を策定し、「確かな学力」、「健康と体力」、「豊かな心」を兼ね備えた「人間力」の育成を目標に取り組んでいます。

「おぐにスタンダード」とは、「学力向上」、「読書活動」、「規範・挨拶」、「体力づくり」、「生活リズム」の五つを小中高一貫教育の連携の視点として、小・中・高が一体となった取り組みを進め、さらに、この連携した取り組みを、学校のみでなく地域や家庭の協力を得ながら実践していくこととしたものです。

各学校では、挨拶運動週間の統一化や学校を越えた交流授業、交流活動など、様々な取り組みを行っています。

学校へのICT機器の導入

めざましい情報技術の進歩は、私たちの生活を大きく変貌させています。教育の現場においても、そうした環境変化を的確にとらえながら、情報通信技術（ICT）の有効性を最大限に活用し、より効果的で効率的に学習に生かしていくことが求められています。

これまでの小中高一貫教育の推進の中でも、教育課程特例校の指定を受け、「国際・情報」を教育科目として取り組んできました。

また、平成二十六年度には、町内小中学校へのICT機器の導入に向けた調査を行い、これに基づき、平成二十七年年度から計画的に新たなICT機器の導入を進めています。

昨年度は、町内の小国小学校の全クラス（十三教室）に電子黒板や書画カメラ、教師用パソコン、デジタル教科書などを配備し、各授業で活用をしています。

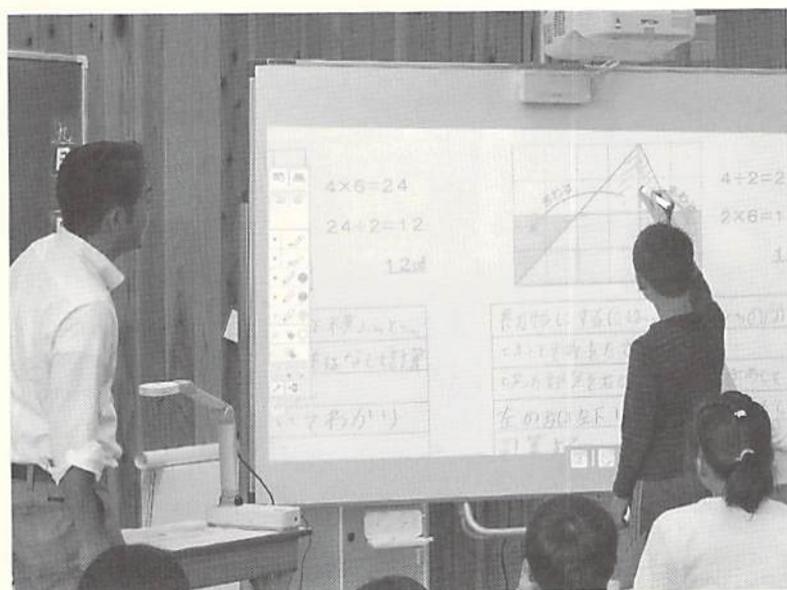
また、今年度においては、小国小学校以外の小国中学校、叶水小中学校に電子黒板を、今年度と来年度では、各小中学校にタブレット端末を整備するとともに、デジタル教科書や教育用のソフトを導入し、さらなるICT教育の推進を図っていくこととしています。

学校では、「ICT機器の導入によって、これまでに以上に授業の幅が広がり、子どもたちが学習のイメージをつかみやすくなったように感じる」、「電子黒板という新しいものに興味があることも一因ではあると思うが、以前より、子どもたちが教室の前に出て発表する機会が増えたように感じる」、「画面の拡大や動画を再生する機能があることで、児童生徒の興味関心が高められ、子どもたちの多様な能力に応じた学習ができる」、さらに、「教員側の教材準備の時間が短縮する」といったメリットがあるなど、ICT機器導入の効果があがっています。

今後は、「情報」の教科だけでなく、様々な教科や活動でICT機器を活用し、子どもたちの学習意欲の向上や、個々の能力に応じた学習の展開に取り組みむことにしていきます。

白い森学習支援センターの取組

こうした取り組みに加え、子どもたちの学力や学習意欲の向上を支援するため、町では、平成二十六年七月に「白い森学習支援センター」を設置し、町内の中核企業と協定を結びながら、その人材を活用した学校外での学びの場の創設と、希望する児童生徒を対象とした、休日や学



校の長期休暇を利用して学習する機会等を提供していません。

平成二十七年度は、子どもたちの豊かな学力の向上を目的とした「学習講座」や「英会話講座」、英会話やスポーツ講座、図書館利用を含めた「土曜講座」を開催しています。

白い森学習支援センターでは、学力の向上とともに、子どもたちが地域の良さを学び、地域のかたとの交流を深め、地域との絆を強める活動にも力を入れています。

今年度は、学習内容の質の向上と参加者の拡大に向け各学校との連携をさらに図っていくこととしています。

地域全体で子どもたちを育てる

子どもたちを取り巻く環境が大きく変化している中で、次代を担う子どもたちが、いきいきと成長していくためには、これまで以上に学校、地域、家庭が一体となって子どもたちを育てていく必要があります。

今後も町では、環境の変化を踏まえながら、地域、学校との連携を強化し、小中高一貫教育の目指す「人間力」を高めていくための環境づくりと学習支援を推進することにより、魅力あふれるまちづくりにつなげていきます。



SHIRATAKA RED



白鷹町

色を使った新たなまちづくり

「SHIRATAKA RED (シラタカ・レッド)」

白鷹町は紅花生産日本一であることから、「日本の紅(あか)をつくる町」として「紅(あか)」をテーマに交流人口拡大、観光

振興に力を入れています。紅花を原料としてのみならず、地場伝統産業や農産物のブランド化においても紅(あか)をキーワードに品格ある紅花産地のブランド化を進め、紅(あか)にこだわった商品として「SHIRATAKA RED」を展開し認知度を高め、町内産品の付加価値を上げることで経済活性化を図っています。

昨年には、町の観光交流大使であり、「SHIRATAKA RED」の発案者である青木実氏によってデザインされたロゴマークも完成し、白鷹産物のPRに



広く活用しているところです。

みんなで作る白たかの紅(あか)

この「SHIRATAKA RED」は、紅花をはじめ、ミニトマトやあかすももわいん、リングゴ、もみじ鮎、登り窯の炎など、町自慢の紅(あか)いものすべてを指します。これらは、それぞれが町民の皆さんの手によってつくられていることから、「みんなで作る白た



タカ・レッドはみんなで作る白鷹の紅（あか）であることを表現しています。CMは、山形テレビで年間百八

かの紅（あか）シラタカ・レッド」をキャッチコピーに掲げ、昨年、町の広報誌の表紙として取り上げました。

また、昨年末の第十六回山形ふるさとCM大賞では、この「SHIRATAKA RED」をテーマにした作品を制作し優秀賞を受賞しました。テンポの良いサンバのリズムに合わせ、「紅（あか）」の生産者や関係者の皆さんが楽しく自由に踊ることで、シラ

十回放映されているほか、町のホームページからご覧いただけます。

紅（あか）を全面に出した列車がデビュー

今春、地方創

生を地域連携で推進する母体として、フラワー長井線の沿線である長井市、南陽市、川西町、白鷹町の二市二町及び県、山形鉄道株式会社などによるフラワー長井線沿線「稼ぐ力」創造協議会が発足。第一弾として、各自自治体のブランド発信のた



め、車両にラッピングが施されています。

白鷹町では、町のシンボルである「紅花」がデザインされた真っ赤な車両が、半夏生の七月一日にデビュー。

同日に四季の郷駅において行われた記念セレモニーが多くのメディアで取り上げられ、話題を呼びました。

のどかな田園風景の中を縫うように走るラッピング列車は、フラワー長井線の利用拡大はもとより、白鷹町の紅（あか）のPRに大きくつながっています。

ブランドを売り出そうとする動き

六月二十五日と二十六日の二日間、しらか産直市場どりの農園において第一回目となる「しらたかレッドとまと祭り」が開催されました。これは、シラタカ・レッドの一つである町自慢のトマトを、より多くの方に知ってもらうことを目的に開かれたものです。会場では、数種類のトマトやトマトの加工品が販売されたほか、トマトすくいなどのイベントも行われ、県内外の多くの人で賑わいました。



このように、町民の皆さん自らが主体となり、「シラタカ・レッド」というブランドを売り出して、こうという取り組みが広がっています。町といたしまして、町民の皆さんとともに「SHIRATAKA RED」の拡散に努め、「白鷹町と言えば紅（あか）」というイメージを確立していきたいと考えております。

飯 豊 町

まち・ひと・しごと創生総合戦略

飯豊町は、昭和三十三年の町制施行以降、ゆるやかに人口が減少しています。「地方創生期」にあるいま、町の将来を明るく、可能性に満ちたものになりたい、そのためにいま「未来へ種をまこう」。これが、「飯豊町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本方針です。

基本方針を基に五つの目標を立てました。目標を種にととえ、人材を育成する「人をはぐくむ種」、子どもから高齢者まで笑顔で暮らす「世代をつなぐ種」、移住・定住・観光・交流など、人の流れをつくる「縁をつむぐ種」、持続可能な農山村を構築する「郷土をたがやす種」、そして、農山村が経済的自立を目指す「可能性をひらく種」です。

土を耕し、種をまき、水を注ぎ、愛情を与え育てる。五つの種がつぼみとなり、花を咲かせる頃、飯豊町は日本でも最も美しい村になります。

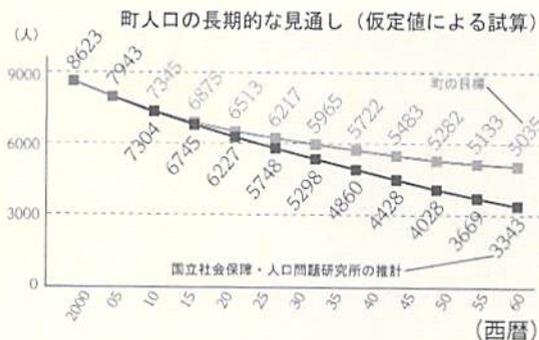
総人口の推移

当町の総人口は、一九五〇年の一六、七九六人をピー

クに減少傾向で推移しています。二〇一五年国勢調査速報値の人口は七、三〇四四人で、ピーク時と比較して九、四九二人減少し、二〇一〇年国勢調査と比較しても六三九人の減少となっています。

当町人口の将来展望

国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、当町の二〇六〇年の総人口は三三、三四三人まで減少すると見通されています（下図）。二〇一〇年比、六割程度の減少となります。減少を四割程度に留め、二〇六〇年において五、〇〇〇人程度の人口を維持し、高齢化率を二九・五％程度に抑えることを目指します。



町の人口の長期的な見通し（仮定値による試算）

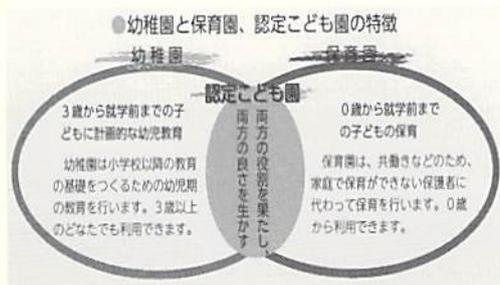
認定こども園が開園

さゆり保育園（中地区）といいで中部幼稚園（萩生地）が、飯豊町初の幼保連携型認定こども園「飯豊わくわくこども園」として新しくオープンしました。

昨年度末まで、さゆり保育園は厚生労働省管轄、いいで中部幼稚園は文部科学省管轄のもと、別々の施設として運営していました。今年四月から両施設は、幼

保連携型認定こども園として山形県から認定を受け、別々の場所にあるものの一つの園として運営していくことになりました。管轄は内閣府です。

旧さゆり保育園を「乳児部（〇～二歳児）」、旧いいで中部幼稚園を「幼児部（三～五歳児）」とし、子どもたち全員が、二歳児までは乳児部で保育を



幼稚園と保育園、認定こども園の特徴

受け、三～五歳児までは小学校へ入学する前の幼児教育を受けることで、集団行動を園活動の中で実際に体験することで、小学校での教育へとスムーズな移行を図っていきます。

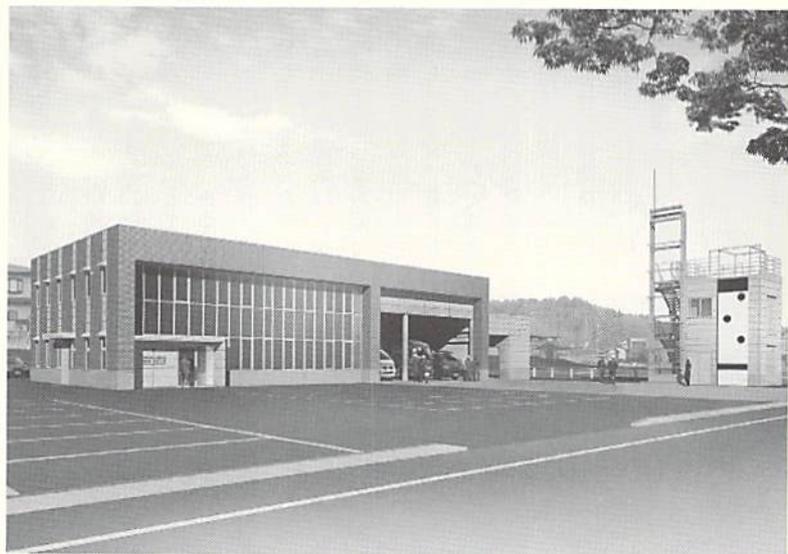
幼保連携型認定こども園とは？

幼稚園と保育園の良いところを生かし、子どもたちの「教育」「保育」「子育て」を一体的にできるようになりました。また、子どもが認定こども園に通っていない保護者にも、「子育て相談」や「親子の集いの場」を提供することができま

消防署飯豊分署建設工事開始

西置賜行政組合消防署飯豊分署は、昭和四十八年十二月に萩生の現在地に建設されてから、既に四十二年が経過しており、庁舎や設備の老朽化で機能が低下しています。さらに、国の耐震基準を満たしていない状態です。また、平成二十三年三月十一日発生の東北地方太平洋沖地震による震災を機に、消防や防災施設の重要性が改めて認識されました。

その結果、平成二十六年年度の完成をめざして、飯豊分署を新しく建設することになりました。



消防署飯豊分署完成イメージ図

地域の皆さまのご理解とご協力をいただきながら、新しい飯豊分署の設計の基礎となる基本構想の策定に取り組みました。平成二十七年度は、基本構想を反映しての基本設計や実施設計、および各種手続きを行いました。
今後の予定

平成二十八年度には、椿地区の旧置賜農業高等学校飯豊分校グラウンドの南西部に、敷地面積二、四九九㎡で、飯豊産木材を多用した鉄骨造二階建ての分署庁舎棟（延床面積六八五・四四㎡）と倉庫棟（延床面積五五・四八㎡）を整備します。平成二十九年三月には、新庁舎で業務が開始できるように整備を進めていきます。

誕生！飯豊産の牛乳と農産品を使った アイスクリーム

飯豊の放牧牛の乳と農産品を使ったアイスクリームを開発したのは、町内の女性酪農家や飲食店、町などで組織する「いいでアイスクリームプロジェクトチーム」。アイスクリームは農家レストランエルベで販売され、シングル二六〇円、ダブル三八〇円、トリプル五〇〇円です。町内産のどぶろくやモモ、ラズベリー、さくらんぼ、パッションフルーツなど、飯豊を感じる味は全部で六種類。

使用している牛乳は、広大な牧草地で牛をのびのびと育てている(株)飯豊ながめやま牧場(添川)のものです。プロジェクトチームは、商品開発と同時にブランド化も進め、ブランド名やロゴマークなどを定めました。ブランド名は、「ohノ」と声を上げてもらえるような、山形で一番のおいしさを指し「hide いいで山やまohノ」。



アイスクリームと(株)飯豊ながめやま牧場の牛乳



バニラアイス

豊を囲む山々と牛乳に滴が落ちた時にできる「ミルククラウン」を圖案化。

プロジェクトリーダーでエルベ社長の菅野繁治さん(中地区)は「アイスクリームは年間を通して提供できる商品。そこに地元の野菜や果物を使うことで飯豊のおいしさも年間を通して提供できます。農家レストランとして、農家とお客様をつなぐ役目もあると考えているので、これからも地元食材を取り入れて、新しい味のアイスクリームを作っていきたいですね」と、アイデアを膨らませます。

同プロジェクトチームは平成二十六年度に組織され、三年計画でアイスクリームとソフトクリームの商品開発を進めてきました。ソフトクリームは来年のゴールデンウィークごろに販売される予定です。なお、商品開発は、特徴ある牛乳の生産と販売、乳製品の六次産業化を進める「県ミルクブランド推進協議会」の事業の一環として行われたものです。

「日通の森」森林育成活動 in 飯豊町十周年

活動の歩み

日本通運(株)は、平成十九年十月の創立七十周年記念事

業の一環として飯豊町中津川財産区有林（日本最大二〇〇〇ヘクタール）のうち七〇ヘクタール（東京ドーム約十五個分）を「日通の森」とし、そのうち二ヘクタールのコアエリアを中心として森林育成活動を始めました。

日本通運はトラックや鉄道、船舶、航空機を使用し物流事業を行い、日々二酸化炭素（CO₂）を排出していません。CO₂は地球温暖化の原因となり、「環境負荷の削減は企業の社会的責任」の考えのもと森林育成活動に取り組んでいます。同活動は日本通運グループ環境憲章に規定されている「地球環境の保全」のための活動の一環であり、社員やその家族がボランティアとして、植樹や下草刈りを継続的に行っています。植林したブナの苗木は今年約四〇〇本を合わせて三、六〇〇本です。

また、「日通の森」では環境保全活動のみならず、地元の方々との交流や大自然に囲まれて地球の豊かな恵みを体感することも参加者の楽しみのひとつです。現在では山形県飯豊町以外にも、鳥取県日南町、静岡県伊豆の国市の全国三カ所に「日通の森」を設け、森林育成活動を行っています。

今年九月二十四日に、日通の森で十周年記念式典を行いました。式典ではオオヤマ桜の記念植樹と草木塔（ソ

ウモクトウ）の建立を行いました。今後、建立された草木塔の一つを東京本社前に移設する予定です（十一月下旬）。



ブナ苗木の植樹



建立された草木塔
(右は本社前に
移設予定)

トピックス ①

秦逸三の胸像序幕

平成二十八年九月二十五日、米沢市松ヶ岬公園に秦逸三の胸像が設置され除幕された。秦は明治十三年（一八八〇）広島県安芸郡海田市町に生まれた。東京帝国大学工科大学応用化学科を卒業後、神戸税関に就職し、輸入人造絹糸の通関手続きの仕事をしたという。その後化学を学ばした職業をさがしていて、学友で東工業(株)の久村清太技師長のビスコースで人造絹糸製造の研究をしていることに触発されたという。そして明治四十五年四月米沢高等工業学校の応用化学科講師となった。大正二年六月教授となる。人造絹糸製造の研究に夢中になり失敗したりガス中毒でこん睡状態になったりしたという。大正二年十月工業学校の開校記念学術展覧会でビスコースから人造絹糸の製造装置を出展して人気を博した。

東工業が館山製糸工場を買収した翌大正五年八月、秦は工業学校を依願退職した。十一月人造絹糸業の視察で欧米に出張する。帰国後大正七年五月東工業(株)分工場米沢人造絹糸製造所から独立して帝国人造絹糸株式会社が



除幕式に参加の方々

設立されると、秦は取締役兼米沢工場技師長に就任した。その後大正十五年十月広島工場技術事業管理のため広島在勤となる。

その後ガス中毒による女工の健康問題や経済恐慌等々があり、昭和六年十一月五日操業停止となる。昭和九年六月帝国人造絹糸(株)常務取締役、同年九月第二帝国人絹(株)取締役社長、十七年三月一日社長退任、同年十二月帝国人造絹糸(株)常務取締役退任、顧問となる。昭和十九年五月二十五日没、行年六十五歳。

この度設置された胸像は、高さ七〇センチメートル、幅四五センチメートル奥行き三二センチメートルで、広島県の帝人三原事業所昭和二十七年から設置されていたもので、東工業米沢人造絹糸製造所設立から一〇〇年を記念して昨年米沢市に寄贈されたものです。設置にあたっては修復し台座も制作した。除幕式には大手化学メーカー帝人の鈴木純社長はじめ中川勝米沢市長、秦の親族ら関係者約三十人が出席した。



除幕式の様子

トピックス ②

「最大の木造コンサートホール」 としてギネス世界記録認定

南陽市文化会館は昨年十月にオープンし、一年が経過しました。おかげさまで、市民の方を始め多くの方からご利用、ご来場をいただいています。

この間、二十数回の大型イベントを開催しています

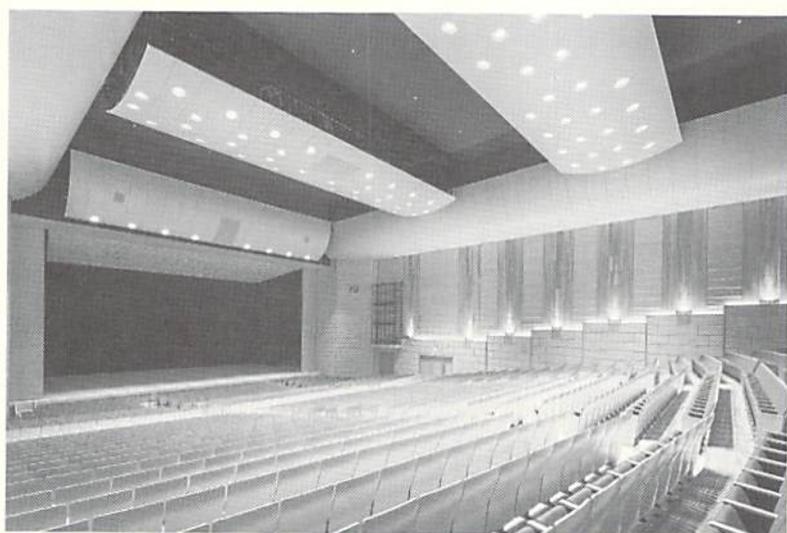


が、その度に多くのお客様からおいでいただいております、加えて、当会館を見学、視察にお願いした方も多く、この九月あたまで一万人を超えました。建築関係や林業関係の方、自治体や議会の視察、さらには学校の同窓会や各種団体など、いろんな階層の方々をお迎えしています。

さて、このような中、昨年十二月二十一日「最大の木造コンサートホール」として、ギネス世界記録に認定され、今年一月二十一日に認定証授与式が執りおこなわれました。

この会館建設にあたり、演奏家の方やプロモーターの方で構成する専門家委員会を立上げ、専門家の立場からの意見をお聴きしました。その委員会で木造コンサートホールで一四〇三席というのは世界最大ではないかというご意見をいただいたのが発端でした。それを受け調べた結果、「最大の木造コンサートホール」は、いまだだれもギネス挑戦したことがないことがわかりました。そこで果してギネス世界記録の項目になりうるのかをギネスワールドレコーズに確認したところ、クリアしなければならぬいくつかの条件がありました。

「メインホールの構造が完全な木造であること」



「毎月四回以上のコンサート及び音楽公演が実施されていること」

「証人二人(建築分野、音響分野の専門家)によるホールの視察」

「ホールの建築図面、材料明細、整備過程を示す資料提出」などです。

また、本当に世界で一番大きいのかの確認も必要でした。

その結果、一番大きいことを確かめ、クリアしなければならぬ条件も正しいと認められ記録達成となりました。ここに至るまでには、多くの方々からのお力添えがあったことは申しあげるまでもございません。

当然ながら、この記録認定は南陽市文化会館にとって大きな大きな勳章となりました。今後とも、この記録に恥じないよう「芸術文化の創造拠点」として一層邁進してまいりますので、みなさまのさらなるご支援をお願い申しあげましてギネス世界記録認定の報告といたします。

平成二十八年九月三十日

南陽市文化会館

板垣俊一

山形大学 xEV

飯豊研究センター竣工式

町と山形大学などが連携して萩生地内に整備を進めていたリチウムイオン電池の研究開発施設「山形大学 xEV 飯豊研究センター」が完成し、一月十五日に竣工式が行われました。

同センターは、世界規模で需要が望める高性能・高容量のリチウムイオン電池の研究開発とともに、電池の材料開発から組み立て、性能評価、安全性試験までの全工程を担える施設です。企業との共同研究開発により、具体的な商品化を想定した開発・試作を行います。本格稼働は今年五月を予定しています。

竣工式には、山形大学小山清人学長や山形銀行石川芳宏専務、山形県置賜総合支庁秋葉秀出男支庁長など、関係者約七十名が出席しました。

後藤町長は「本町に世界最先端の研究開発拠点が完成した。人口七千人ほどの町にとって大きなチャレンジです。新しい戦略のもと、人口減少に歯止めをかけ、町民



竣工式の様子



XEV 飯豊研究センター

の暮らしを着実に豊かにする拠点となるよう努力する」と式辞を述べました。来賓の小山学長は「研究開発の成果が短期間に出るものと期待している。蓄電デバイスの発展とともに地域が発展するように、(同センターで中心的な役割を担う)吉武教授が存分に活躍できるように応援する。期待していただきたい」と祝辞を述べました。石川専務は「堅実性と時代の先取りを感じるxEV飯豊研究センター。ここを中核とした取り組みは、地方創生のモデルになるのではと期待しています。ヒト・モノ・カネ・情報の集積地として大きく発展し、飯豊を世界に発信していただきたい」と祝辞を述べました。

式後に施設見学会が行われました。参加者は案内役を先頭に施設内を移動しながら、各部屋の利用方法や設置された最先端機器の説明などを受けました。施設は、最先端機器を設置したG棟(大型評価試験棟)と、研究室や共同研究先企業の専用個室などを備えたR棟(開発研究棟)の二棟があります。



電極塗工装置



山形銀行町、山形大学
による連携・協力協定の
締結式

寒河江善秋

「青年運動史に輝く巨星」

く人に支配されず、人を支配せず、
あたたかく、したたかに生きるく

寒河江善秋略歴

一九二〇（大正九）年、吉島村で生まれる。置賜農学校（現置賜農業高等学校）卒業後、満州拓殖公社に入社し、満蒙開拓青少年義勇軍の訓練にあたる。一九四〇



【所蔵：寒河江亮氏】

（昭和十五）年には豊橋陸軍予備士官学校へ入校、一九四二（昭和十七）年陸軍少尉に任官、のち中尉として、インドネシアのハルマヘラ島で過酷な戦争体験を

する。一九四六（昭和二十一）年に復員すると、山形県農業会（現在の農業協同組合）に就職し、農地解放の業務に携わりながら、吉島村青年団長として活躍、その後山形県連合青年団の初代事務局長に就任すると、全国に先駆けて山形県産業開発青年隊を組織、さらに県婦人連盟と協力し、選挙浄化を目的とした公明選挙運動を展開する。一九五三（昭和二十八）年には日本青年団協議会の副会長に就任、中国をはじめヨーロッパ各国などを視察する。数多くの青年団体との交流などにより、日本における青少年教育の重要性に対する認識を深め、様々な社会活動に没頭、青年海外協力隊の創設にも関わり、国際協力の分野でも活躍した。

また、書画や俳句に親しみ、八王子の自宅に窯を設置して陶芸教室を主宰するなど文化人としても知られたが、病に倒れ、五十六年の生涯を閉じた。

過酷な戦争体験を経て青年運動へ

戦地から九死に一生を得て生還した寒河江を驚かせたのは、祖国のために命をかけて戦ったはずの復員軍人に対する社会の冷たい視線だった。この体験が、寒河江の社会に対する見方を根本的に変えるきっかけとなった。

さらに、当時の農村には将来に不安を抱える二、三男があふれており、深刻な社会問題となっていた。この苦境を目的の当たりにした寒河江は、やがて青年団運動に身を投じることとなる。地元吉島村青年団長を皮切りに、その後まもなく結成されたばかりの山形県連合青年団の初代事務局長に就任、復員軍人や農家の二、三男対策として、自立のための職業訓練と技術取得を目的とした「山形県産業開発青年隊」を組織、この活動はのちに国家的な事業として位置付けられることとなる。さらに、県婦人連盟との協力による「公明選挙運動」を展開、これらの活動に対し全国から注目が集まり、一九五三年、寒河江は日本青年団協議会の副会長に選出される。

一九五六（昭和三十一年）年には、日本青年団協議会第一回中国訪問代表団の団長として国交回復前の中国を訪問、周恩来首相（当時）や、のちに党主席（総書記）となる胡耀邦中国共産主義青年団第一書記（当時）らと会談、七十日間にあたり中国各地を視察し熱烈な歓迎を受けた。これを機に民間レベルでの日中交流の道が開かれ、一九七二（昭和四十七）年九月二十九日、日中両国は共同声明に調印、ついに国交回復が実現する。

その後、寒河江は青年海外協力隊の設立に顧問として

関わることとなり、事務局の立ち上げや派遣前の訓練に尽力した。協力隊発足当時のあいさつでは、隊員候補生を前に、四人いる自身の子息のうち二人は必ず参加させることを約束、実際に自身の子息三人が隊員として各地に赴任した。寒河江の名は、「青年海外協力隊の生みの親」の一人として今日も語り継がれている。

様々な分野で活躍、そして「半遁世」へ

青年運動での業績ばかりに注目される寒河江だが、そのほかに、旧日本兵の遺骨収集活動や沖繩返還運動などの社会運動にも深く関わり、ベルリン問題協議会理事、核兵器禁止平和建設国民会議事務局長を務めるなど、その活動は多岐にわたっている。

一方、晩年は「半遁世」（はんとんぜ）という生き方を提唱、八王子の自宅を「無想庵」と称し、窯を設置して陶芸をおこない、俳句や書画に親しんだ。また、六本木の知人宅を会場に寒河江が主催した「ほんものを食う会」は、山形の水と食材にこだわった本物の味を都会の人に伝えたい、それをきっかけに交流を深めてもらおうという趣旨で開かれ、会場は常に多くの参加者であふれた。今日盛んにおこなわれている地方の食文化を紹介す



満蒙開拓青少年義勇軍の訓練にあたる寒河江（最前列左から3人目）。1938（昭和13）年頃。【所蔵：寒河江亮氏】



寒河江（後列左から2人目）と青年運動の支援者たち。歌人の結城哀草果（前列右）の姿もみられる。1951（昭和26）年頃。【所蔵：船山達郎氏】



「ありがたや ふゆにはふゆの はながさき」の句碑と寒河江ゆかりの人々。蓬田緑地公園にて。2008（平成20）年。【所蔵：船山達郎氏】

るイベントに通じるものがあり、寒河江が先見の明をもっていたことがうかがえる。しかし、志半ばで白血病に倒れ、一九七七（昭和五十二）年五月十日、家族や友人たちに見守られながら五十六年の生涯を閉じる。財や名利を求めず、人生を楽しく生きることの意義を問いつ

た。一九八九（平成元）年、十三回忌法要の年には、母校である置賜農業高等学校脇の蓬田緑地公園内に寒河江の句碑が落成された。け、「非凡を平凡に生きる」ために走り続けた人生だった。

【年譜】

- 一九二〇（大正九年）年 吉島村に生まれる
- 一九三五（昭和十一年）年 置賜農学校入学
- 一九三八（昭和十三年）年 置賜農学校卒業、満州拓殖公社入社
- 一九四〇（昭和十五年）年 豊橋陸軍予備士官学校入学
- 一九四二（昭和十七年）年 歩兵第五百連隊第一中隊入営、陸軍歩兵少尉に任官
- 一九四六（昭和二十一年）年 陸軍歩兵中尉に任官、ハルマヘラ島より復員（五月）
- 山形県農業会に就職（十月）
- 一九四七（昭和二十二年）年 吉島村青年団長
- 一九五〇（昭和二十五年）年 山形県連合青年団事務局長、公明選挙運動を展開
- 一九五一（昭和二十六年）年 全国に先駆けて山形県産業開発青年隊運動を実現
- 一九五三（昭和二十八年）年 日本青年団協議会副会長
- 一九五四（昭和二十九年）年 財団法人産業開発青年協会常務理事
- 一九五五（昭和三十年）年 ヨーロッパ各国視察
- 一九五六（昭和三十一年）年 第一回中国訪問代表団長として訪中
- 一九五九（昭和三十四年）年 国立中央青年の家運営委員
『青年団論』発行
- 一九六一（昭和三十六年）年 核兵器禁止平和建設国民会議事務局長
- 文部省社会教育審議会委員（七月）
- 一九六三（昭和三十八年）年 財団法人日本レクリエーション協会理事
- 一九六七（昭和四十二年）年 『ハルマヘラからの生還』発行
- 一九七〇（昭和四十五年）年 社団法人日本青年奉仕協会常務理事
- 一九七一（昭和四十六年）年 文部省青少年問題審議会専門委員
『生きる―見る、出会う、考える』発行
- 一九七四（昭和四十九年）年 『半通世―非凡を平凡に生きる』発行
- 一九七五（昭和五十年）年 『随筆・評論 趣味社会』発行
- 一九七七（昭和五十二年）年 逝去
- 一九八九（平成元年）年 置賜農業高等学校協の蓬田緑地公園内に句碑落成

※本稿は川西町交流館内「アルカディア人物館」展示パネルより転載したものです。

旧高島鉄道高島駅舎群



明治三十三年（一九〇〇）奥羽線糠ノ目駅が開業し、物流の仕組みが大転換する中、大正に入ると地場産業振興のための鉄道施設の機運が高まり、大正十年（一九二一）高島町の有志により高島鉄道株式会社が設立されました。大正十一年（一九二二）に糠ノ目―高島間（五・二km）で営業を開始します。開業当時の高島駅は木造二階建ての駅舎で、高島鉄道の本社機能を併せ持つ中核施設です。大正十三年（一九二四）の二井宿延伸により全長が一〇・五kmとなり、昭和四年（一

九二九）には全線電化により高島駅には変電施設である電気室などが設けられました。中央駅として重要な役割を果たした高島駅は、昭和九年（一九三四）に石造二階建てに改築されます。駅舎は、地元の瓜割石切り丁場より切り出した「高島石」による石造、一部鉄筋コンクリート造で、石造の補強として鉄骨に代わりレールが使用されています。設計は石造高島駅の初代駅長となる長島屋山氏、施工は三浦八吉氏で、建築費四、五〇〇円を要しています。正面幅一四・九三m、奥行五・八二mの総二階建て、一階は待合室と駅事務室が、二階は駅長室と応接室、書類保管庫があります。石造駅舎建築の五年後には同じく石造の車庫や倉庫が建設されました。

高島鉄道は、沿線の豊かな農産物（米・果物・缶詰など）や木材、木炭、鉱石、石材をはじめ、高島町の近代の象徴ともいえる長谷川製糸工場、両羽片倉製糸工場などで生産された当時国内でも最上級の生糸など、多くの物資の輸送が行われ、同時に地域の人びとの足としても活躍します。日中戦争・太平洋戦争の時期、高島駅は出征兵士の見送りの舞台となりました。戦争真っ只中の昭和十八年（一九四三）には、高島鉄道は国策による合併によって「山形交通」となり、名称も「山形交通高島線」



と変わります。戦後は、復興のための木材や燃料である木炭、多くの食糧など、たくさんの方の物資の輸送に活躍します。昭和三十年代には、進学率の向上に伴い高校通学の需要が飛躍的に増加し、朝夕は多くの通勤通学者でにぎわいました。また、金の卵として上京する少年少女達が旅立つたのもこの駅からでした。昭和四十年代に入ると、昭和四十二年（一九六七）の羽越

水害によって鉄橋が流され高畠一井宿間が不通となり、自動車の普及により利用者・物資輸送ともに減少する中、昭和四十九年（一九七四）には全線が廃止となりました。

高畠駅は、高畠線廃線後もしばらくの間バスの待合所として利用され、その後『高畠広場』として整備されました。線路敷地は、高畠駅一糠ノ目駅間が『まほろばの緑道』に、高畠駅一井宿間が国道一三三号に姿を変え

活用されています。旧高畠駅敷地内には、駅舎をはじめ、石造の自動車修繕庫、変電所、倉庫、プラットホームなどがほぼ当時のままの姿で保存されています。公園内には、他にも高畠鉄道で使用された電気機関車ED1型（昭和四年川崎車輛製造）、客車モハ1型（昭和四年日本車輛製造）、貨車ワム201型（昭和三十一年西武所沢車輛製造）が静態保存され、コアな鉄道ファンにとって魅力ある場所となっているようです。

旧高畠駅舎群のように、地元産の『高畠石』を使用した建物は、高畠鉄道の竹森駅舎や一本柳駅倉庫などをはじめ洋風住宅や石蔵など、町内のあちこちに見ることができですが、時間の経過とともに建て替えや取り壊しにより、その数は減少の一途をたどっています。このような意味でも、旧駅舎をはじめとする変電所、自動車修理庫、倉庫、プラットホームの一連の建造物は、高畠町の近代化の歴史的遺産として重要な意味を持つものです。旧高畠駅舎群は、平成二十八年八月一日、国登録有形文化財として登録されました。今後の保存・活用など課題もありますが、是非多くの方々にご覧いただきたいと思

会員の広場

「漆の実」発足十周年記念

まほろば街道吟行記

漆の実・主宰 鈴木 淳一

いま改めて俳誌・「漆の実」の来し方を振り返るには、平成二十三年発刊の「漆の実・選集」にある小山八州氏の「あとがき」に精しい。それによれば、平成十九年一月、私を含めた五名の有志によって発足した。（於上野文化会館・応接室）。平成二十三年五月、その五周年を記念して「漆の実・選集」第一輯が発刊されたのである。そのメンバーは鈴木淳一・下條怡生・小山八州史・池田弁之助・片山丹波・大関蝸牛・加納和子・登坂かりん・佐伯みやび・松坂六義の以上十名であった。いま脱会された懐かしい人の名もある。今年が発足十年目の節目の年である。それを記念して、高島・赤湯・を中心としたまほろば街道吟行句会（一泊二日）を実施したので、そ

の意義ある内容を、会員の作句とエッセーにまとめて近況としたい。

なお、この九月に「漆の実」発行通巻六十号を迎えるにあたり編集の労にたずさわった小山八州史（現在中川はじめ）氏へお礼の言葉を述べたい。

また、文化広報部長梅津幸保様、諮問委員今井浩之介様には、常にバックアップしていただきここに発足十年を迎えた事を深く感謝申し上げます。

まほろば吟行作品集

主宰 鈴木 淳一

浜田廣介記念館（二句）

童話の里でソフトクリーム舐めている

ドコモデモキミノトモダチ夏館

亀岡文殊堂（二句）

鐘楼の木の香りして夏兆す

緑背に石仏たちは声秘む

瀧波旅館にて

夕餉あと私から濱田さんにフラメンコを所望す。

浜田さんは広介の長男の娘。フラメンコ歌手・東

京芸大講師。

夏の夜をフラメンコ唄う孫娘
六月のまほろばの風貌撫でる
まほろばの全夏野にて迎えらる

濱田 扇風

磨線となりし峠の木下闇

磴高きお文殊様に一汗す

夏杉の亭々として堂摩せり

不揃いの石段下れば風涼し

瀧波の往き還りせる白竜湖

下條 怡生

万緑に埋もれ書を読む羅漢様
まほろばの田辺に揺れる黄アイリス
父祖生きし地にいきいきとみどりかな
蜻蛉もひじりも籠る文殊堂
カモシカの見守る小さき夏の宮

中川はじめ

小山八州史

盛る沃土みな墳なれや葡萄咲く
神の杉青蔦もろに注連結はふ
石佛のなづき摩耗し羊歯茂る
植田風文士生家は梁あらは
十葉がコップ挿しあり寺厨

片山 丹波

野ざらしの十六羅漢夏木立
高安犬碑のみ遺るや草茂る
睡蓮や塔のみ遺る伽藍跡
本殿の朽ちし棟木を黒揚羽
玄関の「ひろすけ小石」えこの花

まほろば吟行句会記

下條 怡生

平成二十八年五月二十九日(日)

五時半の江ノ電人影まばら、朝日に焔く相模灘、空気も爽やか。一時間ウトウト。東京駅中央コンコースを新幹線改札への途中、粗末な身なり蓬髪・六十くらいの女性がスーツと寄ってきて「昨日から水だけで何も食べていない。その店でにぎりを買いたいが金もないの

で：「どこから来た？」と問う。宇都宮と言う。汽車質はあるのかなと思ひ乍ら幾許かの硬貨を渡す。

二十番線フォーム端にはじめさんが一時間ほど前から来ていると言う。先刻の話をするとそれは山手線近辺からの新物の物乞いだろうと……。甘く見られたものといささか憮然たるも最近の国情かなと考えているうち丹波さん現れフォームの反対の端まで行ったとのこと。経験したこともありそれから以後注意している。上野で主宰、大宮で八州史さん、郡山で扇風さん乗車、扇風さんはフォームを間違え走ったという。フラメンとコカントの練習が会津若松であった由、相変わらず頑張りのお忙しいお女（ひと）である。車中で賑わい、久しぶりにみる山並み、水を張った植田の緑が目には沁みる。家内が生きているところは、よく磐梯西線の石庭の実家や飯坂に来たものだが、代も変わり十年以上もご無沙汰と回顧の念しきり。

吾妻を超えると残雪の峰々、誰かが飯豊あれは朝日岳と指さす。米沢近くのアナウンスで反射的に立ち上がり荷を卸そうとすると、赤湯はまだと笑う。

赤湯駅前レンタカーでの吟行開始、丹波さんにはそれからほぼ一日の運転となりお骨折り頂くことになる。高

畠の亀岡文殊堂、思ったより高い所に鎮座します。夫々句を書き留めている。

《磴（とう） 高きお文殊様に一汗す 怡生》

《夏杉の亭々として堂摩せり 怡生》

《万緑に埋もれ書を読む羅漢かな 扇風》

お地藏様、十六羅漢様は風雨にさらされ一様に悟りの面持ちである。書とは經典のこと。縁覚。

犬の宮に行く。お文殊様ほどではないが急な石段が続く。犬の宮の背後の高みから中位のカモシカ一匹当方を凝めている。祠には亡くなったのか愛犬の写真が無数に貼ってある。

《カモシカの見守る小さき夏の宮 扇風》

秋田犬よりそいだ両耳をもつ日本最古の狺犬です。絶滅した高安犬の戸川幸雄のいわれ書きや碑が、そして像もある。

《高安犬碑のみ遺るや草茂る 丹波》

帰りの石段は踏面凸凹の上、段差不揃ときている。

《不揃いの石段下りれば風涼し 怡生》

犬の宮ほど高くない薄暗い木立にある猫の宮、ホッと一息。ここにも愛猫の写真が所かまわず貼ってあり、これも供養か。

《犬猫の写真も祀る宮木暮れ

怡生

《そそくさと蛇身をかくす猫の宮

はじめ

昼食は道の駅。快晴で空気が乾いているせいか主宰、はじめさんともにキリリとした高畠白ワインを美味しそくに飲む。時間もあり道の駅近傍の阿久津八幡神社を三々五々詣でる。源氏の氏神八幡様は方々にあるが、こゝは義家が奥羽平定を祈願して鎌倉八幡宮を勧請したものとかで、いまは三重の塔と舞殿のみ。

《睡蓮や塔のみ遺る伽藍前

丹波

濱田廣介記念館へ。扇風さんは事務の女性と親しげに挨拶を交わす。現役時代、ここの発起人をおつれし児童出版社を廻り寄付を募った曰く因縁があり懐かしく思える。記念館の広い後庭に廣介の生家も移築され、また小さい石組みのせせらぎに鉄の魚が泳ぎ廣介ゆかりの鉄の帽子も置かれている。

《玄関の「ひろすけ小石」えごの花

丹波

《日盛りに赤鬼泣いた児も泣いた

丹波

《まほろばの青鬼涙緑雨かな

怡生

三時半頃今日の宿「いきかえりの宿瀧波」に入る。八州史さんここでレンタカーを返しに行く。入浴後第一回の句会。ご当地挨拶句として

《瀧波の往き還りせる白竜湖

怡生

太古からの湖水、白竜湖、無点句なれど挨拶に来たご主人がうちで引き取らせてもらおうと言う。リップサービスだが嬉しい。晩の主なメニューは米沢牛バラの煮物、桜肉炙り、メインは山形牛と米沢一番豚のステーキ。魚は全くなく、高畠赤ワインを注文するがでて来たのは葡萄酒のような甘いワインもどき、口直しに辛口純米酒。時間もありその場をかり第二回の句会。紙幅もあり都合で一句のみ披露する。

《方形の舞台越ゆ夏の蝶

丹波

朝食は大太鼓の合図で大広間での餅つき。当方からは丹波さんが代表、昔土方のアルバイトをしていただけあって腰の入ったつき振り「昔取った杵づか」とは主宰。主人の講釈によれば餅の最高記録は女性の五十六皿、二位も女性の五十二皿恐れ入ります…というか。

五月三十日(月)

赤湯駅から「花回廊」長井線にて長井あやめ公園に向かう車中、はじめさんから句会得点の発表、六十点中十三の第一位は丹波さん、二位は八州史さん三位扇風さん四位はじめさんと続き主宰の次は怡生の四点。一〜四位

まではワイン。ところが扇風さんから彼女の賞品ワインと私のゆべしの交換の申し出があり有難し。あやめ公園は人影もなく、水仙、あやめは二分咲ながらかえって風情があり、せせらぎの聞こえるあづまやで暫時休憩後、日盛りのなか二キロの街なかを長井駅に向かう。途中で二〇〇年前創建の長井一の宮総宮神社（県社）で一服。直江兼続公お手植えの大杉九本注連縄をはられ天高く聳える。

長井駅の傍らにも水路が走り水車が回る。のし梅をもとめた駅売店の小母さん、今年は山の雪も少なく田植えも早かったと言う。歩き疲れたせいが見るともなく目に入ったのがプラットフォーム前面のヨコ一〇m、タテ三mのパノラマ画。右上余白書きによると長井市小中学生五十名が先生の指導で制作したとある。水をモチーフとし、左端に大きく胎内羊水に胎児を浮かべた女性が描かれ、それを源流とした水が右に流れその間に水のある生活や、花、魚、果物をあしらったものでその右端に水の流れを断ち切るように流れに抗し大滝に身をくねらせて登る龍が描かれている。水の集まる所、長井に相応しいパノラマ画である。囁目吟《瀧昇らば龍となるべし男の児かな 怡生》「龍門の瀧」である。鯉の大瀧に昇り龍

になった故事による子の成長をテーマしたパノラマ画ともとれる。

赤湯駅で新幹線を待つ間、今日は九千歩と主宰。荷物をもってだから一万歩でしようと言う。

新幹線で隣席の八州史さん 怡生の《廃線となりし峠の木下閣》について中五が：とならぬ峠：ならば採つたものをと言う。現に福島―米沢間に列車が走っている。vsしかし奥羽本線は廃止されている。vsだが奥羽本線の施設（橋梁・トンネル等）は利用されている。vs峠のスイッチバックは廃止されているのではないか：との廃線問答。八州史さんの指摘には頷かされるものがあった。虚と実、モノを表現するには砂糖に一寸塩を加えることで味が際立つこともあるし、二物取り合わせの極意も奈辺にあるのか：と考えているうち寝入り寝覚めたのが宇都宮、主宰、八州史さん大宮下車、四時ちょっと前に着いた東京は肌寒かった。

主宰はじめ皆様有難うございました。

（註）峠スイッチバック遺構は二〇〇九年に通産省の近代化産業遺産群に認定。

完

まほろば吟行句会記 中川はじめ

吟行句会への出句十句。

一、《仁王堂石段はらふ山背かな》

丹波選

二、《客人の案内は騎馬武者青田道》

八州史選

三、《つ、ましき別当寺の夏の風》

無点句

以上三首は亀岡文殊に關係する句です。

子供のところ、父の自転車に横掛けし亀岡に來た。仁王堂があり、うす暗い堂の中に怖い顔の仁王が睨み付けている。子供心に怖かった。現在、車時代になり仁王堂の前を素通りして堂裏の駐車場から入る。仁王堂を気づかない人が多いのではないか。

関ヶ原の戦いの翌年、景勝公、直江公が亀岡文殊の別当寺（大聖寺、文殊堂を管理する寺、因みに、大仏殿の管理寺が東大寺、トップは今でも「別当」と呼ばれている）で、連歌の会を催した。多分、京都から選者と言いか評者と言うのか連歌の著名な「先生」を招いたであろう。その方も騎馬か輿であつたらうか。季節は梅雨のころ、米沢からの道は、現在もそうだが、上郷の里まで真っ直ぐの青田道である。今晚は大聖寺（別当寺）泊りか、宴の食材、料理人、御供の侍を含めると相当な人数であつ

たろう。関ヶ原の翌年と言うことは、徳川の天下が誰の眼にも明らかになり、上杉としても合戦の準備などは考えていないというメッセージを出さなければならなかつた事情もあつたのだから。

《下界見ゆ社務所の奥の夏座敷

八州史

この句のほうが佳いですね。この「夏座敷」が連歌の会場。私も一目で連歌会場の佇まいを感じました。

四、《かしこげに犬スタスタと梅雨晴れ間》

無点句

五、《青を丸め夏草にらむ子猫かな》

無点句

八州史さんから頂いた予定表に「犬の宮・猫の宮」とあり、「犬・猫」を詠むことを自ら課して、作句しました。臨場感が感じられず、無点句でした。

六、原句《そそくさと蛇身をかくす猫の宮》

怡生・丹波選

修正句《そそくさと蛇身をかくす昼下がり》

「猫の宮」が参加者にしか分からない、というご意見を頂き、修正してみました。作者としては「挨拶句」の積りでした。

七、原句《夏草や今なき高安犬つぶり》

無点句

修正句《種の絶えし立ち耳犬や夏木立》

高安犬を戸川幸夫は「こうやすいぬ」と呼んでおりま

した。同氏の「高安犬物語」を改めて読み、高安部落のイメージがはつきりしました。山々に囲まれた置賜郡には山近くの村落に縄文以来の「マタギ文化」が連綿として続いていたと確信しました。偶然ですが、二十九日の「日経」の新書紹介欄に「宝は田から」（著者は佐野賢治 神奈川大教授・日本常民文化研究所長）が紹介されましたが、内容は「信仰に見る米沢の精神風土」で、米沢藩、置賜郡には武士社会とは全く別の民族文化があった事が紹介されているようです。

修正句は高安犬の風貌をより具体的に詠んでみました。

阿久津神社にて

八、〈炎昼に本殿舞殿（まいでん）しづまれり〉

八州史 選

瀧波旅館にて

九、〈みちのくの出湯の宿のなすび漬〉

八州史・扇風 選

十、〈あやめ咲く縄文美人の足元に〉

丹波 選

バスト・ヒップ、腕も足もが遅しく、頑丈な体形が縄文・埴輪時代の美人の条件だったような気がします。この体形、現代の女性にも結構いらっしやる。縄文時代もあやめは咲いていたでしょう。二千年前と現代それほど

変わっていないですよ。変わったのは「美人」の基準だけでしよう。



左から 中川はじめ・鈴木淳一主宰・下條怡生・濱田扇風・小山八州史



左から 濱田扇風・中川はじめ・鈴木淳一主宰・下條怡生

短歌同好会「古今小杉短歌会」の近況

世話人 吉田 数馬

米沢有為会会員が主となり九名で隔月楽しく詠んで四年目を迎えました。

先生は「皆さん上手になった、」と言つて下さるけど、恥ずかしくて人前に出せるような歌ではありませんが、茶飲み話に笑っていただければ幸いです。

・息子らが店は継がぬと出たといふ

菓子屋のおはぎを今日も買った

・母の記憶とふに失せしが花好む

母ではありし ジキタリス咲く

(師 香川 三枝)

・昨日今日そして明日と花の色

うつろうとかやニオイバンマツリ

・よくもまあこんなに見事に育てしは

若き農夫の自慢の柿か

・クモの巣にからみついたる病葉の

わづかな風にゆれるを見る

(吉田 数馬)

・浅瀬みち牛車に乗りて由布島へ

御者の歌で時忘れたり

・サミットが思い出させし賢島

朝日も夕陽も海に映りぬ

(嶋貫 昭雄)

・石垣の海で拾ひし星の砂

しあわせ気分が空いつばいに

・熊本を訪ねし旅は去年の春

地震にみまわれ城いま如何に

・櫻植ゑ十五年の年が流れたり

巡り逢ふ人われの宝に

(近藤 郁子)

・紫が白に変はりて花言葉

浮気な人とは匂蕃茉莉

・子どもらの習ふ漢字に「熊」といふ

字が加はるる運命の年

・かたくなな心は永久に続かぬと

納得をした日 洗い物する

(樋渡三保子)

・我がさとはアルカディアという盆地

仰げば飯豊吾妻に蔵王

(横山 満)

※注 香川三枝さんは歌人で古今所属

平成28年第4回米沢芸術祭実行委員会
米沢巡回展
第71回
県美展
第58回 こども県展

●期間●
2016
9月21日(日) ▶
9月26日(金)

●会場●
よねざわ
市民ギャラリー
(ナセBA)



『祈念刀』

委嘱 亀岡 博



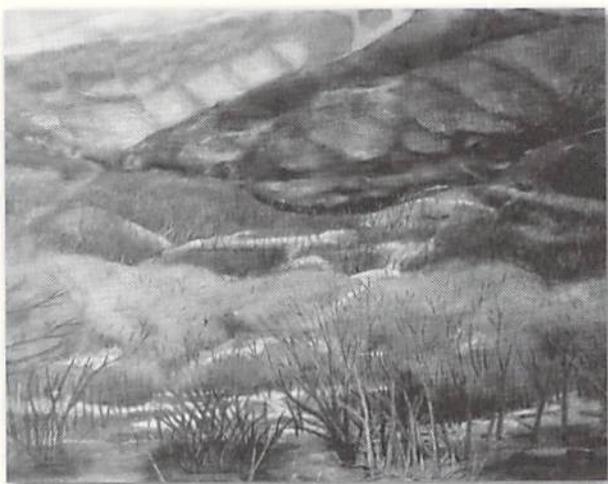
『残り火』

山中三平



『市場へ』

高橋丈夫



『3月の不忘山』

齋藤 秀一



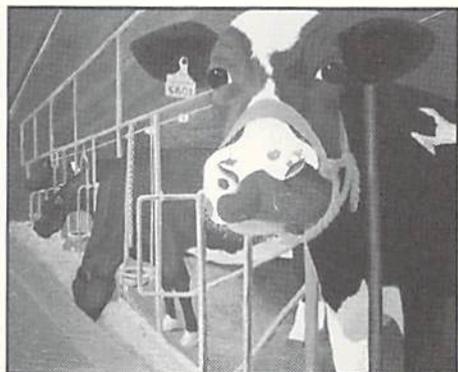
『緑韻の獅子』

折原 勝男

平成28年度(第67回)置賜地区高校美術展



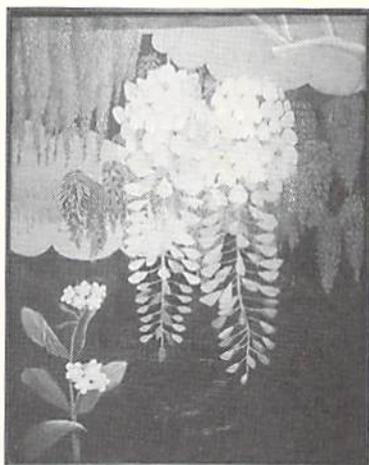
特選『無題』F50 油彩
米沢興譲館高校 3年
松山 桃子



地区美術展賞『牛』F100 油彩
置賜農業高校 2年
高橋 菜々美



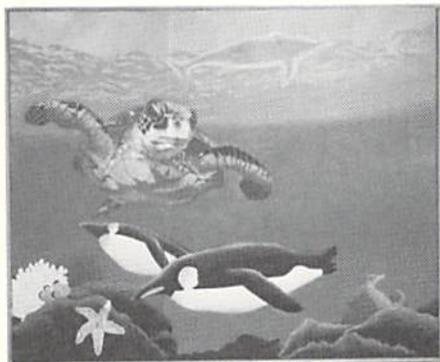
特選『幸福の追求』F100 油彩
米沢東高校 2年
遠藤 万祐美



特選『紫の波』F100 油彩
米沢東高校 2年
長谷川 章乃



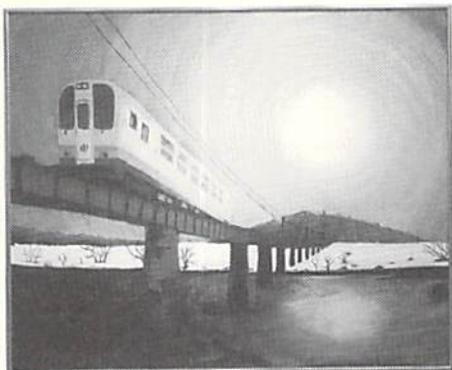
特選『蝶々』180×180 油彩
南陽高校 3年
渡部 七海



特選『海の世界から』F100 油彩
米沢東高校 2年
羽田 恵



特選『賭け』F150 アクリル
長井工業高校 3年
笹原 翔



特選『Schatz』F100 油彩
南陽高校 3年
小林 瑠音

- 出品校11校 出品点数102点(油彩67点、水彩20点、その他の絵画10点、立体4点、
版画2点、テキスタイル2点)
- 地区高校美術展賞1点 特選7点 奨励賞18点
- 置賜展示会 9月13日～18日(よねざわ市民ギャラリー)

郷土の本紹介 (H27・7月～H28・8月)

資料提供——市立米沢図書館

No	書名	著者名	出版社	分類記号	出版年	ページ数	内容
1	明日の大病	米沢市芸術文化協会	米沢市産業部商工課	K375	2015・11	67	米沢市の中学生に配られた副読本。故郷で企業を起こした、カゴメ(株)の蟹江氏(東海市)、高島町のセゾンフアクトリー、米沢市の精英堂印刷の挑戦を紹介する。
2	米沢の伝統野菜うごき		米沢うごき振興協議会	K470	2015・10	87	「うごき」について、歴史や特徴、機能的成分、栽培方法、うごき料理、うごき商品等を紹介する。
3	華祭伝心	米沢四季のまつり史編纂委員会	米沢四季のまつり委員会	K386	2015・9	79	春の米沢上杉まつり、秋の上杉鷹山公まつり、冬の上杉雪灯籠まつり等、米沢の四季のまつりの歴史を綴る。
4	未来へつなく 広幡の歴史	輝くひろはた創造事業	広幡コミュニティセンター	K212	2016・3	75	広幡地区の歴史をまとめる。「輝くわがまち創造事業」の中の取り組み。
5	輝くわがまち 北部地区		米沢市北部地区活性化事業委員会	K212	2016・3	44	北部地区の歴史をまとめる。「輝くわがまち創造事業」の中の取り組み。
6	米沢市東部地区史跡めぐりマップ		米沢市・南原輝くわがまち創造事業推進委員会	K911	2016・3	205	みなみはら総合文芸誌「文学(詩・エッセイ・俳句等)と芸術(写真・書道・絵画等)」に関する原稿を公募し刊行。
7	兜山 第1号		米沢市・南原輝くわがまち創造事業推進委員会	K289	2016・3	79	平成27年度に実施した、前田慶次屋敷跡「無苦庵」の発掘調査の報告書。
8	無苦庵跡 第1次発掘調査報告書		米沢市立米沢図書館	K281	2016・3	265	慶応元年(1865)の米沢藩の分限帳(家臣団名簿)を翻刻したもの。五十音索引が付く。
9	慶応元年分限帳		市立米沢図書館	K289	2016・6	16	新図書館開館記念で開催された先人顕彰コーナー「伊東忠太」展のパンフレット。
10	先人顕彰コーナー「伊東忠太」展		市立米沢図書館	K490	2015・9	135	米沢市上杉博物館で開催の特別展の図録
11	特別展 米沢藩 医家の系譜 (堀内家文書を中心に)		米沢市上杉博物館	K723	2015・12	48	米沢市上杉博物館で開催の企画展の図録
12	企画展「生涯100年 浜田浜雄展 造形の遊戯場」		米沢市上杉博物館	K723	2016・6	128	米沢市上杉博物館で開催の企画展の図録
13	開館15周年記念 企画展「生涯120年 椿貞雄展」 「椿貞雄と岸田劉生」		米沢市上杉博物館				

No	書名	著者名	出版社	分類記号	出版年	ページ数	内容等
14	米沢中納言 上杉景勝	米沢市上杉博物館	米沢市上杉博物館	K289	2016・4	103	米沢市上杉博物館で開催の特別展の図録
15	「御成座敷郎罷枕」を読む 抹殺された米沢藩改革	山王堂初雄	不忘出版	K210	2015・12	154	米沢古文書研究会がテキストとした「御成座敷郎罷枕」の解説・解説本。森平右衛門の生涯が語られている。
16	上杉鷹山と米沢	小関悠一郎	吉川弘文館	K289	2016・3	159	吉川弘文館の「人があるく」シリーズ。「明君」と称された上杉鷹山の思想の生涯、ゆかりの地をたどり、米沢藩に藩政改革の本質を迫る。
17	明治の建築家伊東忠太オスマン帝国をゆく	ジラルデッリ 青木美由紀	ウエッジ	K289	2015・12	342	米沢出身の建築家・伊東忠太が行った世界旅行について、オスマン帝国の旅を中心に描く。著者はトルコ在住の美術史家。
18	かぶき者慶次	火坂 雅志＝原案	宝島社	K913	2015・6	336	平成27年放映のNHK木曜 ドラマ「かぶき者慶次」の脚本を小説化したもの。
19	前田慶次道中日記 「追想手控」	今福 匡	漫画版「前田慶次道中日記」 刊行会	K913	2015・9	80	前田慶次道中日記を漫画で紹介。
20	竹俣当綱	中村 晃	文芸社	K913	2015・1	184	表題の竹俣当綱は1997年「米沢日報」に連載した小説。鷹山の右腕として活躍した竹俣を描く。
21	東北からみえる近世・近代	荒武賢一朗 編	岩田書院	K212	2016・3	297	宮田直樹「近世後期に米沢藩における織物業と専売制」を収録。
22	唐代の医薬書と敦煌文献	岩本 篤志	KADOKAWA	K498	2015・3	286	市立米沢図書館所蔵の「雲棋集」に関する論文を収録。
23	米沢興譲館部活のあゆみ 「米沢興譲館 部活のあゆみ」編集委員会	米沢興譲館	部活OB会連合	K376	2015・11	235	山形県立米沢興譲館高校の各部活動のあゆみ。
24	川西町の石碑・石仏 祈りの碑	川西町の石碑・石仏 祈りの碑 編集委員会	川西町	K186	2015	326	川西町にある石碑・石仏を調査しまとめたもの。
25	浮世絵の女たち	鈴木由紀子	幻冬舎	K721	2016・5	211	著者は米沢市出身の作家。「美人画」に隠された物語の数々を紹介する。
26	上杉鷹山リーダーの要諦	佃 律志	日本経済新聞 開出版社	K289	2016・4	297	日経ビジネス人文庫。上杉鷹山の改革に見るリーダー論。

No	書名	著者名	出版社	分類記号	出版年	ページ数	内容等
27	山家・印役・双月・蔵王 上野・高瀬の秘密	清野 春樹	不忘出版	K388	2016.5	247	著者は米沢市在住。
28	決戦！川中島	沖方 丁他	講談社	K913	2016.5	247	川中島合戦に関わる小説7編を収録。
29	日本のシュルレアリスム という思考野	黒沢 義輝	明文書房	K723	2016.6	585	米沢出身の画家・浜田浜雄が紹介される。
30	宝は田から	佐野 賢治	春風社	K382	2016.2	299	副題は「しあわせの農村民俗誌 山形県米沢」。昭和46年以來通い続けた置賜地方の民俗に触れる。
31	戦国時代の南奥羽社会	遠藤ゆり子	吉川弘文館	K212	2016.3	331	伊達・蘆名氏の領国支配や大名間外交に加え、伊達政宗の母の動向や伊達氏の「塵芥集」を分析。
32	教育にすべてを捧げて	近野 兼史	創栄出版	K370	2015.10	320	米沢市出身で「財団法人 近野教育振興会」を設立し、教育振興につとめる近野兼史氏の「言動と文章をまとめる」。
33	アンニョンお隣さん	木口 政樹	花伝社	K302	2015.12	244	著者は米沢市出身。韓国生活27年間で体験した意外と悪くない韓国でのつづき。
34	北天に楽土あり	天野 純希	徳間書店	K913	2015.10	445	最上義光を描いた小説。伊達政宗、上杉景勝、直江兼統、前田慶次郎も登場。
35	亡国のイリュージョン	所 健保	ブックウェイ	K913	2015.10	330	著者は米沢市在住。
36	海を撃つ	吉村 龍一	ポプラ社	K913	2016.1	198	著者は南陽市生まれ。

※米沢図書館では年間非常に多くの郷土資料受け入れがあります。

例えば行政資料をはじめ機関刊行物・地区広報・情報誌・研究資料・古文獻・郷土関係刊行物などです。
ここに紹介したのは代表的なものの一部です。御了承ください。

賛助会員名簿

(平成二十八年年度)

公益社団法人米沢有為会の主旨に賛同いただき賛助会員としてご支援ご協力をいただいている方々です。

東京支部

(敬称略)

(株)アルックス	宮坂孝夫
(株)向洋アドシステム	金子晃司
舟寿司	深沢和子
鈴木会計事務所	鈴木信之
(株)羽黒洞	木村品子
(株)ウツズ	林直司
米沢支部	(敬称略)
相田建設(株)	相田晃輔
浜田(株)	濱田淳
(株)小嶋総本店	小嶋彌左衛門
置賜建設(株)	川野敬典
(株)大清	中村恵一
(株)丸定	佐藤良喜
米沢中央高等学校同窓会	椎の実会
さの医院	佐野隆一

遠藤 廣
中條 医院
若松工業(株)
舟山 清
(公財)宮坂考古館
鉄砲屋町町内会
精英堂印刷(株)
(株)タカハタ電子
(株)羽陽印刷
(株)山形新聞社 置賜総支社
中條齒科医院
東北警備保障(株)
(株)カワサキ印刷
米沢ヤクルト販売(株)
田中クリニック
米澤信用金庫
(株)きらやか銀行 米沢支店
廣居建設(株)
(株)山形銀行 米沢支店
(有)今泉商店
石橋医院

中條 明夫
片倉 尚
宮坂 直樹
磯上 清一
井上 吉昭
安房 毅
石田 一郎
大井 祐一
中條 良文
武田 誠一郎
川崎 信一
佐藤 大介
田中 雄二
加藤 秀明
川村 淳
廣居 誠
武田 昌裕
今泉 宏
石橋 正道

高橋胃腸科外科医院
 山岸草木工芸(株)
 新保(株)
 (株)米澤紀伊國屋
 (株)米澤新聞社
 (株)本多建設
 佐々木隆一司法書士事務所
 (株)莊内銀行 米沢中央支店
 (株)平山孫兵衛商店
 (株)オカテックス
 (株)米沢牛 黄木
 我妻建材工業(株)
 (株)新田
 村正運輸(株)
 (株)ナウエル
 (株)川島印刷
 (株)タスクフーズ
 (株)上杉コーポレーション
 (株)データシステム米沢
 (株)小泉創芸
 金子建設工業(株)

高橋秀昭
 山岸幸一
 新保晃一
 佐藤知由
 保刈正男
 本多作之助
 佐々木隆一
 小松久弘
 平山孫兵衛
 岡崎芳久
 黄木修太郎
 我妻光明
 新田英行
 村山正博
 村嶋敏郎
 宮嶋良範
 川島良範
 宮坂宏
 松田孝理
 高橋孝二
 小泉雅行
 金子尚人

米木建設(株)
 (株)青葉堂印刷
 太田建設(株)
 小児科 入間田医院
 (有)平田自動車工業
 (株)エービーエム
 (株)後藤組
 (株)セゾンファクトリー
 ハイメカ(株)
 (株)村山商工
 (株)堤商店
 (株)天元台
 ジーエスデザイン(株)
 東亜熱研工業(株)
 (株)ニューティックスンセイ
 (株)我妻組

前山郁朗
 中村隆志
 太田政往
 入間田潔
 平田憲二
 赤間俊明
 後藤茂之
 齋藤峰彰
 龜森俊博
 村山順彌
 堤藤孝雄
 斎藤友久
 福崎真智子
 増村力
 栞原晃
 我妻悦雄

仙台支部
 (敬称略)

仙台環境科学(株)
 (株)東北オプティスマシン
 ・東京支部 六社
 ・仙台支部 二社

加藤啓二
 林崎まつ子
 ・米沢支部 六十六社
 合計 七十四社

公益社団法人

米沢有為会役員名簿

平成二十八年九月現在

名誉会長

上杉邦憲

名誉会員

本間敏雄

下條泰生

会長

(理事) 須貝英雄

副会長

(理事) 平山英三

理事

伊藤和夫

梅津幸保

太田ひろみ

加藤国雄

甲藤国信

川合勝雄

監事

伊藤秀太郎

菅野憲幸

佐藤和彦

諮問員

(東京) 赤井淳一

(仙台) 安部金之丞

(東京) 飯沼俊男

(同) 今井浩之介

(米沢) 遠藤善則

(米沢) 遠藤善之

(仙台) 加川巖

(東京) 片平善造

(同) 金子晃司

(同) 紺野耕

(同) 佐藤陞三

(同) 佐藤好明

(米沢) 庄司芳彦

(同) 高橋節子

(東京) 瀧澤新一

(仙台) 田林暁一

(北海道) 田村邦夫

(同) 丹野久夫

(米沢) 塚田昌伸

(仙台) 塚原保夫

(米沢) 手塚宮雄

(米沢) 仁科義英

(東京) 西村純

(同) 羽隅弘宣

(同) 樋口正宏

(同) 平山和博

(同) 深澤和子

(京都) 星利三

(東京) 本郷友信

(仙台) 大武清夫

(米沢) 宮坂宏

(東京) 村石房男

(同) 村山浩和

(米沢) 山木勇一郎

相談役

大関修敬

理事役務分担

○総務部

部長 長平山英三

副部長兼組織担当(米沢)

種村信次

組織担当(東京・舎生OB会)

宮坂孝夫

組織担当(仙台・舎生OB会)

甲 國信

大友久太郎

小関薫

小関昌幸

小森力雄

鈴木脩二

曾根伸良

中條仁

施設担当 鈴木吉助

財務担当 鈴木信之

総務担当 川合勝雄

同 倉田和子

参事 渡邊忠義

(施設担当)

部長 加藤国雄

副部長兼奨学金担当

川井陽一

募集担当 伊藤和夫

寄宿舎担当(東京興譲館長)

川合勝雄

寄宿舎担当参事(仙台興譲館長)

滝口政彦

副部長 伊藤和夫

副部長 鈴木信之

副部長 鈴木信之

部員 鈴木幸一

同 梅津幸保

参事 金子周治

同 山木勇一郎

同 後藤穂

部長 梅津幸保

副部長兼HP担当

加藤国雄

部員 宮坂孝夫

同 倉田和子

同 太田ひろみ

参事 手塚宮雄

同 佐藤孝市

同 石田和弘

同 戸田直博

同 宮坂宏

同 宮坂宏

○文化大学
名誉学長 下條泰生

学長 米野宗禎

○東京支部長

加藤国雄

○米沢支部長

中川勝

我妻榮記念館担当

上村勘二

○仙台支部長

甲 國信

○北海道支部長

田村邦夫

○教育委員

伊藤和夫

佐藤広明

島津真一

高橋節子

高橋節子

辻 雅人

齋藤 友久

柴田 正孝

山口 昇一

○寄宿舍 興讓館

東京館長 川合 勝雄

東京寮母 福田 富子

仙台館長 滝口 政彦

仙台副館長 長澤 健一

仙台寮母 小野寺 真知子

○我妻榮記念館

名譽館長 我妻 堯

館長 上村 勘二

管理人 手塚 正

運営委員 安部 敏

同 五十嵐 京子

同 高橋 節子

同 本多和彦
同 佐藤繁
同 神保厚

東京支部役員

支部長

加藤 国雄

副支部長

川合 勝雄

理事

鈴木 信之

板垣 史朗

伊藤 貞治

太田 ひろみ

加藤 国雄

川合 勝雄

川井 陽一

倉田 和一

五雲寺 卓

佐藤 憲一

佐藤 好明

監事

渡邊 忠義

吉澤 雄一

宮坂 孝夫

平山 和博

平山 英三

林 常子

羽隅 弘宣

中川 紘一

瀧澤 昭義

鈴木 信之

鈴木 吉助

相談役

赤井 淳一

佐藤 和彦

本間 敏雄

小森 力雄

鈴木 脩二

参事

諮問委員

石原俊一 米野宗禎 井上麻矢 近藤郁子 澤田美根子 青木惠子 安部壯一郎 安部忠彦 安部洋司 伊藤隆明 今井浩之介 岩瀬和子 遠藤弘隆 大滝則忠 神野民夫 金藤泰伸

近藤郁子 佐藤孝夫 佐藤毅 橋本享子 深澤和子 舟山国夫 村石房男 村山浩和 山田雅宏 山田幸生

米沢支部役員

支部長

副支部長

理事

中川勝 (理事) 川勝 (理事) 梅津幸保 (理事) 種村信次 (理事) 本多和彦 (常務) 遠藤善之 (常務) 遠藤善之 伊藤和夫 井熊征一 安部敏 安部 伊藤和夫 井熊征一 大貫英一 小野庄士 金子野 上村勤二

監事

岸順一 後藤穗 佐藤明 佐藤市 山宮光雄 白田悟 鈴木幸一 高橋節子 高橋丈夫 塚田昌伸 手塚昌修 手塚宮雄 宮坂宏 山木勇一郎 中條良文 柴田正孝

諮問委員

赤木義信 井上栄子 石田和弘 磯部道昭 稲村修裕 漆山裕秋 奥村政秋 川野裕章 近野洋一 小林圭一 佐藤富士雄 佐藤知由 島津真一 須崎登志 庄司芳彦 武田誠一郎 玉上利恭

顧問
相談役

土屋宏 戸田直博 福崎真知子 本間精 松田修 山口昇一 山部秀丈 渡部秀一 遠藤武彦 木村忠三 後藤研三 野村三 上杉季雄 上杉雄 遠藤英明 大久保利之 大友久太郎

参事

小関薫 曾根伸良 町田富保 伊藤秀一 高橋章 本間浩 宮本秀行 米谷浩二 (事務局長) 松田順子 (事務局)

仙台支部役員

支部長

甲 國信

副支部長

安部金之丞 塚原保夫

理事

大武清夫 遠藤光広 加川巖 鈴木修治 鈴木良平 滝口政彦 田林政一 長澤健一 平吹隆一

監事

遠藤 三郎

加藤 啓二

相談役

中條 仁

仙台興讓館長

滝口 政彦

仙台興讓副館長

長澤 健一

北海道支部役員

支部長

田村 邦夫

副支部長

佐藤 俊一

上野 和子

理事

芳賀 秀樹

須藤 進

(事務局)

諮問委員

鈴木 吉行

関 二郎

孫 田 敏

田 中 健治

加藤 三雄

相談役

佐藤 豊

大峽 康治

安部 英夫

興讓館寄宿舍OB会

(平成26年(27年)

名誉会長

大関 修敬

会長

佐藤 毅

副会長

大滝 則忠

甲 國信 (東京OB)

上野 和子 (仙台OB)

樋口 正宏 (札幌OB)

幹事長

樋口 正宏

副幹事長

川合 勝雄

宮坂 孝夫

幹事

千喜良誠

齊藤彰

高田和寿

手塚修

平山和博

加藤国雄

伊藤和夫

本多和彦

川井陽一

貝沼孝二

會計幹事

菅野憲幸

監事

佐藤陸三

高瀬勝

顧問

下條泰生

中條仁

沼澤研一

羽隅弘宣

安部英夫

芳賀秀樹

飯沼俊男

石原俊一

小森力雄

高橋俊龍

小関薫

板垣義次

今井和夫

安部三十郎

東京支部長

加藤国雄

東京支部副支部長

舟山国夫

東京支部幹事長

安部洋司

東京支部幹事

鈴木正明

佐藤憲一

武田篤

山田幸生

東京支部會計幹事

赤井淳一

東京支部監事

高山征一

米沢支部長

本多和彦

米沢支部副支部長

高橋丈夫

小林伸一

仙台支部長

甲國信

仙台支部副支部長

塚原保夫

仙台支部理事

滝口政彦

平吹隆一

鈴木良平

仙台支部監事

船山完一

仙台支部顧問

中條仁

本田健夫

仙台支部事務局

長澤健一

公益社団法人米沢有為会定款

第一章 総則

(名称)

第一条 この法人は、公益社団法人米沢有為会と称する。

(事務所)

第二条 この法人は、主たる事務所を東京都調布市に置く。

2 この法人は、理事会の決議によって、従たる事務所を必要な地に置くことができる。

(支部)

第三条 この法人は、理事会の議決を経て、必要の地に支部を置くことができる。

2 支部の組織及び運営に関し必要な事項は、理事会の決議により別に定める。

第二章 目的及び事業

(目的)

第四条 この法人は、育英事業その他の学術及び文化の振興等に関する事業を行い、置賜地方（米沢市、長井市及び南陽市並びに高島町、川西町、小国町、白鷹町及び飯豊町）に関わる有為な人材の育成及び地域の福利の増進に寄与することを目的とする。ただし、政治上の事柄に関与しないものとする。

(事業)

第五条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 学資の給貸与
 - (2) 学生寄宿舎の管理運営
 - (3) 学術文化施設の管理運営
 - (4) 教育奨励及び振興に関する事業
 - (5) 産業振興に関する事業
 - (6) 学術文化振興に関する事業
 - (7) その他この法人の目的を達成するために必要な事業
- 2 前項の事業は日本全国において行うものとする。

第三章 会員

(法人の構成員)

第六条 この法人は、次の会員から構成する。

- (1) 正会員 この法人の事業に賛同して入会した個人
- (2) 賛助会員 この法人の事業を賛助するため入会した個人又は団体
- (3) 名誉会員 この法人に対し特に功労あつた正会員

で、理事会が推薦した者

- 2 前項の会員のうち正会員をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（以下「法人法」という。）上の社員とする。

(会員資格の取得)

第七条 この法人の会員にならうとする者は、本会会員の紹介の上、理事会の定めるところにより申込みをし、その承認を受けなければならない。

(経費の負担)

第八条 この法人の事業活動に経常的に生じる費用に充てるため、会員は、理事会が別に定める会費を支払う

義務を負う。

(任意退会)

第九条 会員は、理事会において別に定める退会届を提出することにより、任意にいつでも退会することができる。

(除名)

第一〇条 会員が次のいずれかに該当するに至つたときは、総会の決議によつて当該会員を除名することができる。

- (1) この定款その他の規則に違反したとき。
- (2) この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。
- (3) その他除名すべき正当な事由があるとき。

(会員資格の喪失)

第一一条 前二条の場合のほか、会員は、次のいずれかに該当するに至つたときは、その資格を喪失する。

- (1) 第八条の支払義務を二年以上履行しなかつたとき。

- (2) 正会員の全員が同意したとき。
 (3) 当該会員が死亡し、又は解散したとき。

第四章 総会

(構成)

- 第一二条 総会は、すべての正会員をもって構成する。
 2 前項の総会をもって法人法上の社員総会とする。

(権限)

第一三条 総会は、次の事項について決議する。

- (1) 会員の除名
- (2) 理事及び監事の選任又は解任
- (3) 理事及び監事の報酬等の額
- (4) 貸借対照表及び損益計算書(正味財産増減計算書)の承認
- (5) 定款の変更
- (6) 解散及び残余財産の処分
- (7) その他総会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

(開催)

第一四条 総会は、定時総会及び臨時総会の二種とする。

第一五条 定時総会は、毎事業年度終了後三カ月以内に一回開催する。

2 臨時総会は、必要がある場合に開催する。

(招集)

第一六条 総会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき会長が招集する。

2 総正会員の議決権の一〇分の一以上の議決権を有する正会員は、会長に対し、総会の目的である事項及び招集の理由を示して、総会の招集を請求することができる。

(議長)

第一七条 総会の議長は、会長がこれに当たる。

(議決権)

第一八条 総会における議決権は、正会員一名につき一個とする。

(決議)

第一九条 総会の決議は、総正会員の議決権の過半数を有する正会員が出席し、出席した正会員の議決権の過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、総正会員の半数以上であつて、総正会員の議決権の三分の二以上に当たる多数をもって行う。

- (1) 会員の除名
- (2) 監事の解任
- (3) 定款の変更
- (4) 解散
- (5) その他法令で定められた事項

3 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者ごとに第一項の決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第二一条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。

(議事録)

第二〇条 総会の議事については、法令で定めるところ

により、議事録を作成する。

2 議長及び出席した理事は、前項の議事録に記名押印する。

第5章 役員

(役員の設定)

第二一条 この法人に、次の役員を置く。

- (1) 理事 一三名以上一五名以内
- (2) 監事 三名以内
- 2 理事のうち一名を会長、一名を副会長とする。
- 3 前項の会長及び副会長を法人法上の代表理事とする。

(役員を選任等)

第二二条 理事及び監事は、総会の決議によって選任する。

2 会長及び副会長は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

3 この法人の理事のうちには、理事のいずれか一人及びその親族その他特殊の関係がある者の合計数が、理

事総数（現在数）の三分の一を超えて含まれることになつてはならない。

4 この法人の監事には、この法人の理事（親族その他特殊の關係がある者を含む。）及びこの法人の使用人が含まれてはならない。また、各監事は、相互に親族その他特殊の關係があつてはならない。

（会長及び副会長の職務及び権限）

第二三条 会長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行する。

2 副会長は、会長を補佐し、会務を処理し、会長が事故あるときは、その職務を代行する。

（理事の職務及び権限）

第二四条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

（監事の職務及び権限）

第二五条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

2 監事は、いつでも、理事及び使用人に対して事業の

報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることが出来る。

（役員任期）

第二六条 理事の任期は、選任後二年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時総会の終結の時までとする。

2 監事の任期は、選任後二年以内に終了する事業年度のうちに最終のものに関する定時総会の終結の時までとする。

3 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとする。

4 理事又は監事は、第二一条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

（役員解任）

第二七条 理事及び監事は、総会の決議によつて解任することが出来る。

(報酬等)

第二八条 理事及び監事は、無報酬とする。ただし、別に定める規程により交通費等の実費を支給することができる。

(名誉会長)

第二九条 この法人に名誉会長を置くことができる。

2 名誉会長は、理事会の議決を経て、総会において推戴する。

3 名誉会長は、本会の運営に関して会長の諮問に答え、又は会長に対し意見を述べることができる。

4 名誉会長は、無報酬とする。ただし、別に定める規程により交通費等の実費を支給することができる。

(諮問委員)

第三〇条 この法人に、四〇名以内の諮問委員を置く。

2 諮問委員は、次の職務を行う。

(1) 会長の相談に応じること

(2) 理事会から諮問された事項について参考意見を述べること

3 諮問委員の選任及び解任は、理事会において決議す

る。

4 諮問委員の任期は、二年とする。ただし再任を妨げない。

5 諮問委員は、無報酬とする。ただし、別に定める規程により交通費等の実費を支給することができる。

第六章 理事会

(構成)

第三一条 この法人に理事会を置く。

2 理事会は、すべての理事をもつて構成する。

3 理事会の議長は、会長とする。

(権限)

第三二条 理事会は、次の職務を行う。

(1) この法人の業務執行の決定

(2) 理事の職務の執行の監督

(3) 会長及び副会長の選定及び解職

(招集)

第三三条 理事会は、会長が招集する。

(決議)

第三四条 理事会の決議は、決議について特別の利害關係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、法人法第九六条の要件を満たしたときは、理事会の決議があつたものとみなす。

(議事録)

第三五条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 出席した会長及び副会長並びに監事は、前項の議事録に記名押印する。

第七章 資産及び会計

(事業年度)

第三六条 この法人の事業年度は、毎年四月一日に始まり翌年三月三十一日に終わる。

(事業計画及び収支予算)

第三七条 この法人の事業計画書、収支予算書、資金調

達及び設備投資の見込みを記載した書類については、毎事業年度の開始の日の前日までに、会長が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。

2 前項の書類については、主たる事務所及び従たる事務所に、当該事業年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(事業報告及び決算)

第三八条 この法人の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、会長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を経て、定時総会に提出し、第一号及び第二号の書類についてはその内容を報告し、第三号から第六号までの書類については承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
- (2) 事業報告の附属明細書
- (3) 貸借対照表
- (4) 損益計算書（正味財産増減計算書）
- (5) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の附属明細書

(6) 財産目録

2 前項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に五年間、また、従たる事務所に三年間備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款を主たる事務所及び従たる事務所に、社員名簿を主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(1) 監査報告

(2) 理事及び監事の名簿

(3) 理事及び監事の報酬等の支給の基準を記載した書類

(4) 運営組織及び事業活動の状況の概要及びこれらに関する数値のうち重要なものを記載した書類

(公益目的取得財産残額の算定)

第三九条 会長は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律施行規則第四八条の規定に基づき、毎事業年度、当該事業年度の末日における公益目的取得財産残額を算定し、前条第2項第4号の書類に記載するものとする。

(基金)

第四〇条 この法人は、基金を引き受ける者の募集をす

ることができる。

2 拠出された基金は、この法人が解散するまで返還しない。

3 基金の返還の手続については、法人法第二三六条の規定に従い、基金の返還を行う場所及び方法その他の必要な事項を清算人において別に定めるものとする。

第八章 定款の変更及び解散

(定款の変更)

第四一条 この定款は、総会の決議によって変更することができ。

(解散)

第四二条 この法人は、総会の決議その他法令で定められた事由により解散する。

(公益認定の取消し等に伴う贈与)

第四三条 この法人が公益認定の取消しの処分を受けた場合又は合併により法人が消滅する場合（その権利義務を承継する法人が公益法人であるときを除く。）に

は、総会の決議を経て、公益目的取得財産残額に相当する額の財産を、当該公益認定の取消しの日又は当該合併の日から一箇月以内に、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律（以下「認定法」という。）第五条第一七号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

（残余財産の帰属）

第四四条 この法人が清算をする場合において有する残余財産は、総会の決議を経て、認定法第五条第一七号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

第九章 公告の方法

（公告の方法）

第四五条 この法人の公告は、官報に掲載する方法により行う。

附 則

1 この定款は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第一〇六条第一項に定める公益法人の設立の登記の日（平成二十五年七月一日）から施行する。

2 この法人の最初の会長は須貝英雄、最初の副会長は平山英三、最初の理事は梅津幸保、貝沼孝二、加藤國雄、甲國信、小山泰、鈴木信之、佐藤毅、種村信次、手塚修、沼澤研一、米野宗禎とする。

3 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第一〇六条一項に定める特例民法法人の解散の登記と、公益法人の設立の登記を行ったときは、第三六条の規定にかかわらず、解散の登記の日の前日を事業年度の末日とし、設立の登記の日を事業年度の開始日とする。

定款細則

第一条 公益社団法人米沢有為会（以下「本会」という。）

に次の四部を置く

- (1) 総務部
- (2) 育英事業部
- (3) 文化広報部
- (4) 地域振興部

2 部には部長を置き、理事のうちから会長が委嘱する。

第二条 各部に参事を置く。

2 参事は二〇名以内とし、その任期は一カ年とする。

3 参事は前条の各部に分属しその事務を処理する。

第三条 本会に教育委員若干名を置く。

2 教育委員は理事会において会員中よりこれを選任しその任期は二カ年とする。

3 教育委員は育英上重要な事項を審議する。

第四条 本会に産業振興委員若干名を置く。

2 前条第2項の規定は産業振興委員に準用する。

3 産業振興委員は産業振興上重要な事項を審議する。

第五条 この法人に相談役を置くことができる。

2 相談役は、会員のうちから理事会の議決を経て総会において推挙する。

3 相談役は、この法人の重要事項について会長の諮問に応ずる。

第六条 会員の年会費は毎年七月末日までに納入するものとする。

2 会員それぞれの年会費は次のとおりとする。

正会員

七千円

賛助会員（個人）

三千円

賛助会員（団体） 一万円以上

第七条 新たに会員になろうとする者は本会員の紹介により書面を以て入会の申込をしなければならない。

第八条 地方支部役員の名称選定方法並びに任期は各支部の適宜としてこの規則は会長の承認を得なければな

らない。

附 則

1 この規則は昭和四十八年二月八日から施行する。

改正附則

1 改正後の規定は、平成十五年六月二十一日から施行する。

1 改正後の規定は、平成十八年六月十七日から施行する。

1 この定款細則は、一般社団法人及び一般財団法人に關する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第一〇六条第一項に定める公益法人の設立の登記の日（平成二十五年七月一日）から施行する。

1 改正後の規定は、平成二十五年八月二十六日から施行する。

会員規程

（目的）

第一条 この規程は、公益社団法人米沢有為会（以下「本会」という。）定款（以下「定款」という。）第三章（会員）に定める規定に基づき、本会の会員に關して必要な事項を定め、会員の身分の安定を図ることを目的とする。

（入会の手続）

第二条 本会の会員として入会しようとする個人又は団体（法人格の有無を問わない。）に対しては、入会申込書（別紙第1号様式）による入会申込書の提出を求めることとする。

2 前項の入会申し込みに対しては、理事会において入会の可否を決定し、これを入会決定通知書（別紙第2号様式）により申込者に通知しなければならない。

3 前項の入会の可否の決定に際しては、いかなる不当に差別的な取扱いをする条件その他の不当な条件を付してはならない。

(会員名簿及び個人会員に関する情報の取扱い)

第三条 入会者は、会員の種別毎に、本会の会員名簿に登録する。

2 前項の入会申込書に記載した主要事項に変更があった場合は、当該会員から、会員情報変更届(別紙第3号様式)の提出を求める。

3 会員名簿に登録された個人会員に関する情報については、その公開の可否及び公開の範囲について、本人の意向を十分尊重し、慎重に取り扱わねばならない。

(会費)

第四条 定款第八条に規定する会費の額は、別に理事会が定める。

2 学生である会員の会費は、正会員の半額とする。

3 前2号に規定する会員の会費額の二〇〇分の五〇以上は、公益目的の事業に使用する。

(会費の納入)

第五条 会費は前納とし、会員は、毎事業年度、七月末日までに、会費年額的全額を納付しなければならない。

2 事業年度中途に入会した会員の当該事業年度の会

費は、入会承認月が上半期(四月から九月まで)の場合は年額的全額とし、下半期(十月から翌年三月まで)の場合は年額の半額とする。

3 会長は、前2項の会費を収納したときは、領収書を交付しなければならない。ただし、会費が金融機関からの振込の方法により納入された場合には、領収書の交付はしないものとする。

4 会費が納入されたときは、直ちに会費台帳(電磁的記録によるものも含む)(別紙第4号様式)に記載しなければならない。

5 既納の会費は、その理由の如何を問わず、これを返還しない。

(退会等の手続)

第六条 会員が退会しようとするときは、退会届(別紙第5号様式)を会長に提出しなければならない。

2 会長は、前項の退会届が提出されたことを理事会に報告し、会員名簿から当該会員の登録を抹消する。

3 定款第一〇条の規定に基づいて会員が除名された場合、又は定款第一一条の規定に基づいて会員が資格を喪失した場合は、会員名簿から当該会員の登録を抹消

する。

4 前2項においては、会員名簿から当該会員の登録を抹消するが、任意退会、除名又は会員資格の喪失の理由の別を記録として保存するものとする。

(退会会員の義務等)

第七条 会員が年度の途中において退会するとき、その会員であった期間に相当する未納会費を納入しなければならぬ。

2 前項の規定は、定款第一〇条の規定に基づいて会員が除名された場合、又は定款第一一条の規定に基づいて会員が資格を喪失した場合においても同様とする。

(再入会)

第八条 第六条の規定による退会者等が再入会を希望する場合には、その理由を記した説明書と共に、改めて第2条に定める入会申込書の提出を求めるところ。

2 前項の再入会申込に対しては、第二条に定める基準により、理事会において再入会の可否を決定し、これを申込者に通知する。ただし、退会の際未納の会費が

ある場合には、当該未納分を支払わない限り、再入会は認めない。

(会員の異動に関する通知)

第九条 会長は、第二条第2項の規定に基づき新会員の入会を決定したとき、若しくは会員の退会、除名又は会員資格の喪失があったときは、当該会員の異動について、本会が発行する機関誌等に掲載するなど適宜の方法により通知しなければならない。

(改廃)

第一〇条 この規則の改廃は、理事会の決議を経て、総会の決議をもって行う。

附 則 (平成二十三年六月二十五日総会決議)

1 この規程は、公益社団法人米沢有為会の設立登記のあった日(平成二十五年七月一日)から施行する。

2 この規程の施行に関し必要な事項は、会長が別に定める。

別紙第1号様式（入会申込書）

※入会申込書に記載する主要事項

1 正会員

- (1) 入会に際しての誓約
（例文）「入会の上は、貴法人の定款及び諸規程等を遵守し、総会及び理事会の決定に従います。」
- (2) 氏名、生年月日、性別、自宅住所、電話・
Fax・メールアドレス
- (3) 勤務先名称、所属部署・役職名、住所、電話・
Fax・メールアドレス
- (4) 最終学歴、主要職歴
- (5) 会費請求書及び資料等の送付先
- (6) 個人賛助会員の申込みの有（口数）無
- (7) 個人情報公開についての同意・不同意の確認
― 会誌・会員名簿等での公表とその範囲
（氏名、勤務先）
― 勤務先からの問合せがあった場合（氏名、
会員種別、入会日）
- 2 個人賛助会員及び法人賛助会員
(1) 入会に際しての誓約（上記1の(1)と同じ）

別紙第2号様式（入会決定通知書）

- (2) 個人又は法人（団体）名、所在地、代表電話・
Fax・メールアドレス
- (3) 代表者氏名、役職
- (4) 事務連絡者（氏名、所属部署、役職名、電話・
Fax・メールアドレス）
- (5) 会費請求書及び資料等の送付先
年会費額
- (6)

公益社団法人米沢有為会入会決定通知書

貴殿（貴社）は、本会の正会員（個人賛助会員、法人賛助会員）として、入会が認められたので通知します。

平成 年 月 日

公益社団法人米沢有為会会長

氏名（法人名・代表者名）

殿

※初回の会費納入についての案内を注記

（注）入会が認められなかった場合も本様式に準じて
通知書を作成すること。

別紙第3号様式（会員情報変更届）

※別紙第1号様式（入会申込書）に対応

別紙第4号様式（会費台帳）

別紙第5号様式（退会届）

公益社団法人米沢有為会 会員退会届

私（弊社）は、貴会の正会員（個人賛助会員、法人賛助会員）を退会するのでお届けします。

退会予定期日 平成 年 月 日

平成 年 月 日

氏名（法人名・代表者名）

公益社団法人米沢有為会会長 殿



役員選考規程

- 第一条 本会定款第二一条および第二二条に定める本会役員の選考は、この規程の定めるところによる。
- 第二条 本会役員は正会員より選出する。
- 第三条 本会役員選考のために役員選考委員会（以下「委員会」という。）を置く。
- 第四条 委員会は、会長が推薦する理事三名、東京支部および米沢支部が推薦する理事各二名の七名をもって構成する。
- 2 会長および副会長は、委員会の委員にならない。
- 3 委員会の委員が会長および副会長の候補者となった場合には、当該委員は選考に加わらない。
- 第五条 委員会の委員の任期は、理事会の決議により選出された時に始まり、選考した候補者の役員就任をもって終了する。
- 第六条 委員会の委員長は、委員の互選により選出する。
- 第七条 委員会は、次の業務を行う。
 - (1) 総会に推薦する理事および監事の候補者を選考し、理事会に提案すること。

(2) 理事の中から、会長および副会長の候補者を選考し、理事会に推薦すること。

第八条 会員は、活動所信を添えて委員会の委員長に届け出ることにより理事または監事に立候補することが出来る。

第九条 会長および理事は、推薦理由を添えて適当と思う候補者を委員会の委員長に届け出ることにより推薦することが出来る。

第一〇条 本規程の改廃は、理事会が行う。

附 則

1 本規程は、平成二十二年十月二十四日から施行する。

改正附則（平成二十四年一月十二日 理事会決議）

1 改正後の本規程は、公益社団法人米沢有為会の設立登記のあった日（平成二十五年七月一日）から施行する。

役員等の報酬等及び費用に関する規程

（目的）

第一条 この規程は、公益社団法人米沢有為会定款（以下「定款」という。）第二九条、第三〇条第三項及び第三一條第五項の規定に基づき、公益社団法人米沢有為会（以下「本法人」という。）の役員等に対する報酬等の支給及び費用の支払いの基準について定めることを目的とする。

（定義）

第二条 この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

(1) 役員等とは、理事（代表理事を含む。）及び監事並びに名誉会長及び諮問委員をいう。

(2) 報酬等とは、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律（以下「認定法」という。）第五条第13号で定める報酬、賞与その他の職務遂行の対価として受ける財産上の利益及び退職手当であつて、その名称のいかんを問わない。費用とは明確に区分されるものとする。

(3) 費用とは、職務の遂行に伴い発生する交通費、通勤費、旅費（宿泊費含む）、手数料等の経費をいう。報酬等とは明確に区分されるものとする。

(役員等の報酬等の支給)

第三条 本法人の役員等に対しては、定款第二十九条、第三〇条第3項及び第三十一条第5項の規定に基づき、報酬等を支給しない。

2 本法人の役員等が本法人の職員を兼務する場合は、当該役員等に職員給与を支給する。この場合の給与の額は、理事会で決定する。

(費用の支払い)

第四条 本法人は、役員等がその職務の執行に当たって負担した費用については、これを請求のあった日から遅滞なく支払うものとし、また、前払いを要するものについては前もって支払うものとする。

2 費用の支払いの細則については、会長が理事会の承認を得て、別に定める。

(改廃)

第五条 この規程の改廃は、総会の決議を経て行う。

附 則（平成二十四年六月三十日 総会決議）

1 この規程は、本法人の設立の登記の日（平成二十五年七月一日）から施行する。

奨学金貸与規則

第一条 この規則は、公益社団法人米沢有為会（以下「本会」という。）定款第五条に規定する学資の貸与（以下「貸費」という。）に必要な事項を定めることを目的とする。

第二条 貸与は無利子とし、貸費は、左の各号に該当するものに対して、これを行う。

(1) 置賜地方（米沢市、長井市及び南陽市並びに高畠町、川西町、小国町、白鷹町及び飯豊町）の在住者並びに出身者の子弟であつて、大学又は大学院に在学するもの

(2) 身体強健、学術優秀、品行方正であるもの

(3) 経済的理由により、修学困難であるもの

第三条 貸費は月額四万円とし、大学又は大学院卒業の月まで、これを行う。

第四条 本会の貸費生は、置賜地方所在高等学校校長より、貸費希望者の推薦を求め、その推薦された者のなかから、奨学金担当理事及び教育委員の選考を経て、毎年三月末までに理事会で決定する。

2 置賜地方以外に所在する高等学校校長より推薦された場合又は大学院進学者で、貸費を希望する場合は前項に準じて取扱う。

第五条 前条の推薦者には、左の書類を添付しなければならない。

- (1) 本人及び保証人連署の貸費願書
- (2) 本人及び保証人連署の家計調書
- (3) 学習成績及び資質素行に関する推薦校の調書
- (4) 健康診断書
- (5) 写真
- (6) その他本会の指定する書類

第六条 貸費の決定通知を受けた者は、速やかに連帯保証人二人を定め、本会所定の奨学金貸与契約書を提出しなければならない。

2 連帯保証人のうち一人は奨学金の貸与を受けようとする者の保護者（保護者のいない場合にあつては、これに準ずる者を含む）であり、他の一人は奨学金の貸

与を受けようとする者が属する世帯以外の世帯に属する者であることとする。

第七条 貸費生は、左の場合には、速やかにこれを本会に届出なければならない

- (1) 病氣その他の事情により、廃学しようとするとき
- (2) 病氣その他の事情により、休学しようとするとき
- (3) 都合により、修学学校又は修学学部を変更しようとするとき
- (4) 進級しなかつたとき
- (5) 大学院に入り又は他学部に進学しようとするとき
- (6) 卒業したとき
- (7) 転居したとき

第八条 前条第1号の場合には、貸費を停止する。

2 前条第2号乃至第四条の場合には、本会において、その事情を調査し、貸費を中止、又は理事会の議を経て、貸費を停止することがある。

3 第2項の規定により、貸費を停止された者は、本会の指定に従つて、既に貸与を受けた金額を返還しなければならない。

第九条 左（下）の各号の一(1)に該当する場合において

は、本会は、理事会の議を経て、貸費を停止し、既に貸与した金額は、これを一時に返還させる。

- (1) 理由の如何を問わず退学を命ぜられたとき
- (2) 性行不良なりと認めるとき
- (3) 勉強を怠り、成業の見込ないと認めるとき
- (4) 故意に第7条の届出を怠ったとき

第一〇条 貸費を受けた者は、大学又は大学院卒業時に連帯保証人との連名による奨学金返済予定表を提出し、卒業の翌月より、月額一万五千円を、本会に返還しなければならない。

2 貸費を受けた者が、大学卒業後、更に大学院・他学部に学士入学又は大学院卒業後他学部に入學し、或は未就職又は病気のため、前項の返還が、著しく困難な場合は、この願出により、返還の期限を猶予することがある。

第一一条 貸費の返還を怠った場合は、理事会の議を経一時に全額を返還させることがある。

第一二条 貸費を受けた者は、その返還義務を終るまで、就職、転職、転居など重要な消息は、その都度速やかに、本会に届出なければならない。

第一三条 保証人が転居し又は保証能力に著しい変化を生じたときは、本人と連署して、速やかに届け出なければならぬ。

2 保証人が死亡したとき又は本会より保証人変更の要求のあったときは、速やかに新保証人を定め、連署して届出なければならない。

3 前項の届出を怠った場合は、その届出があるまで、貸費を中止することがある。

第一四条 貸費を受けた者が死亡した場合は、心身の障害により、返還が著しく困難となった場合は、本人又は保証人の願出により、理事会の議を経て、返還義務の全部又は一部を免除することがある。

附 則

1 この規則は、年 月 日から施行する。

平成元年四月十七日一部改正

平成十一年四月二十日一部改正

改正附則（平成二十四年一月十二日 理事会決議）

1 改正後の規則は、公益社団法人米沢有為会の設立登記のあった日（平成二十五年七月一日）から施行する。

改正附則（平成二十六年三月二十九日一部改訂）

1 改正後の規則は平成二十六年四月一日から施行する。

学生寄宿舎規則

第一条 公益社団法人米沢有為会（以下「本会」という。）

が、本会定款第五条によつて設置した学生寄宿舎は、

「米沢有為会（所在地名）興讓館」と称する。

第二条 学生寄宿舎に次の役員をおく。また、名誉館長、副館長をおくことができる。

(1) 館長 1名

(2) 委員 若干名

第三条 館長及び副館長は理事会において選出し、本会会長がこれを委嘱する。

2 名誉館長は、理事会の議決を経て、本会会長がこれを推挙する。

3 委員は、舎生から互選され、館長の承認を得て定められる。

第四条 館長は、舎生の監督及び指導にあたり、また寄宿舎に関する一切の事務を管理する。

2 副館長は館長を補佐し、必要なときにはその職務を代行する。

3 委員は各地興讓館規則の定める事務を行う。

第五条 寄宿舎に入居を願ひ出るものは当該興讓館館長宛に次の書類を提出しなければならない。

(1) 入寮願書

(2) 学業に関する証明書

(3) 身体に関する証明書

(4) 履歴書

第六条 入舎の許否は館長が決定する。

第七条 舎生は入舎の際二名の連帯保証人連署の上書面をもつて舎生としての宣誓をしなければならない。

2 前項にかかげる保証人の中の一名は保護者、他の一名は原則として寄宿舎所在地在住の者で、いずれも本会会員でなければならない。

第八条 舎生が、退舎する場合は当該館長宛に退舎届を提出し承認を得なければならない。

第九条 舎生が、本会の体面を汚したとき、学生の本分から逸脱する行動あると認められるとき、規則に違反したとき又は舎生費及びその他の経費の滞納が二カ月に及ぶときは、館長はこれに退舎を命ずることができる。

第一〇条 各地興讓館に関する規則は、各支部理事会において決議し本会会長の承認を受けてこれを施行するものとする。

附 則

1 この規則は昭和四十二年四月二十八日から施行する。

改正附則（平成二十四年一月十二日理事会決定）

1 改正後の規則は、公益社団法人米沢有為会の設立登記のあった日（平成二十五年七月一日）から施行する。

我妻榮記念館管理運営規則

第一条 公益社団法人米沢有為会が、文化勲章受章者、米沢市名誉市民である民法学者我妻榮の生家を保存し、関係資料等を展示し、広く一般に公開するために設置した記念館の管理運営についてはこの規則の定めるところによる。

第二条 記念館の名称及び所在地は次のとおりとする。

- (1) 名 称 我妻榮記念館
- (2) 所在地 山形県米沢市中央三丁目四番三八号

第三条 我妻榮記念館（以下「記念館」という）は第一条の設置の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 記念館の整備保存に関すること。
- (2) 資料等の展示公開に関すること。
- (3) 資料等の整理保存に関すること。
- (4) 学校、研究所、図書館、司法機関等と連携協力すること。
- (5) 広報その他目的達成に必要なこと。

第四条 記念館に名誉館長、館長その他の職員を置く。
2 名誉館長及び館長は会長が委嘱し、その他の職員は館長が委嘱する。

第五条 記念館に運営委員会を置く。

2 委員の数は五名～八名とする。

3 委員の任期は二年とする。ただし再任を妨げない。

4 補欠の委員の任期は前任者の残余期間とする。

第六条 記念館の運営経費は会費、寄付金、補助金、助成金、その他の収入をもって充てる。

2 会計年度は四月一日から翌年三月三十一日までとする。

第七条 この規則の施行に必要な事項は館長が別に定める。

附 則

- 1 我妻榮記念館の開館は平成四年六月十九日とする。
- 2 この規則は平成十八年五月十二日から施行する。

改正附則（平成二十四年一月十二日 理事会決定）

- 1 改正後の規則は、公益社団法人米沢有為会の設立登記のあった日（平成二十五年七月一日）から施行する。

表彰規則

（目 的）

第一条 この規則は、公益社団法人米沢有為会（以下「本会」という。）が定款第五条に定める事業を遂行するために「表彰」を行う場合に必要な事項を定める。

（表彰の種類）

第二条 本会が行う表彰の種類は次の通りとする。

- (1) 教育文化功労者表彰
- (2) 産業功労者表彰
- (3) 特別顕彰
- (4) 高等学校卒業生表彰

（表彰の対象者）

第三条 表彰の対象者は次の通りとする。

- (1) 教育文化功労者表彰

置賜地方（米沢市、長井市及び南陽市並びに高島町、川西町、小国町、白鷹町及び飯豊町をいう、以下同じ）の教育振興に特段の功労があった個人又は団体

- (2) 産業功労者表彰

置賜地方の産業振興に特段の功労があった個人又は団体

- (3) 特別顕彰

置賜地方の学生、生徒がスポーツその他の分野で全国的な活躍をするなど特に功績の顕著だったもの

- (4) 高等学校卒業生表彰

置賜地方の高等学校の当年度卒業生のうち、学業成績、課外活動、自治会活動、品行等を総合的に判断し、他の模範となる者

（表彰の時期）

第四条 教育文化功労者表彰、産業功労者表彰及び特別

顕彰は当会の定時総会の折、高等学校卒業生表彰は各

高等学校の卒業式又はそれに準ずる会合の折にこれを行う。

(表彰の名義)

第五条 表彰の名義は名誉会長及び会長名とする。

(表彰の決定)

第六条 教育文化功労者表彰、産業功労者表彰及び特別顕彰については米沢支部長の推薦を、高等学校卒業生表彰については学校長の推薦を受けて理事会がこれを決定する。

(表彰の方法)

第七条 表彰は、表彰状及び記念品を贈呈してこれを行う。

附 則

1 この規則は平成九年四月十四日より施行する。

改正附則(平成二十四年一月十二日 理事会決定)

1 改正後の規則は、公益社団法人米沢有為会の設立登記のあった日(平成二十五年七月一日)から施行する。

米沢有為会からお願い

会員募集と広告掲載について、会員の皆様のご協力をお願いいたします。会員については各支部とも高齢化が進んでおり世代交代が進んでいませぬので、新たな会員の募集をお願いいたします。

正 会 員 年会費 七、〇〇〇円

賛助会員個人 年会費 三、〇〇〇円

賛助会員法人 年会費 一〇、〇〇〇円 以上です。

よろしくお願いいたします。

また広告の掲載ですが

A五版一ページ二万円、半ページ一万円です。各支部長、事務局に連絡くださるようお願いいたします。

☆各支部におかれましては財源確保にご協力お願いいたします。

☆広告掲載法人の皆様には、当会事業の折PRすることできますので、チラシなどご提供いただければ対応いたします。

本部・各支部事務所等所在地

本 部

〒182-0004

東京都調布市入間町二丁目三六番地
東京興讓館内

電・FAX (03)(3330)9330

ホームページ (<http://www.yonezawa-yunkai.org/>)

東 京 支 部

〒182-0004

東京都調布市入間町二丁目三六番地
東京興讓館内

電・FAX (03)(3330)9330

米 沢 支 部

〒992-1850

山形県米沢市金池五丁目二ノ二五
米沢市役所内 秘書広報課内

電 (0338)(22)5111 FAX (0338)(22)5541

仙 台 支 部

〒980-0874

宮城県仙台市青葉区角五郎二一六一二一
仙台興讓館内

電・FAX (022)(22)4790

北 海 道 支 部

〒060-0061

北海道札幌市中央区南一条西八丁目 T.G.札幌ビル7F
(株)日建社内 田村邦夫

電 (011)(271)2585

米沢有為会設置施設

東京興讓館 〒182-0004 東京都調布市入間町1-36
電・FAX (03)(3309)3302

仙台興讓館 〒980-0874 宮城県仙台市青葉区角五郎2-6-21
電・FAX (022)(222)4790

我妻榮記念館 〒992-0045 山形県米沢市中央3-4-38
電・FAX (0238)(24)2211

HPアドレス <http://www.wagatumasakae.com/>

後記

▼今年も暑い日が続いた。台風十号が東北北海道を直撃との予報に山形県では小学校が休校となった。台風は太平洋に抜けたがまた戻るといった異常予報である。山形県は影響なかったが岩手青森北海道が災害にあった。

▼ブラジルリオデジャネイロオリンピックで盛り上がった。時差十二時間で午後の大회가日中見られたが、見ていると興奮して仕事がかどらない。メダルも最多となった。四年後の東京五輪もつとファイバーするんでしょね。

▼今年のは月の輪クマの被害が多発している。クマの習性は朝型という。高齢者も朝型ですの
で、クマと同じ場所に出かける率が多いと聞く。それに山のクスギの実とかナラの実が不作のため里や住宅まで下りてくるという。そういえば春に雪が降ったことで柿の実も今年は少ないとのこと。

▼文化大学も年々充実してきています。今年にはトルコのイスタンブール大学のジラルデツリ青木美由紀先生の伊東忠太オスマン帝国をゆく講演が盛り上がりました。七月十日には米沢図書館新館記念講演もいただきました。今後は御著書も英訳版にして世界に発信したいとお聞きしました。ご活躍を祈ります。

▼本会も間もなく設立一三〇周年を迎えます。青少年育英団体としては全国まれであり、その活動も時代に沿った対応が求められてきます。記念事業なども含み皆さんからも提案お寄せください。

(文化広報部長 梅津幸保)

置賜地区の自治体所在地

米沢市

〒992-8501 米沢市金池五丁目2番25号 ☎0238-22-5111

長井市

〒993-8601 長井市ままの上5番1号 ☎0238-84-2111

南陽市

〒999-2292 南陽市三間通436番地の1 ☎0238-40-3211

高畠町

〒992-0392 高畠町大字高畠436番地 ☎0238-52-1111

川西町

〒999-0193 川西町大字上小松1567番地 ☎0238-42-2111

小国町

〒999-1363 小国町大字小国小坂町二丁目70番地 ☎0238-62-2111

白鷹町

〒992-0892 白鷹町大字荒砥甲833番地 ☎0238-85-2111

飯豊町

〒999-0696 飯豊町大字椿2888番地 ☎0238-72-2111

発行日	平成二十八年十月十五日
編集担当	文化広報部
部長	梅津幸保
発行	公益社団法人米沢有為会
会長	須貝英雄

有限会社 アルックス

☎03-3990-6289

代表取締役 宮坂 孝夫（昭41 興譲館卒）

東京都練馬区貫井2丁目16番13号

全国のコンビニで初めて
ファミリーマートの店頭で印刷が頼めます。



封筒印刷、チラシ、社内資料、名刺、広報誌、DM、ポスター
印刷物のご相談なら、気軽に親切な「コンビニ印刷屋」へ

あなたと、コンビニに、

FamilyMart

- 富士見台駅前店 練馬区貫井3-10-8
※西武池袋線富士見台駅前
- 貫井町店 練馬区貫井2-16-13
※富士見台駅から5分

御祝宴や御法宴、お友達とのご会食に



上杉記念館

上杉伯爵邸

米沢市丸の内1-3-60
電話：0238-21-5121

クリーンな空間と安心をクリエイトする



総合ビル管理(警備・清掃・設備管理)



株式会社
エービーエム

本社

〒992-0003

南陽営業所

〒992-0472

山形県米沢市窪田町窪田584-2

☎0238(37)5733・FAX 0238(37)2822

山形県南陽市宮内4641

☎0238(47)6511・FAX 0238(47)6523

漬物はやっぱり 雪国の米沢のが一番

一度あがってみてください!!

創業50年の専門店 窪田の後藤商店



お申し込みは最寄りの取り扱い店または当店まで
自然の味をそのまま手づくり

◎宅配便でお届けします。(関東方面648円)
(送料は別途申し受けます)

お支払いは代金引替、郵便振替等で

有限
会社 **後藤商店**

〒992-0003 山形県米沢市窪田町窪田413-3

☎0238-37-5378(代)

FAX 0238-37-6345

http://www.marsho.jp

E-mail: info@marsho.jp

後藤喜彦 東京興譲館寮 平成12年卒

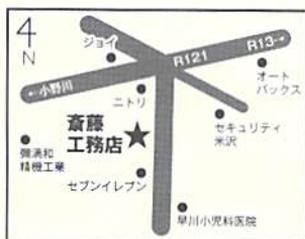
No.	規	格	価 格
A	おみ漬(8袋)		3,240円
B	青菜漬(8袋)		3,240円
C	おみ漬・青菜漬詰合(8袋)		3,240円
D	赤かぶ甘酢漬(8袋)		3,672円
E	おみ漬(3袋)青菜漬(3袋)赤かぶ(2袋)		3,348円

他にミックスにも応じます。
米沢では米沢駅2Fアスクでも販売しています。

日本の風土にあった家づくり 21世紀の長寿命健康木造住宅

有限会社 齋藤工務店

- ☆通気断熱WB工法（呼吸する家）
- ☆長期優良住宅（米沢市認定第1号）
- ☆新築・リフォーム エコポイント対応
- ☆アパート、貸家、土地建物売買仲介



建設業知事許可23第500129号
(公社)宅地建物取引業会会員
山形県知事許可(9)第1291号

〒992-0057 米沢市成島町1丁目7-17

TEL 0238-23-4905

FAX 0238-21-3159

割烹
志ん柳

個室3名様から100名様まで

〒992-0045 米沢市中央一丁目14-4

電話 0238-21-1234

株式会社 スリーウッド・プロデュース

テレビ番組企画制作・イベント各種
音楽出版・原盤制作・タレントプロデュース



所属アーティスト

大泉逸郎「鞍馬街道」(テイチク) 河北町
浜 博也「雪折れの宿」(テイチク) 飯豊町
奥山えいじ「旅の空」(テイチク) 尾花沢
(カラオケで唄ってください)

代表取締役 木村尚武
プロデューサー

〒168-0073 東京都杉並区下高井戸 1-25-10
デューク桜上水 507
PHONE 03 (5317) 4770
F A X 03 (5317) 4780

環境測定分析をとおして、
美しく豊かな自然の保護に力を尽くしています



計量証明事業登録

宮城県知事 第H7-001号(濃度)

仙台環境科学株式会社

代表取締役 加藤 啓二

〒980-0011

宮城県仙台市青葉区上杉三丁目3番17号

TEL (022) 263-1361

FAX (022) 263-1362

自願卒業生 (S, 47)



清酒 東光 醸造元

株式会社 小嶋 総本店

米沢市本町2丁目2番3号東町上通り

TEL 〇三三八 二二一 四八四八

フルーティー・芳醇なコク・後切れの良さ

三拍子揃った純米吟醸原酒



東光 純米吟醸原酒

2016 全米日本酒歓評会
金賞受賞

○お近くのお酒屋さんでお買い求めください。 ※お酒は20歳になってから

地元で愛されて44年。
皆様の「大切」を私たちの「大切」に。



東北警備保障株式会社

山形県公安委員会認定第6号
山形県米沢市アルカディア1丁目808-17
電話 0238-29-0005
FAX 0238-29-0015
URL <http://www.next-alert.co.jp>

- 営業品目
- ・機械警備
 - ・常駐警備
 - ・交通誘導業務
 - ・イベント警備（上杉まつり・花火大会など）
 - ・施設管理（米沢市総合公園 指定管理者など）
 - ・清掃業務（法人契約）

IPを使ったホームセキュリティシステム(最新式)導入！

TCT研究会代表

Translating / 技術翻訳 (科学技術翻訳士)
Consulting / 経営コンサルティング (日本経営士会)
Teaching / 学習指導 (塾講師)

株式会社 アイピーシーアイ
アソシエイト シニアテクニカルアドバイザー

須 貝 英 雄

(南陽市出身、米沢興譲館高校33年卒)
〒254-0913 神奈川県平塚市万田841-2
TEL/FAX 0463-31-3607 携帯電話 090-3694-7572
E-mail:h.sugai@me.scn-net.ne.jp
E-mail:h.sugai@ipci-front.com



とろけるお肉が自慢の
極どるカレー



伝統の味を守り続けて
百六十余年



赤ワインたっぷり
ビーフシチュー

鯉料理 &
スローフーズ

鯉の宮坂

米沢牛惣菜
地産創食

宮香本舗

みやこう
ほんぼ

株式会社 タスクフーズ
山形県米沢市相生町7-130

☎0120-25-7188
URL <http://www.koi-miyasaka.com>

日本ブックサービスはBOOKの倉庫です 3つの分野をベースにお客様のご要望にお応えします



保守管理業務

コンピューターによる商品在庫管理

入出庫発送業務

商品の納品、引き取り、国内外発送
宅急便・メール便でのダイレクト発送

改装・返品業務

文庫から上製本までの改装をスピーディーに対応

株式会社 日本ブックサービス

〔本社〕 〒359-0023 埼玉県所沢市東所沢和田3-7-2
TEL. 04-2944-9951(代) FAX. 04-2944-9960
URL <http://nihonbook.com>

日本橋小舟町

舟壽し

創業半世紀、日本橋小舟町で
培われた江戸前の技が活きる
お寿司・お刺身と共に四季折
々の御料理がご堪能いただけ
ます。お座敷はさまざま個室
、カウンター、テーブル席
もご用意いたしております。
大小ご宴会から御家族、ご友
人との御会食まで幅広くご利用
頂けます。

社長 深澤 和子

(米沢市出身・米沢東高校昭和26年卒)



TEL. 03-3661-4569 FAX. 03-3661-0568
〒103-0024 東京都中央区日本橋小舟町11-2
<http://r.gnavi.co.jp/funazushi>

【営業時間】 AM11:30~PM 2:30
PM 4:30~PM10:00
(PM9:30オーダーストップ)
(土曜日の夜は要予約)

【定休日】 日曜日、祝日、第四土曜日

※ 座敷は全席、椅子席になります





塩引寿し

米沢牛串焼き

玉こんにゃく

米沢ラーメン 全国唯一!!

うこきソフト

その他いろいろ

上杉城史苑すぐ隣り!

べに花庵

住所/〒992-0052 米沢市丸の内1-1-22

電話番号/0238-23-6310

営業時間/9:00から17:00まで 定休日/なし

10月17日(月)よりホテルサンルート米沢は ホテルモントビュー米沢に生まれ変わります。

ご宴会、ご会合は
おまかせ下さい。



ご予約
お問合せは



ホテル モントビュー 米沢

HOTEL MONTOVIEW YONEZAWA

〒992-0039 山形県米沢市門東町3-3-1

TEL 0238-22-6656 (法要宴担当)

家族を愛する

ママを応援する家。

住宅の新築

♥ ママ応援住宅

♥ 子育て世代応援住宅

建替え、二世帯住宅など



ママエール

リフォーム

水まわり工事など

小さな修繕から、増改築、

全面リフォーム(新築二世)まで

不動産

土地の売買や

中古住宅の売買のご相談など

LIXIL 不動産ショップ 本多建設

検索



株式会社

本多建設 0238-21-5100

〒992-0047 山形県米沢市徳町7-52

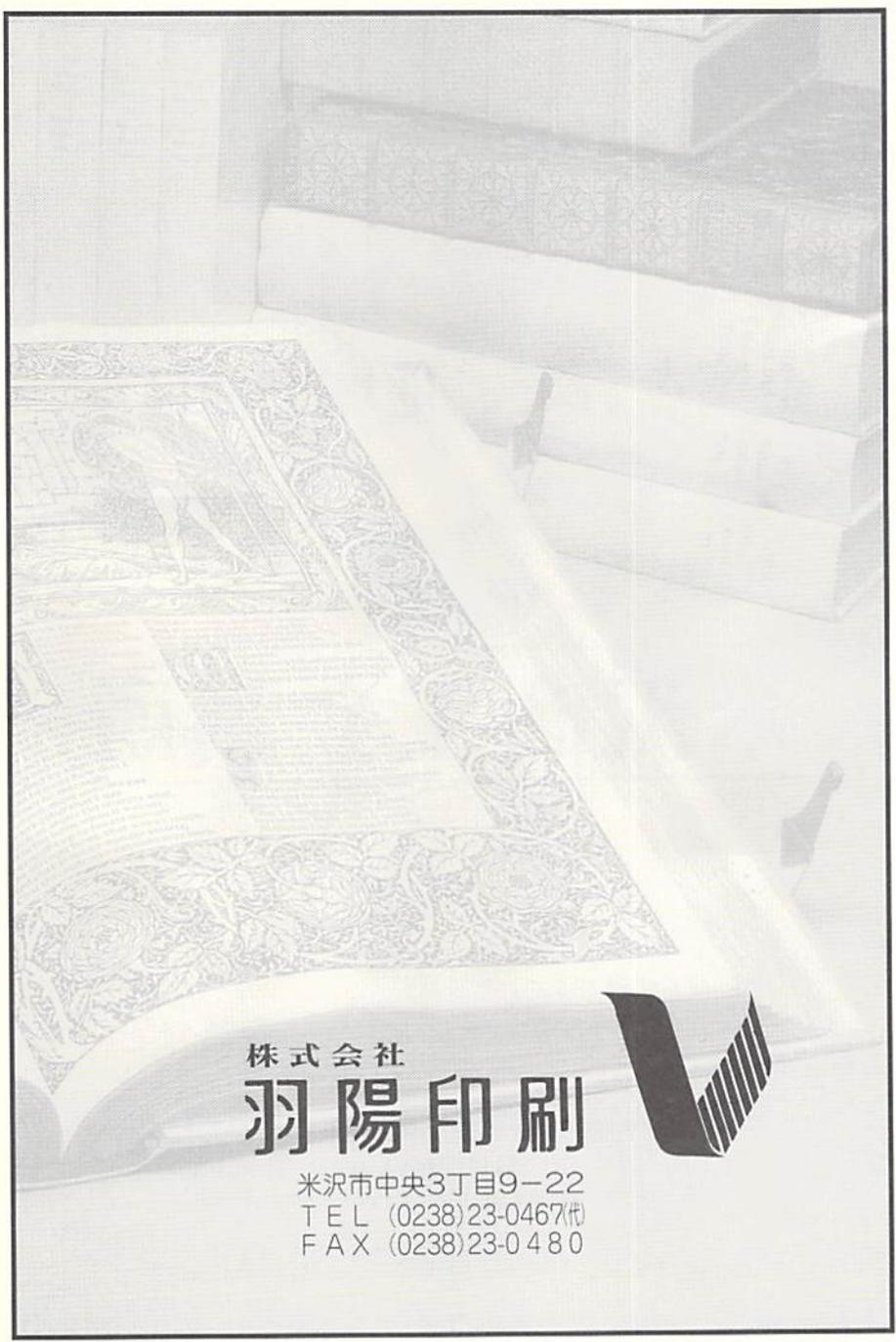
特定建設業許可番号:山形県知事許可(特-25)第500142号 / 一級建築士事務所登録:山形県知事登録(1604)第1715号 / 宅地建物取引業者免許番号:山形県知事(9)第1234号

おかげさまで創立90周年



米沢信用金庫

会長 種村 信次 山形県米沢市大町5丁目4番27号
理事長 加藤 秀明 TEL 0238-22-3435



株式会社

羽陽印刷



米沢市中央3丁目9-22
TEL (0238)23-0467代
FAX (0238)23-0480

企業を育て、地域を伸ばす



米沢商工会議所

YONEZAWA CHAMBER OF COMMERCE AND INDUSTRY

〒992-0045 米沢市中央4丁目1-30

TEL 0238-21-5111 FAX 0238-21-5116

URL:www.ycci.or.jp E-mail:yone-cci@ycci.or.jp

グルメからお土産まですべて揃う
米沢観光のキーステーション



ごきげん 食彩倶楽部

米沢牛をはじめ、
物産品が満載!!

- ご希望の方に上杉城史苑商品
カタログをお送りいたします。

<http://uesugijoshien.jp>



上杉城史苑

(株)上杉コーポレーション

〒992-0052 米沢市丸の内一丁目1-22

TEL.0238-23-0700 FAX.0238-21-8252

お客様の商売繁盛を
応援しています。

Kawashima Printing co.,ltd



株式
会社

川島印刷

〒992-0021 山形県米沢市大字花沢221-2
TEL 0238-21-5511 ・ FAX 0238-21-5514

川島印刷

←検索

ホームページに事例多数掲載中！

<http://kawa-prt.com/>



米沢のこと・印刷のこと
米沢グルメ情報など
ブログはコチラ
『川島夢便り』



My Style Wedding



☎でのお問い合わせは ☎ **0238-22-1238**

www.grand-hokuyo.com

グランドホクヨウ

山形県米沢市金池2丁目3-7/TEL: (0238)22-1238/FAX: (0238)21-1067

日本全国、ホルムアルデヒド退治の虎の巻。



タイガーハイクリンボードはシックハウス症候群の主な原因物質のホルムアルデヒドを吸収・分解するので、日本全国、安心家族の「虎の巻」です。

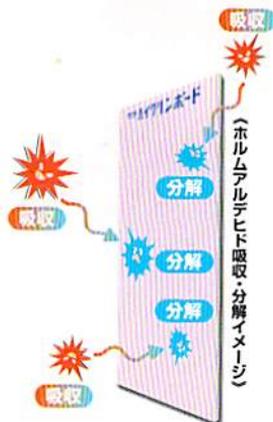
- ◎ 新築・リフォーム直後や新しい家具などから発生するホルムアルデヒドを短時間で吸収・分解します。
- ◎ 一定の条件下で厚生労働省指針値のホルムアルデヒド濃度0.08ppmを下回る0.05ppmの数値を実現しました。
- ◎ ハイクリンボードの「壁材」や「天井材」は物理的な吸着と異なり、ホルムアルデヒドを化学的に吸収・分解するため再放出されません。
- ◎ タバコの煙に含まれているアセトアルデヒドの低減効果も併せています。
- ◎ 不燃性、施工の容易性など、せっちょうボードの優れた性能をそのまま保持しています。

High-Clean Board

タイガーハイクリンボード

ホルムアルデヒド吸収・分解せっちょうボード

（注）日本建築センターから「室内空気環境改善効果のある壁・天井材」として認定されています。認定番号：YOSHINO-117



YOSHINO
安全で快適な住空間を創る **吉野石膏**

【本社】東京都千代田区丸の内3-3-1 新東京ビル 〒100-0005
<http://www.yoshino-gypsum.com/>

代表取締役社長 須藤 永作

明治22年12月14日創刊
昭和27年8月2日復刊
第66号
平成28年10月15日発行

発行 公益社団法人 米沢有為会 会長 須貝 英雄
編集 文化広報部長 梅津 幸保
東京調布市入間町1丁目3番地 電話・FAX 03-3309-3302
印刷 藤羽陽印刷 山形県米沢市中央3丁目9-22 電話 0238-23-0467